

はじめに

日本における高齢化は、その国際的動向からみても例をみないスピードで進行しています。高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数(倍化年数)は諸外国で、フランスが115年、また比較的短いドイツが40年となっていますが、日本においては昭和45年(1970年)に7%を超えると、そこからわずか24年で14%に達しています。さらに、2055年には日本の高齢化率が40.5%(約3,646万3,000人)に達すると推定されています。このような急激な高齢化に伴う社会変化に対応すべく、方策のひとつとして、高齢者が活動的な生活をいかにして長くすることができるか、また健康維持や介護予防への認識を高めるための、普及・啓発活動をどのように進めていくかを考えていくことが重要になっております。

静岡県総合健康センターでは、高齢者における健康寿命の延伸のための様々な情報収集・提供をしていますが、「静岡県における高齢者の生活実態調査」もそのひとつです。この調査は、「活動的余命と身体・心理・社会的要因の関連研究」として、静岡県、国立健康・栄養研究所と共同で、平成11年度から静岡県内74市町村から無作為に抽出した、約2万2千人の高齢者を対象に実施され、平成14年、17年及び20年に追跡調査を行い、計4回にわたり県内高齢者の身体状況、生活状況、生活満足度等の生活実態を明らかにしてきました。

本書「静岡県における高齢者の生活実態調査IX」は、過去4回にわたる調査にご回答いただいた方による情報に加え、平成20年度までの期間中に死亡が確認された方の情報も分析の対象に加えさせていただいた結果を取りまとめたものです。今回の結果をベースに、「活動的余命と身体・心理・社会的要因の関連研究」において更なる知見が得られるよう、今後も引き続き分析を行っていく必要があります。

本書が活用されることで、関係機関における高齢者の健康課題の把握や保健活動の推進等の一助となれば幸いです。

平成24年3月

静岡県総合健康センター
所長 小野寺 恭敬

≪ 目 次 ≫

<p>I 目的 …1</p> <p>II 方法</p> <p>1 調査客体と抽出の方法 …1</p> <p>2 調査方法 …2</p> <p>3 調査内容 …2</p> <p>4 調査時期 …2</p> <p>5 死亡小票を用いた追跡調査 …2</p> <p>6 倫理的配慮 …2</p> <p>7 集計及び分析方法 …3</p> <p>III 第1回調査結果 (生存者、死亡判明者)</p> <p>1 対象者の概要 …4</p> <p>2 治療状況 …5</p> <p>3 移動状況 …7</p> <p>4 視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響 …9</p> <p>5 健康診断の受診状況 …10</p> <p>6 健康に関する相談者 …11</p> <p>7 健康情報を得る機会 …13</p> <p>8 生活満足度</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 生活への満足 …15</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 健康観 …16</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 精神的健康 …20</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 精神的活力 …24</p> <p style="padding-left: 20px;">(5) 人的サポートへの満足 …27</p> <p style="padding-left: 20px;">(6) 経済的満足 …32</p> <p>9 社会活動</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 収入を得る仕事 …35</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 家事や家の作業など …36</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 地域での活動 …37</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 自分以外の人への用事や世話 …38</p> <p style="padding-left: 20px;">(5) 市民講座等の参加 …39</p> <p>10 生活活動力</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 一人で外出 …40</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 買い物 …41</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 食事の支度 …42</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 身の回りのこと …43</p>	<p style="padding-left: 20px;">(5) 金銭の管理 …44</p> <p style="padding-left: 20px;">(6) 宗教的な心 …45</p> <p style="padding-left: 20px;">(7) 生活リズム …46</p> <p style="padding-left: 20px;">(8) 趣味 …47</p> <p>11 睡眠状況</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 睡眠時間 …48</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 睡眠に関しての問題 …49</p> <p>12 身体活動</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 歩行 …51</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 歩く速さ …52</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 運動習慣 …53</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 作業 …54</p> <p>13 食事摂取状況</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 食事の回数 …55</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 肉・魚・大豆製品・卵の摂取 …56</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 野菜の摂取 …57</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 緑茶の飲用 …58</p> <p style="padding-left: 20px;">(5) 食欲 …59</p> <p>14 飲酒状況 …60</p> <p>15 喫煙状況 …61</p> <p>16 分析結果一覧 …62</p> <p>IV 生存者及び死亡判明者における調査結果 数値表 (第1~3回調査)</p> <p>1 対象者の概要 …64</p> <p>2 治療中の疾病 …65</p> <p>3 移動状況 …67</p> <p>4 視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響 …68</p> <p>5 健康診断の受診状況 …69</p> <p>6 健康に関する相談者 …70</p> <p>7 健康情報を得る機会 …72</p> <p>8 生活満足度 …73</p> <p>9 社会活動 …93</p> <p>10 生活活動力 …98</p> <p>11 睡眠状況 …106</p> <p>12 身体活動 …108</p> <p>13 食事摂取状況 …112</p> <p>14 飲酒状況 …117</p>
---	--

15 喫煙状況	…118
V 考察	
1 疾病、障害、健診受診状況、健康に関する 相談及び情報収集	…119
2 移動状況及び生活活動力	…120
3 生活満足度及び経済的状況	…121
4 ライフスタイル（身体活動、食事、睡眠等）	…122
5 社会活動及び学習的活動	…123
VI 終わりに	…124
VII 文献	…125
VIII 調査票	…126

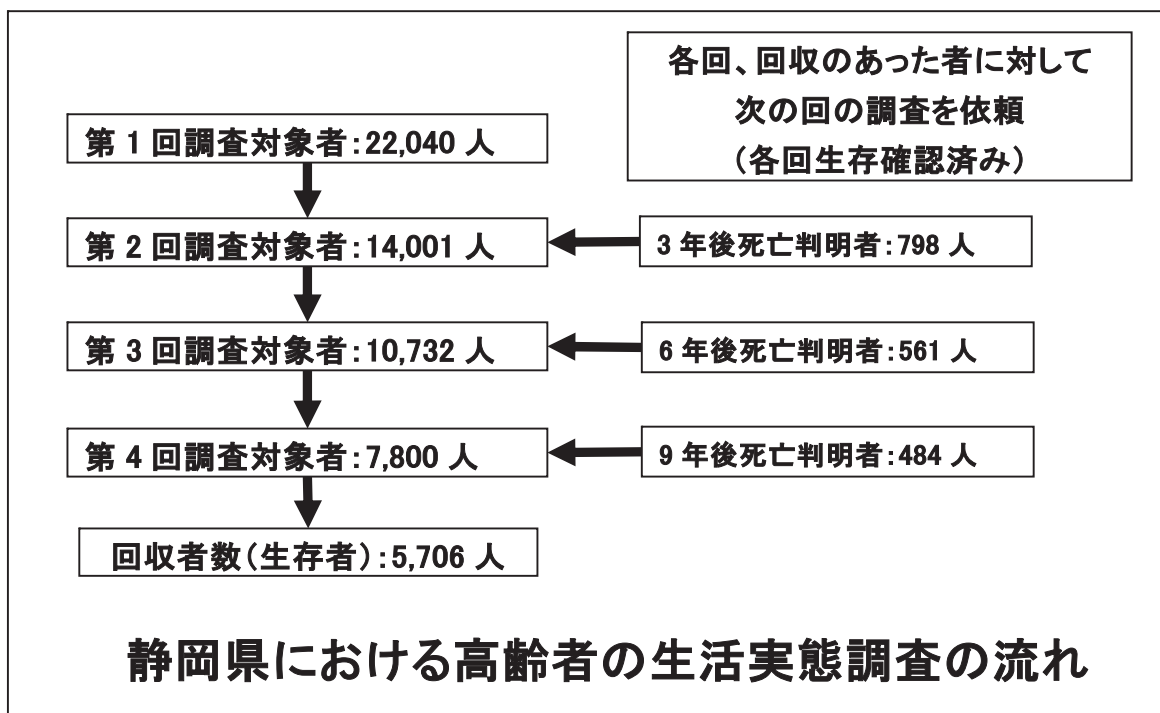
I 目的

平成 11 年から、10 年計画で 3 年ごとに「高齢者の生活実態調査」を縦断的に実施してきた。平成 17 年度調査（第 3 回調査）からは、介護保険認定状況の項目を追加し、分析を行った。この調査の目的は、高齢になっても活動的に生活するための要件を明らかにし、活動的余命をより長くするための支援方法を検討する資料づくりを行うことである。今回は、4 回の調査全ての回答協力が得られた者（生存者）及び 10 年間の調査期間中に死亡が確認された者の生活実態をそれぞれ集計し、生死状況ごとの集計結果を比較した。

II 方法

1 調査客体と抽出の方法

平成 11 年度、静岡県内の各市町の住民基本台帳より、男女別、年齢階層別（前期・後期）に 300 人ずつ無作為に抽出した高齢者 22,040 人に対して、10 年間の計画でコホートによる「高齢者の生活実態縦断調査」を実施した（第 1 回調査）。その後、平成 14 年度（第 2 回調査）、第 3 回調査、20 年度（第 4 回調査）に、同一の方法で調査を縦断的に実施した。第 2～4 回調査時に、家族等の申告により死亡が確認できた調査対象者は、死亡判明時期（調査開始から 3 年、6 年及び 9 年後）により、3 群に分類した。



2 調査方法

郵送による、記名自記式配票調査法

3 調査内容

静岡県における「高齢者の生活実態調査」の質問項目のうち、以下を今回の分析で使用した。

- (1) 基本情報（年齢、性別）
 - (2) 治療状況（治療中の疾病の有無）
 - (3) 移動状況
 - (4) 視聴覚・歯の障害による生活への影響
 - (5) 健康診断の受診状況、健康に関する相談及び健康情報の収集
 - (6) 生活満足度（生活への満足、健康観、精神的健康感、精神的活力、人的サポート満足）及び経済的状況（経済的満足を含む）
 - (7) 社会活動（仕事、地域活動、学習的活動等）
 - (8) 生活活動力
 - (9) 睡眠状況
 - (10) 身体活動状況
 - (11) 食事、緑茶摂取、飲酒及び喫煙状況
- (6)及び(7)は、太田他（2001）による「地域高齢者のための QOL 質問表」の内容に基づいて質問項目を作成した。

4 調査時期

平成 11 年 12 月 16 日～平成 21 年 1 月 31 日

5 死亡小票を用いた追跡調査

平成 23 年 8 月、厚生労働省へ死亡小票の統計調査票利用申請をし、死亡小票内にある性別、市区町村符号および生年月日を使用して、本調査における死亡判明者とのデータを結合させ、死亡判明者の死亡時期を把握した。その後、死亡小票情報をデータから切り離すことにより、匿名化を行った。なお、本調査における死亡判明者と死亡小票とのデータが結合できなかった者（追跡不可の者）に関しては、本報告書の対象者に含まれていない。

6 倫理的配慮

(1) 高齢者の生活実態調査

調査対象者個人には、プライバシーの保護および調査参加への任意性を保証するため、書面による依頼を行い、回収は個人単位で郵送による回収とした。

また、調査データの保管については、個人名はコード番号に変換してパソコン入力を行った。さらに、調査データと名簿（個人名、住所等が記載されたもの）とを、それぞれ鍵のかかる保管庫を使用して別々に管理した。

(2) 死亡小票を用いた追跡調査

死亡小票情報が転写された媒体は、(1)の調査データ及び名簿と同様、鍵のかかる保管庫にて保存した（申請使用期間終了後 6 か月後に、転写媒体を消去）。

また、(1)は平成 20 年度、(2)は平成 23 年度に、静岡県総合健康センター倫理審査委員会からの承認を得た。

7 集計及び分析方法

(1) 4 回の調査ですべて回答協力が得られた者（生存者）、第 1 回調査から 3・6・9 年後に死亡が判明した者（それぞれ 3 年後死亡判明者、6 年後死亡判明者及び 9 年後死亡判明者）、計 4 群の第 1 回調査のデータをクロス集計した。

次に、第 1 回調査における生活実態や生活満足度、疾患・障害の調査結果の分布が、その後の生存及び死亡によって異なっているかどうかを、 χ^2 検定で明らかにした。検定統計量及び有意確率は、「分析結果一覧」に示す。

なお、解析は統計ソフト SPSS Version16.0 を用いた。有意確率は、危険率 5%未満とした。

(2) 3 年後死亡判明者、6 年後死亡判明者及び 9 年後死亡判明者における調査結果の推移（各回調査ごと）を数値表に示した（生存者の第 1 回調査結果も併記した）。

Ⅲ 第 1 回調査結果 (生存者、死亡判明者)

1 対象者の概要

男性女性ともに、生存者では、前期高齢者数の比率が後期高齢者に比べて高かった。内訳（前期高齢者：後期高齢者）は、男性1,725人：986人（64：36）、女性1,928人：1,067人（64：36）。

第1回調査からの期間中における死亡判明者（3・6・9年後）に関しては、後期高齢者数の比率が前期高齢者に比べて高かった。内訳は以下のとおり。

9年後に死亡が判明した者 男性126人：188人（40：60）、女性61人：109人（36：64）

6年後に死亡が判明した者 男性116人：258人（31：69）、女性38人：149人（20：80）

3年後に死亡が判明した者 男性153人：399人（28：72）、女性64人：182人（26：74）

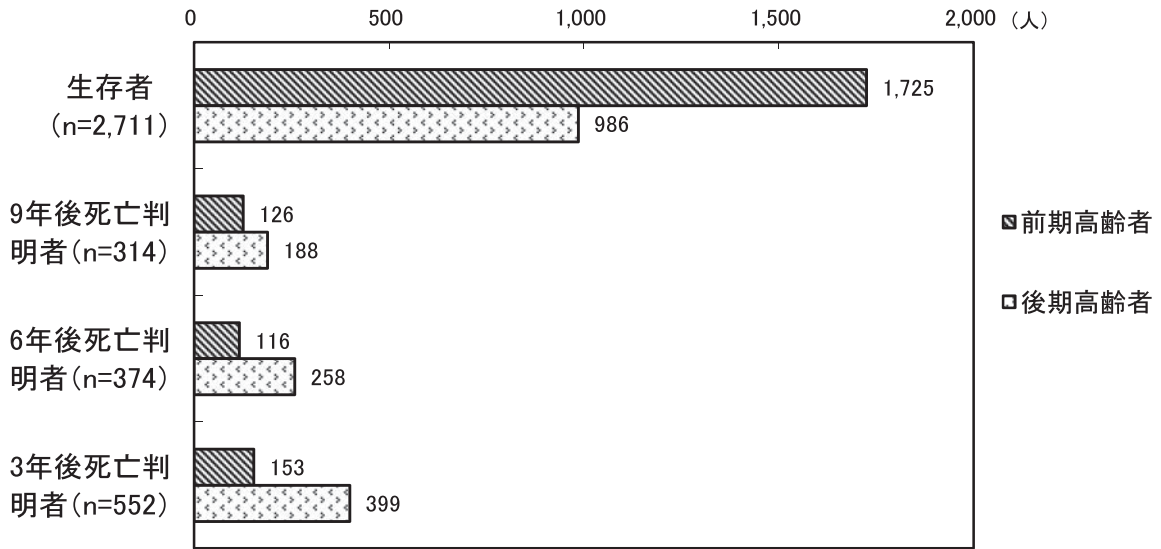


図1 前期・後期別対象者数の推移—男性

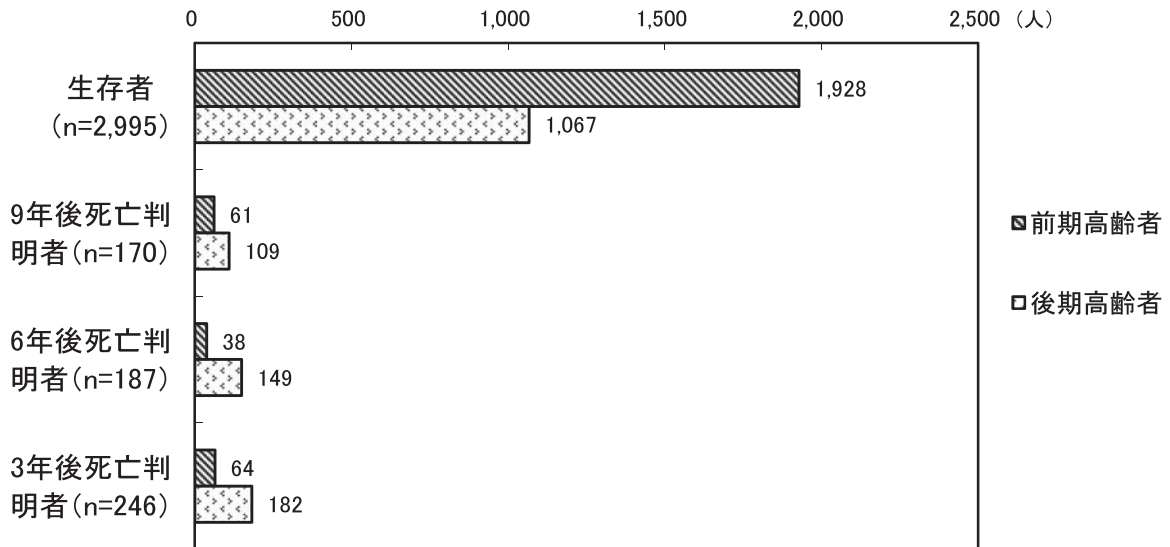


図2 前期・後期別対象者数の推移—女性

2 治療状況（複数回答）

＜治療中の疾病－男性＞

治療中の疾病なしと回答した者は、生存者801人(29.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者73人(23.2%)、6年後に死亡が判明した者63人(16.8%)、3年後に死亡が判明した者58人(10.5%)だった。

一方、治療中の疾病で最も多かったのは高血圧で、それぞれ生存者795人(29.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者81人(25.8%)、6年後に死亡が判明した者98人(26.2%)、3年後に死亡が判明した者156人(28.3%)という結果となった。

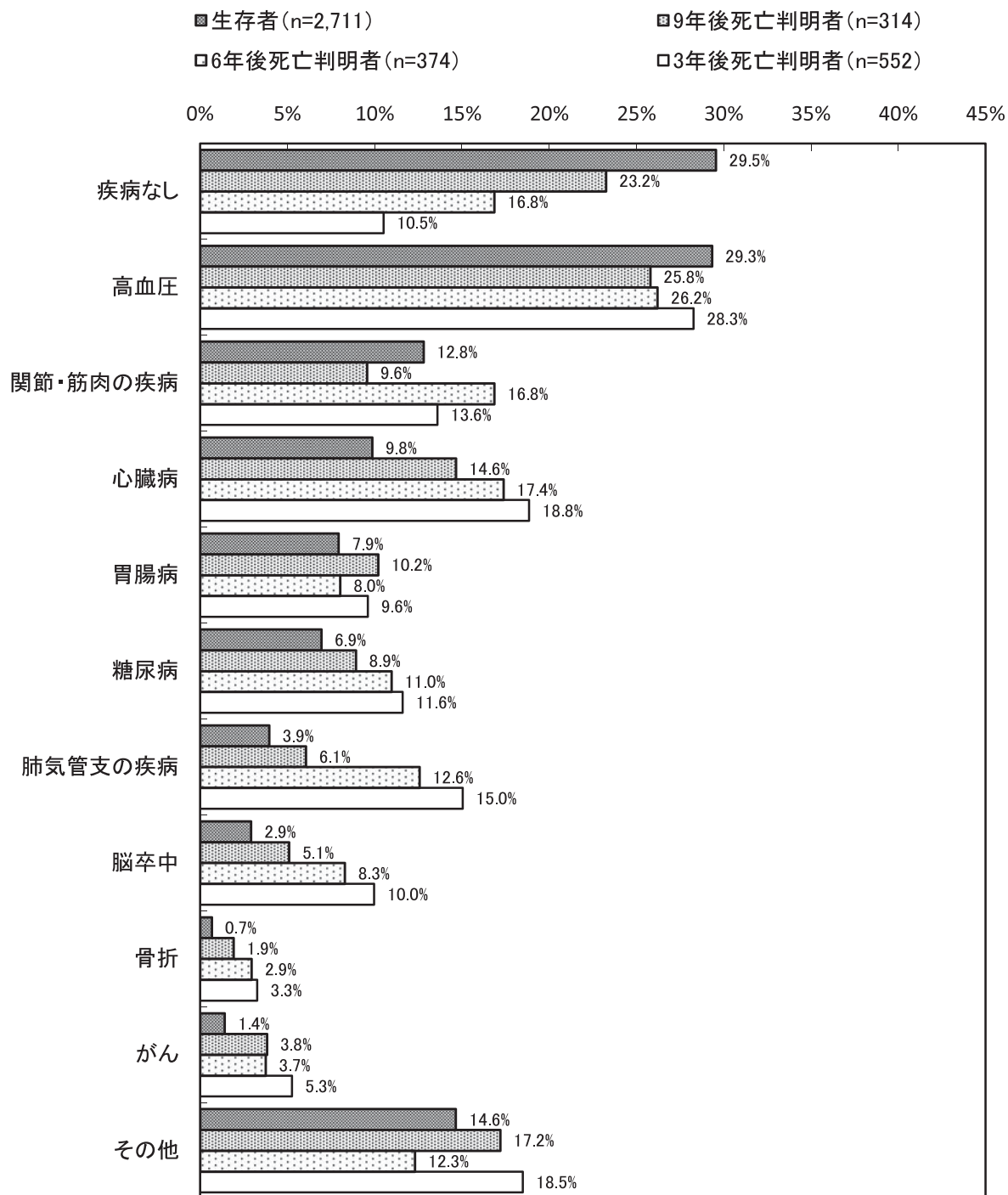


図3 治療中の疾病の内訳 男性

〈治療中の疾病－女性〉

治療中の疾病なしと回答した者は、生存者439人(14.7%)、第1回調査から9年後に死亡判明した者22人(12.9%)、6年後に死亡判明した者25人(13.4%)、3年後に死亡判明した者25人(10.2%)だった。

一方、治療中の疾病で最も多かったのは、男性と同様高血圧で、それぞれ生存者1,015人(33.9%)、第1回調査から9年後に死亡判明した者77人(45.3%)、6年後に死亡判明した者63人(33.7%)、3年後に死亡判明した者67人(27.2%)という結果となった。

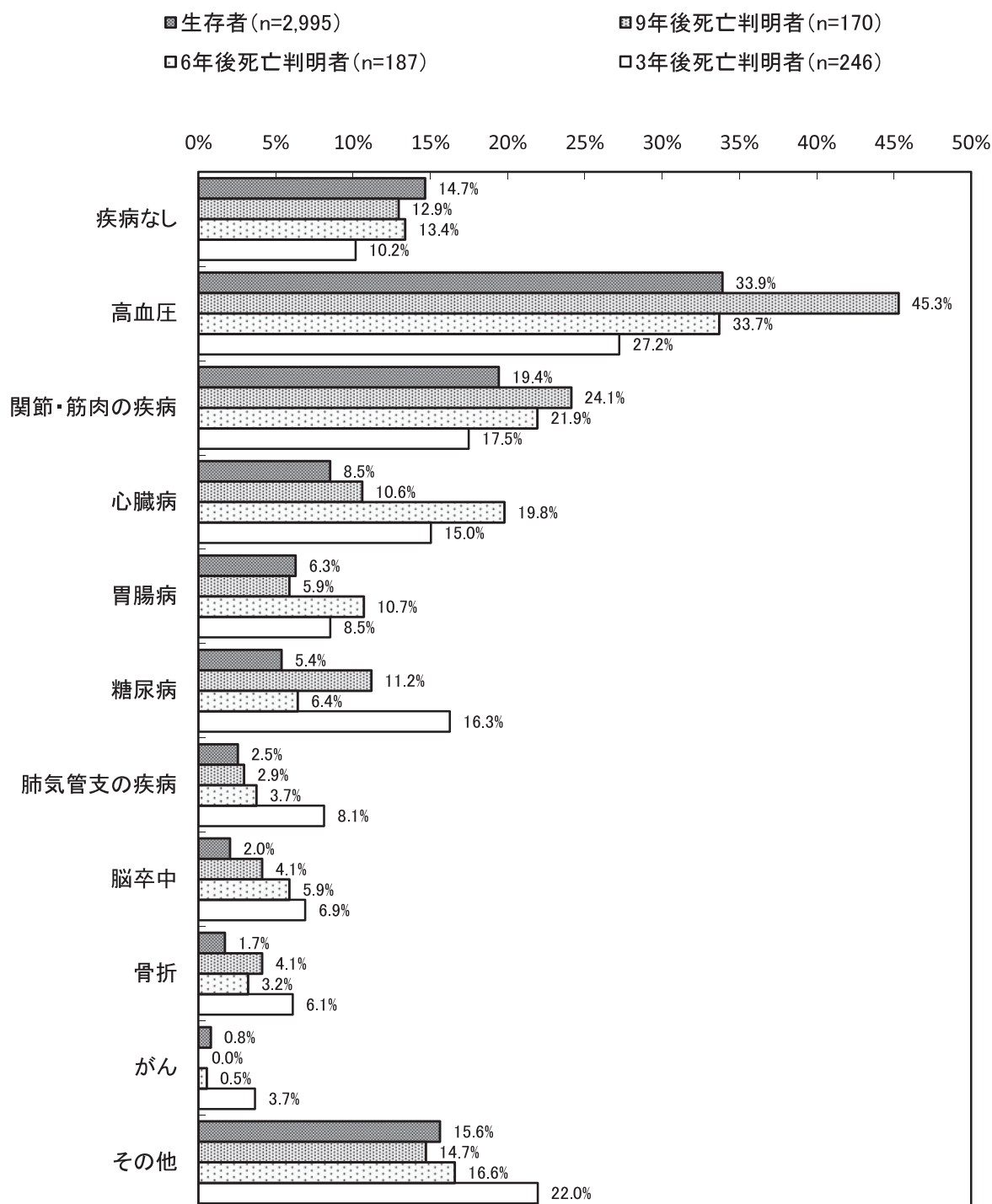


図4 治療中の疾病の内訳 女性

3 移動状況

<移動状況－男性>

「自転車、車、バス、電車をつかって一人で外出できる」と回答した者は、生存者2,559人(94.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者268人(85.4%)、6年後に死亡が判明した者277(74.1%)、3年後に死亡が判明した者308人(55.8%)だった。「家庭内及び隣近所では、ほぼ不自由なく動き活動できるが一人で遠出はできない」、「庭に出たり家庭内なら少しは歩ける」、「起きているが、あまり動かない」、「寝たり起きたりしている」、「1日中床で過ごす」に回答した者の割合は、すべて生存者が最も低値で、第1回調査時からの死亡判明時期が短くなるにつれて、段階的に高値を示した。

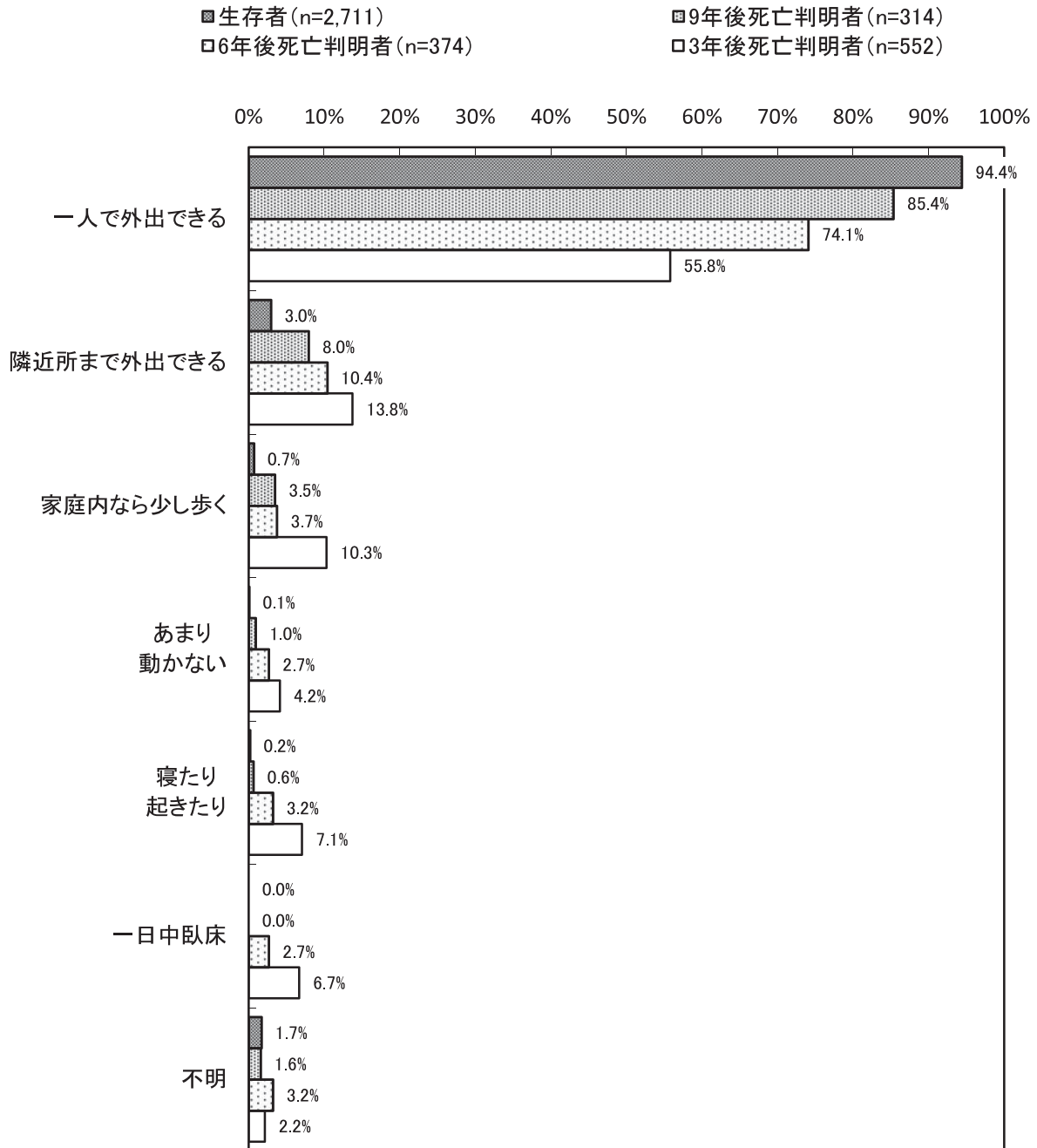


図5 移動状況－男性

<移動状況—女性>

「自転車、車、バス、電車をつかって一人で外出できる」と回答した者は、生存者2,545人(85.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者100人(58.8%)、6年後に死亡が判明した者76人(40.6%)、3年後に死亡が判明した者87人(35.4%)だった。「庭に出たり家庭内なら少しは歩ける」、「寝たり起きたりしている」、「1日中床で過ごす」に回答した者の割合は、すべて生存者が最も低値で、第1回調査時からの死亡判明時期が短くなるにつれて、段階的に高値を示した。3年後に死亡が判明した者の回答割合のうち、「家庭内及び隣近所では、ほぼ不自由なく動き活動できるが一人で遠出はできない」が24.4%、「起きているが、あまり動かない」が3.7%と6年後に死亡が判明した者の割合に比べて低値だった。

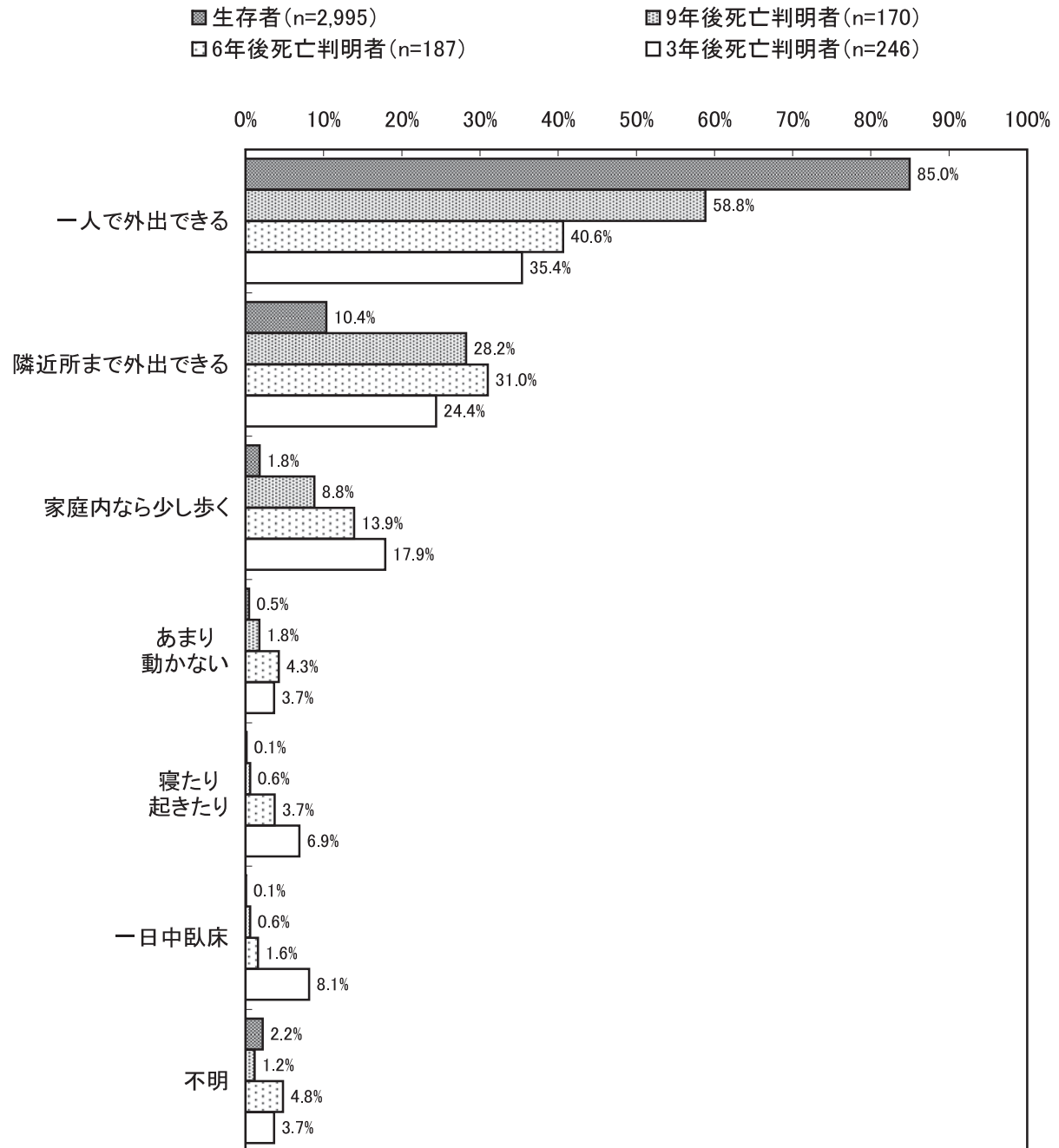


図6 移動状況 — 女性

4 視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響（複数回答）

視覚障害により「生活への影響がある」と回答した者は、生存者138人(20.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者32人(26.4%)、6年後に死亡が判明した者38人(23.5%)、3年後に死亡が判明した者80人(28.4%)だった。聴覚障害により「生活への影響がある」と回答した者は、生存者200人(30.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者39人(32.2%)、6年後に死亡が判明した者51人(31.5%)、3年後に死亡が判明した者88人(31.2%)だった。歯の障害により「生活への影響がある」と回答した者は、生存者324人(48.9%)、第1回調査から9年後に死亡判明した者50人(41.3%)、6年後に死亡が判明した者73人(45.1%)、3年後に死亡が判明した者114人(40.4%)だった。

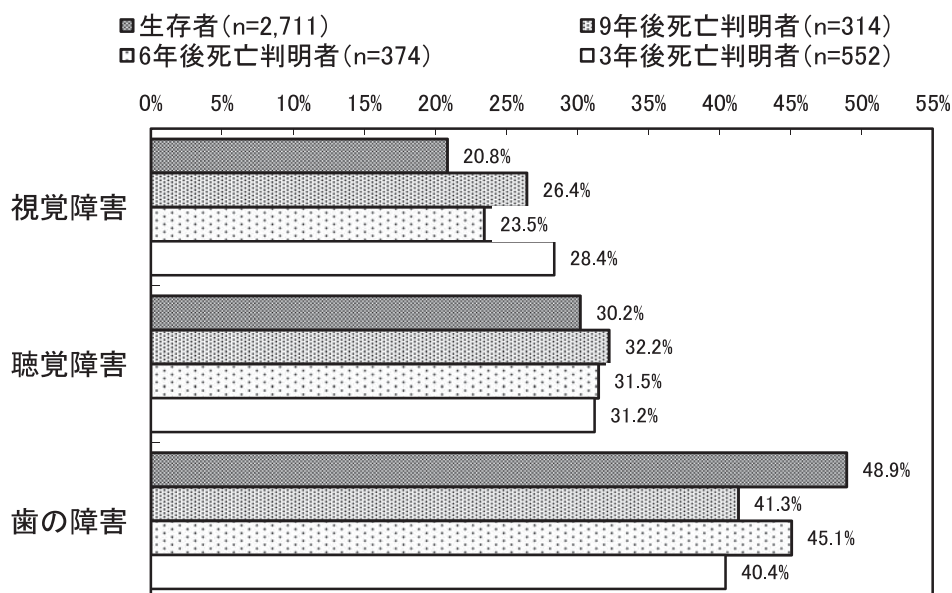


図7 視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響 - 男性

視覚障害により「生活への影響がある」と回答した者は、生存者190人(28.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者23人(40.4%)、6年後に死亡が判明した者16人(19.0%)、3年後に死亡が判明した者45人(33.3%)だった。聴覚障害により「生活への影響がある」と回答した者は、生存者173人(26.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者15人(26.3%)、6年後に死亡が判明した者30人(35.7%)、3年後に死亡が判明した者56人(25.2%)だった。歯の障害により「生活への影響がある」と回答した者は、生存者297人(45.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者19人(33.3%)、6年後に死亡が判明した者38人(45.2%)、3年後に死亡が判明した者56人(41.5%)だった。

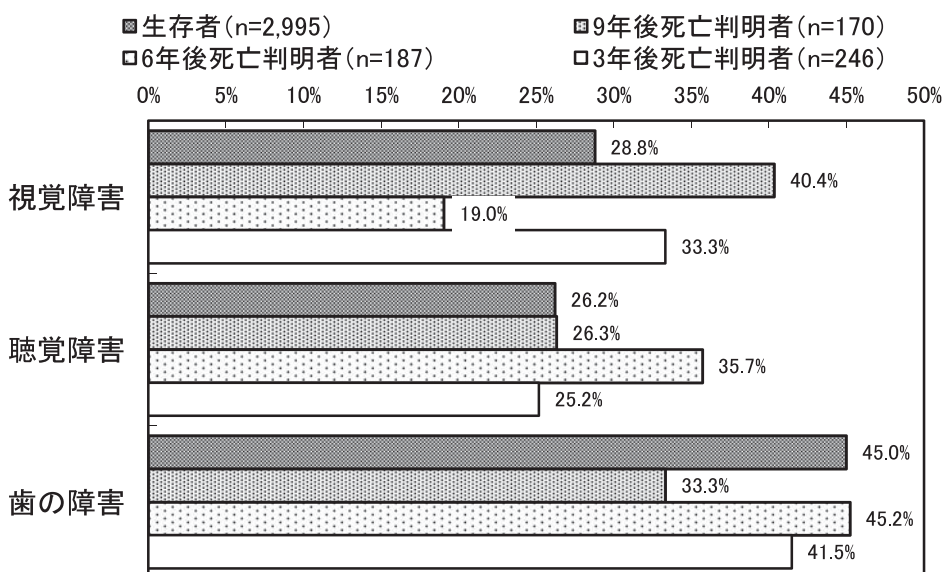


図8 視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響 - 女性

5 健康診断の受診状況

<健康診断の受診状況 - 男性>

「毎年1回以上受診している」と回答した者は、生存者2,162人(79.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者244人(77.7%)、6年後に死亡が判明した者277人(74.1%)、3年後に死亡が判明した者1,639人(69.2%)だった。「全く受けていない」と回答した者は、生存者161人(5.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者26人(8.3%)、6年後に死亡が判明した者34人(9.1%)、3年後に死亡が判明した者382人(9.2%)だった。

「わからない」と回答した者は、少数であったため、図に数値を表示していない。

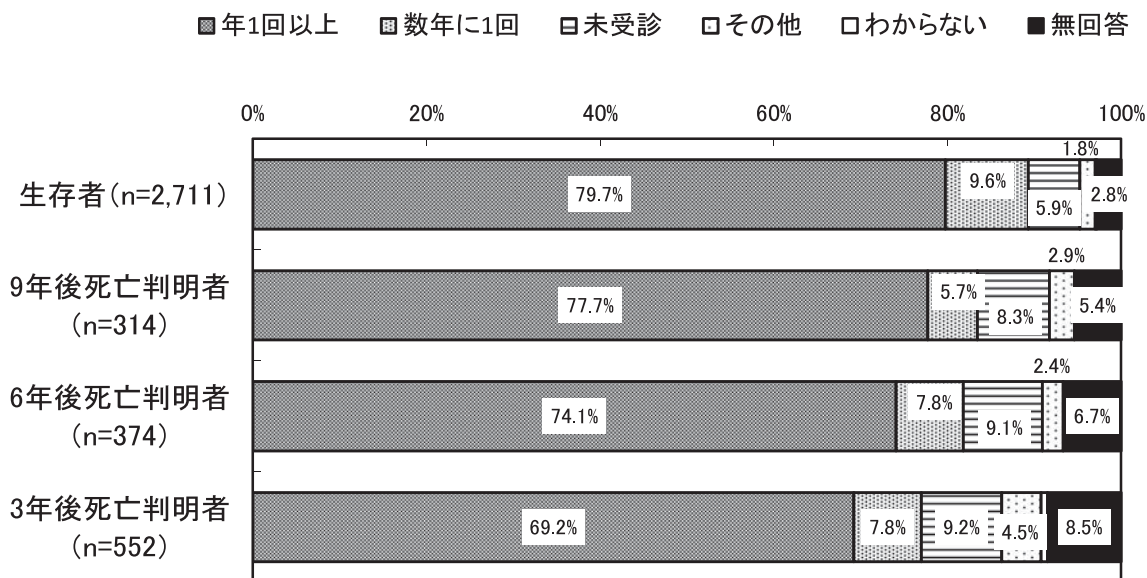


図9 健康診断の受診状況 - 男性

<健康診断の受診状況 - 女性>

「毎年1回以上受診している」と回答した者は、生存者2,459人(82.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者128人(75.3%)、6年後に死亡が判明した者137人(73.3%)、3年後に死亡が判明した者171人(69.5%)だった。「全く受けていない」と回答した者は、生存者152人(5.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者14人(8.2%)、6年後に死亡が判明した者11人(5.9%)、3年後に死亡が判明した者14人(5.7%)だった。

「わからない」と回答した者は、少数であったため、図に数値を表示していない。

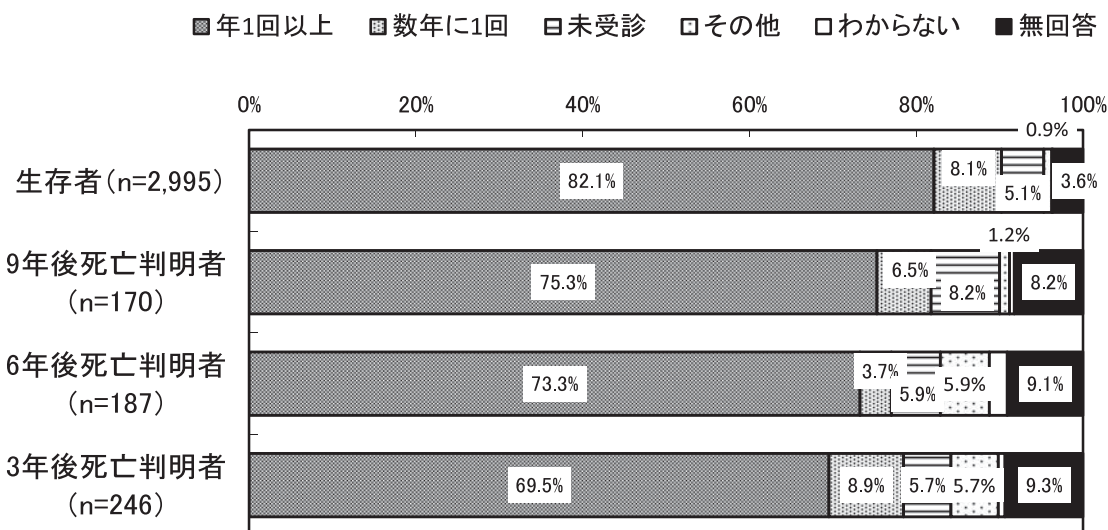


図10 健康診断の受診状況 - 女性

6 健康に関する相談者（複数回答）

<健康に関する相談者 - 男性>

「健康について誰に相談をしていますか」の問いに対し、男性は「医師」と回答した者が最も多く、生存者1,835人(67.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者223人(71.0%)、6年後に死亡が判明した者281人(75.1%)、3年後に死亡が判明した者418人(75.7%)だった。

次に多かった「家族・親類」と回答した者は、生存者998人(36.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者117人(37.3%)、6年後に死亡が判明した者146人(39.0%)、3年後に死亡が判明した者221人(40.0%)だった。

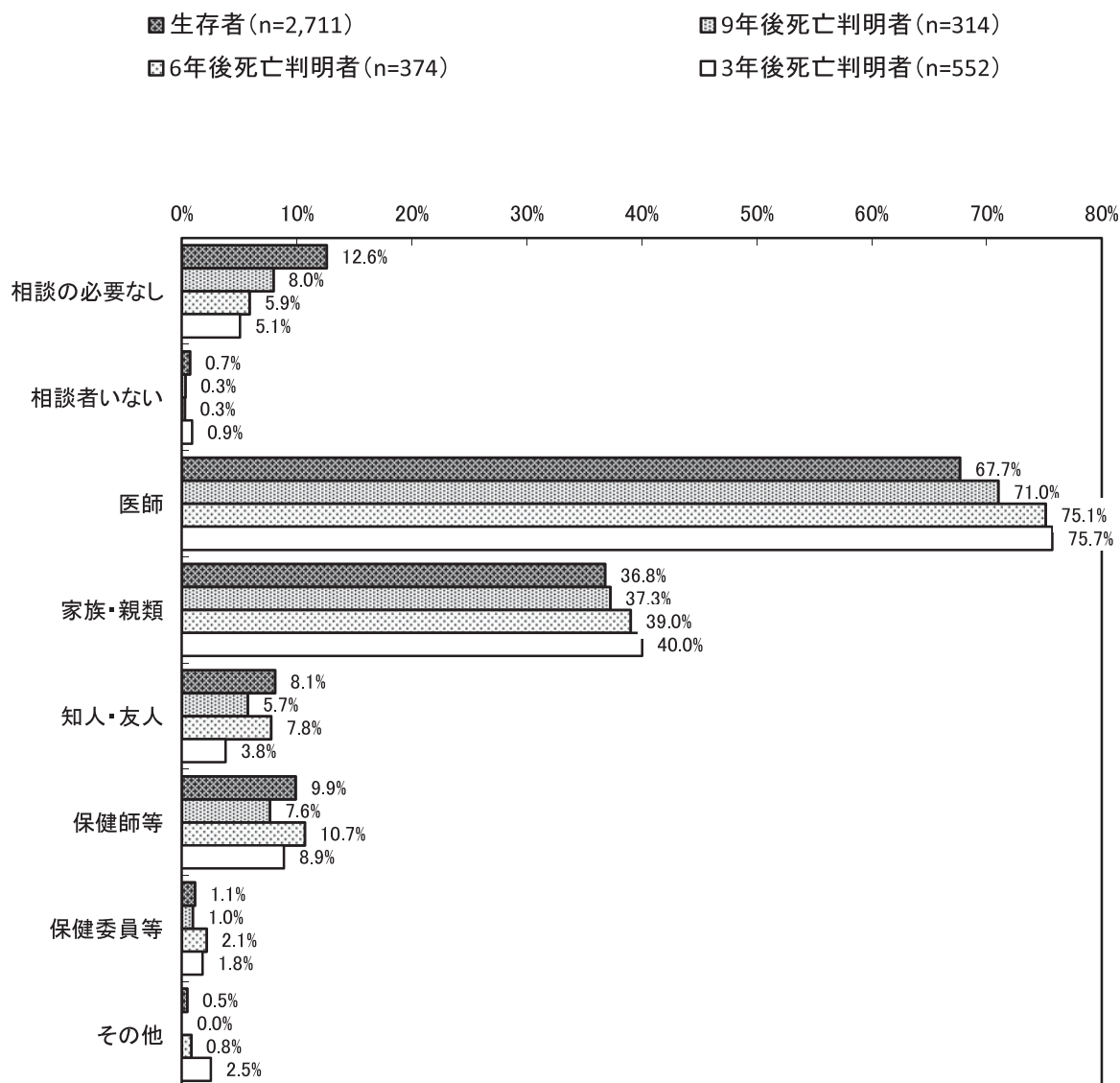


図11 健康に関する相談者の内訳－男性

<健康に関する相談者 - 女性>

「健康について誰に相談をしていますか」の問いに対し、女性は男性と同様「医師」と回答した者が最も多く、生存者2,029人(67.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者116人(68.2%)、6年後に死亡が判明した者140人(74.9%)、3年後に死亡が判明した者177人(70.0%)だった。次に多かった「家族・親類」と回答した者は、生存者1,517人(50.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者85人(50.0%)、6年後に死亡が判明した者94人(50.3%)、3年後に死亡が判明した者116人(47.2%)だった。

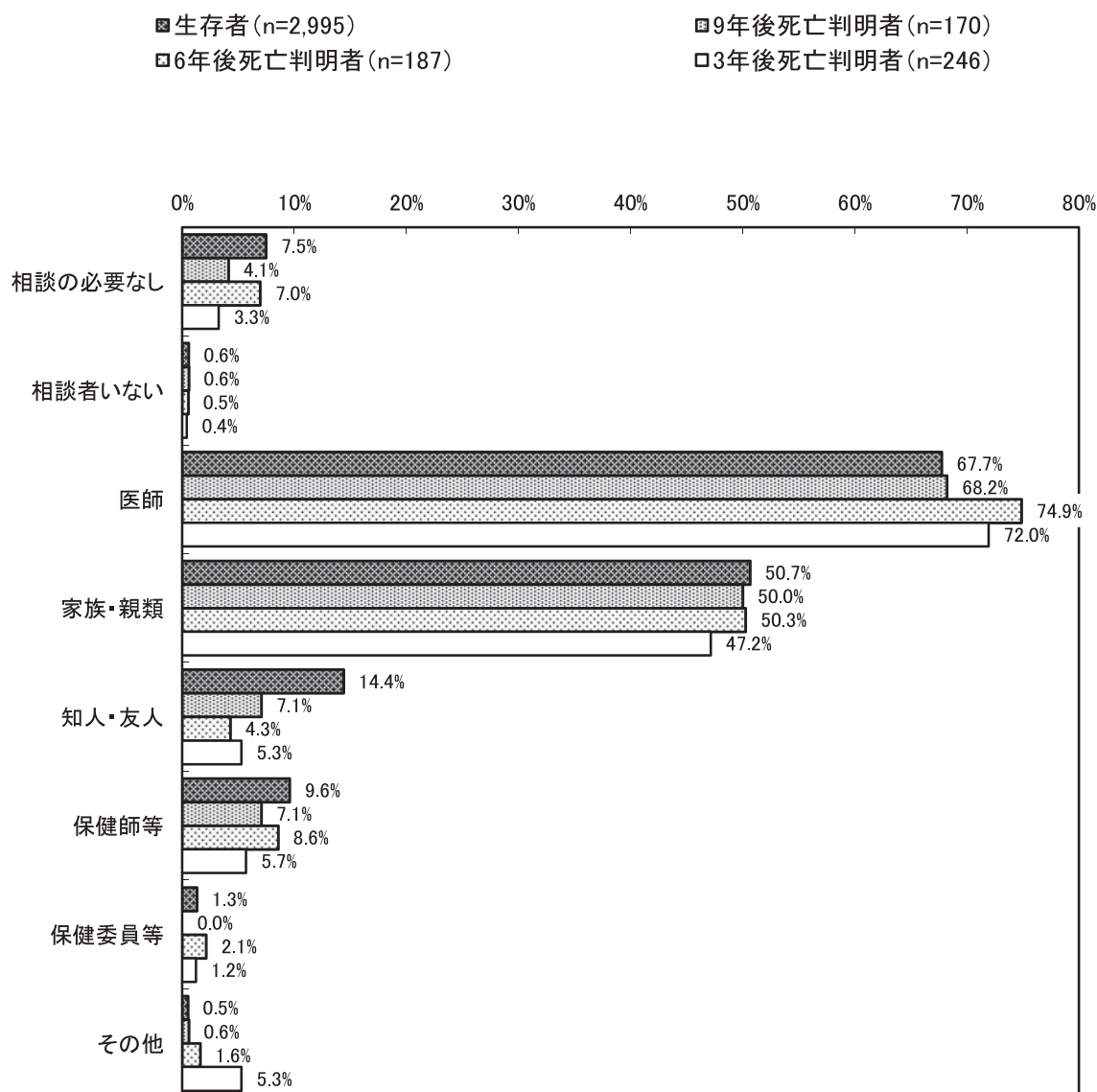


図12 健康に関する相談者の内訳—女性

7 健康情報を得る機会（複数回答）

＜健康情報を得る機会の内訳－男性＞

「健康に関することを話したり、聞いたりするのはどんな機会か」の問いに対し、男性は「診察のとき」と回答した者が最も多く、生存者1,670人(61.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者206人(65.6%)、6年後に死亡が判明した者270人(72.2%)、3年後に死亡が判明した者396人(71.7%)だった。

次に多かった「テレビ・ラジオ等」と回答した者は、生存者1,633人(60.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者168人(53.5%)、6年後に死亡が判明した者210人(66.9%)、3年後に死亡が判明した者246人(44.6%)だった。

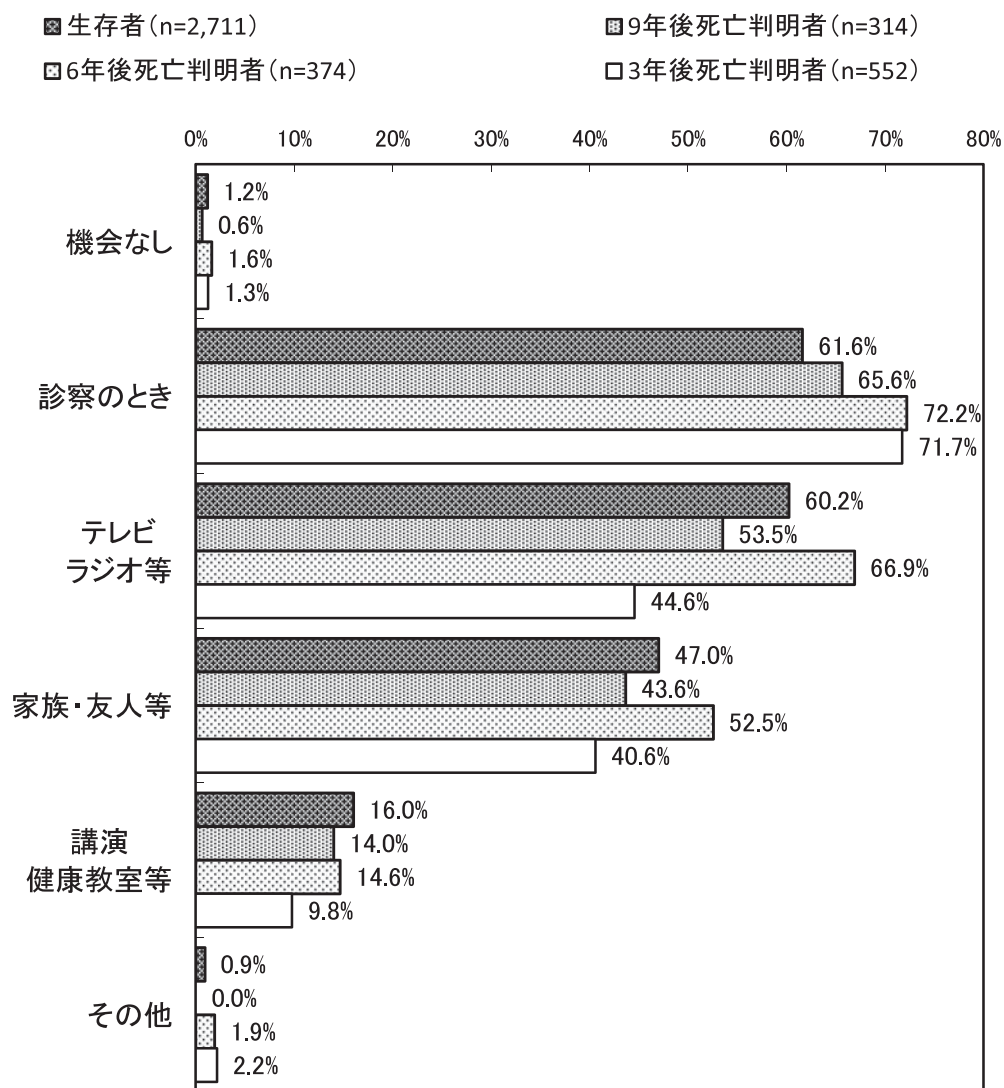


図13 健康情報を得る機会の内訳－男性

＜健康情報を得る機会の内訳 - 女性＞

「健康に関することを話したり、聞いたりするのはどんな機会か」の問いに対し、女性については生存者で最も多かったのは、「テレビ・ラジオ等」1,906人(63.6%)、次いで「診察のとき」1,855人(61.9%)だった。

第1回調査から9年後に死亡が判明した者で最も多かったのは、「診察のとき」113人(66.5%)、次いで「テレビ・ラジオ等」94人(55.3%)だった。

第1回調査から6年後に死亡が判明した者で最も多かったのは、「診察のとき」125人(66.8%)、次いで「家族・友人等」92人(49.2%)だった。

第1回調査から3年後に死亡が判明した者で最も多かったのは、「診察のとき」164人(66.7%)、次いで「家族・友人等」117人(47.6%)だった。

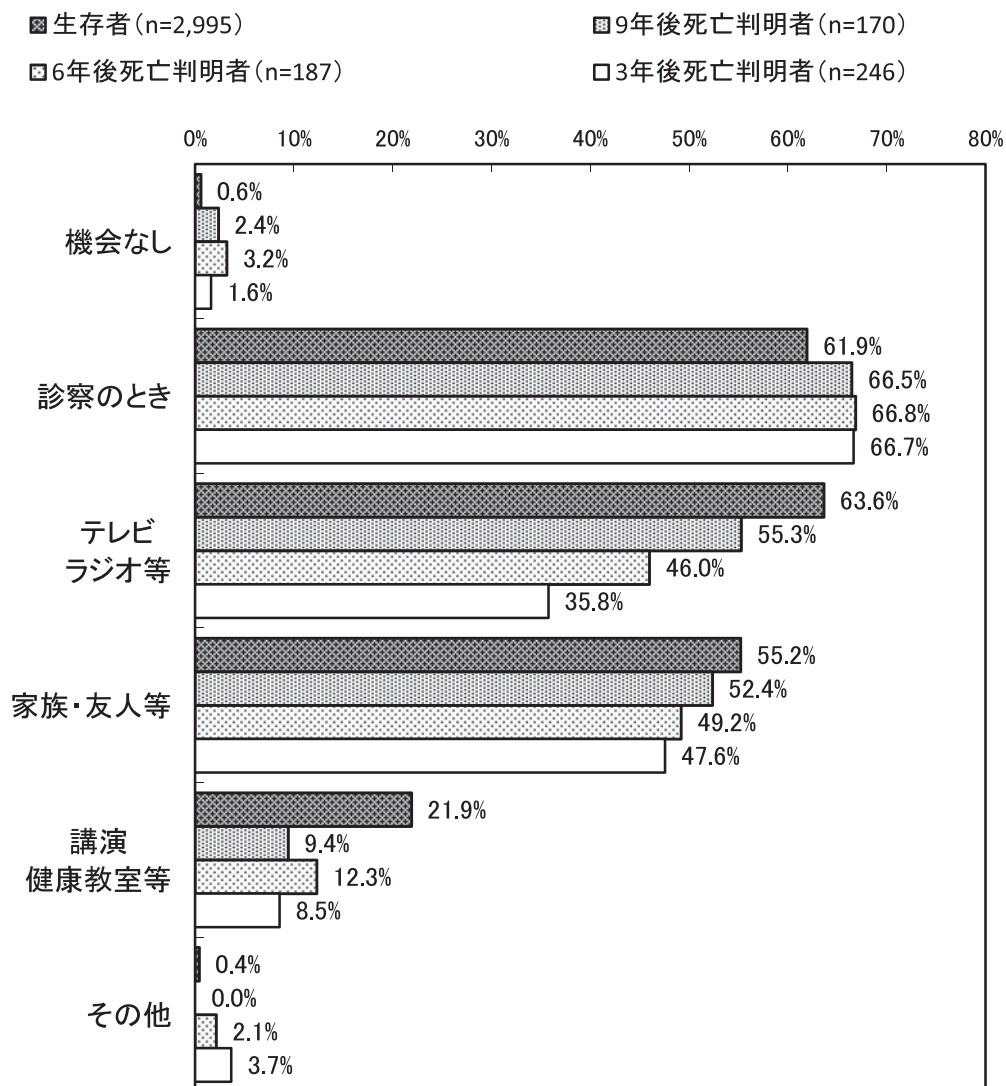


図14 健康情報を得る機会の内訳-女性

8 生活満足度

(1) 生活への満足

<生活への満足 - 男性>

「現在の生活に満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,327人(85.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者250人(79.6%)、6年後に死亡が判明した者281人(75.1%)、3年後に死亡が判明した者341人(61.8%)だった。

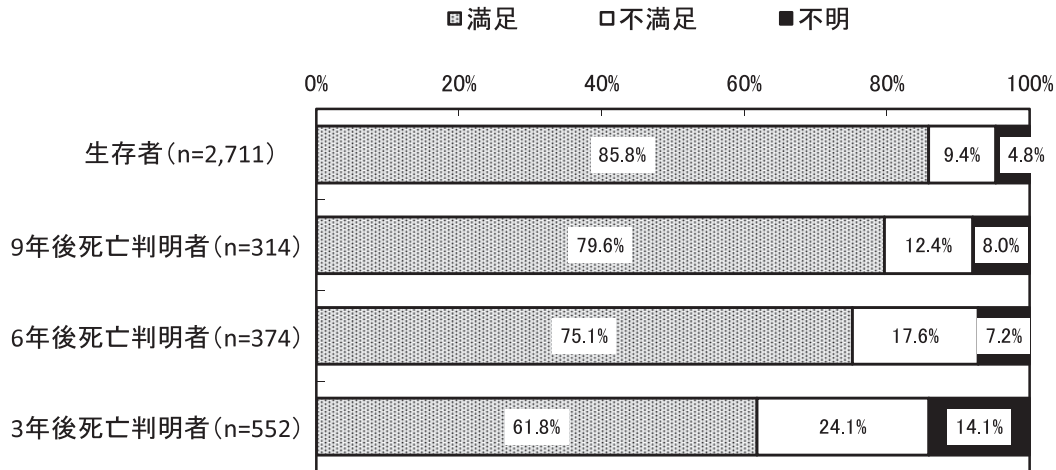


図15 生活への満足—男性

<生活への満足 - 女性>

「現在の生活に満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,549人(85.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者131人(77.1%)、6年後に死亡が判明した者142人(75.9%)、3年後に死亡が判明した者148人(60.2%)だった。

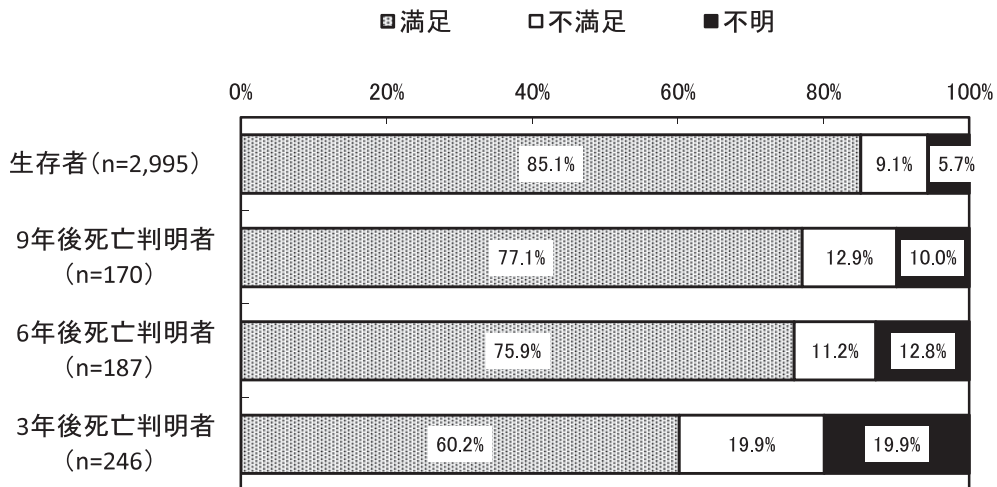


図16 生活への満足—女性

(2) 健康観

①健康観

<健康観 - 男性>

「健康と感じているか」の問いに対して、「はい(健康)」と回答した者は、生存者1,992人(73.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者181人(57.6%)、6年後に死亡が判明した者185人(49.5%)、3年後に死亡が判明した者194人(35.1%)だった。

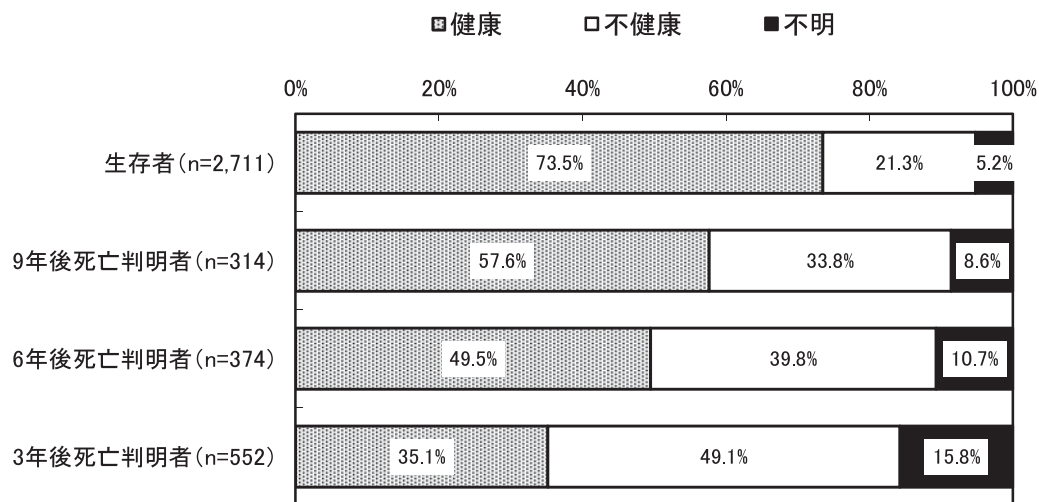


図17 健康観—男性

<健康観 - 女性>

「健康と感じているか」の問いに対して、「はい(健康)」と回答した者は、生存者2,549人(85.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者131人(77.1%)、6年後に死亡が判明した者142人(75.9%)、3年後に死亡が判明した者148人(60.2%)だった。

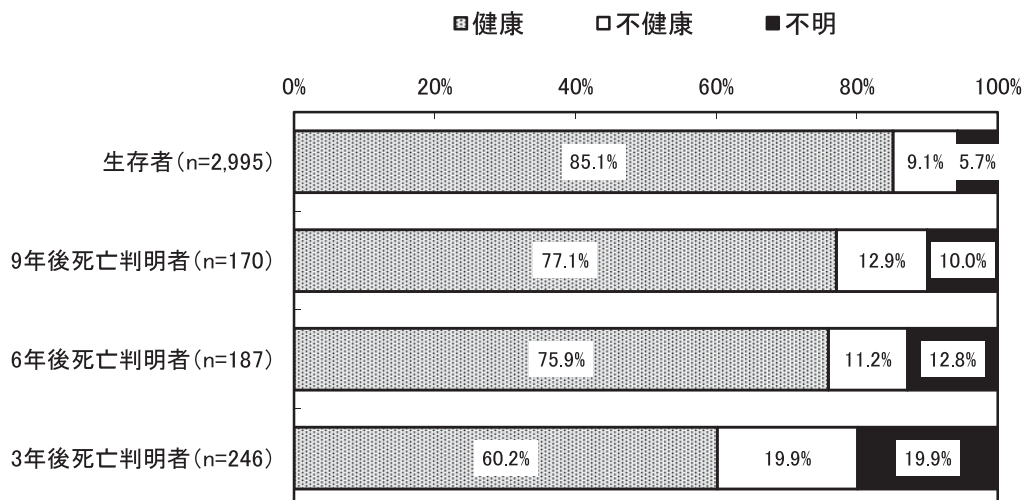


図18 健康観—女性

②体調

<体調 - 男性>

「体調がすぐれないことが多いか」の問いに対して、「はい(すぐれない)」と回答した者は、生存者355人(13.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者73人(23.2%)、6年後に死亡が判明した者105人(28.1%)、3年後に死亡が判明した者201人(36.4%)だった。

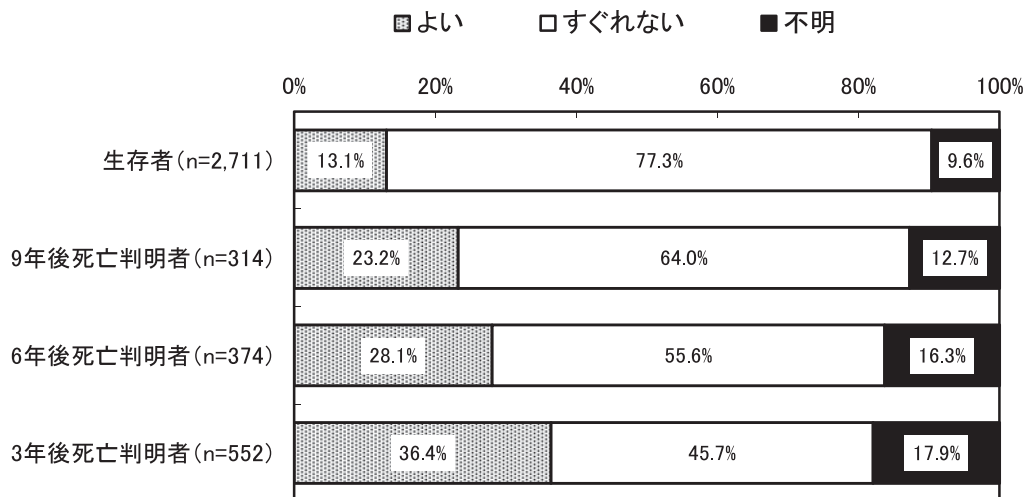


図19 体調－男性

<体調 - 女性>

「体調がすぐれないことが多いか」の問いに対して、「はい(すぐれない)」と回答した者は、生存者485人(16.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者48人(28.2%)、6年後に死亡が判明した者56人(29.9%)、3年後に死亡が判明した者98人(39.8%)だった。

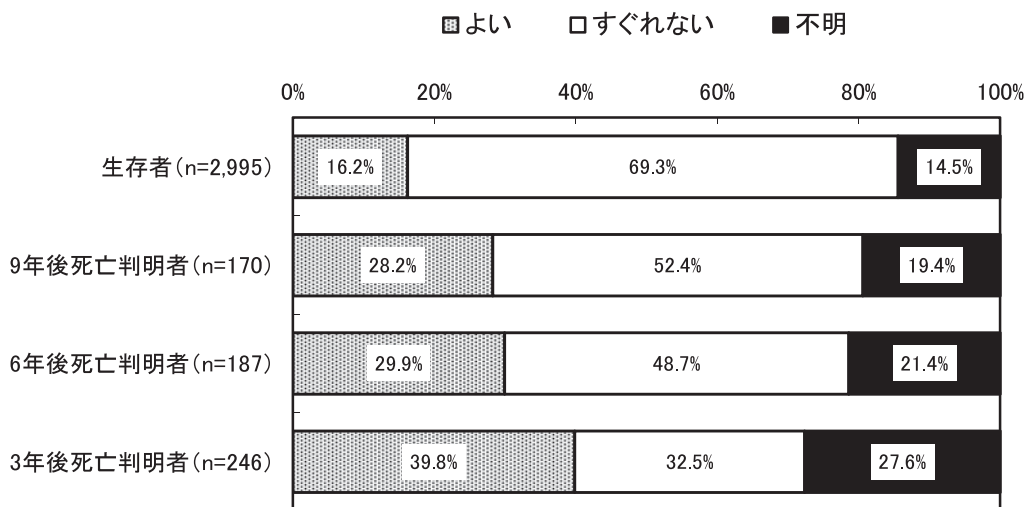


図20 体調－女性

③気分

<気分 - 男性>

「毎日気分よく過ごせるか」の問いに対して、「はい(気分よく過ごせる)」と回答した者は、生存者2,268人(83.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者222人(70.7%)、6年後に死亡が判明した者239人(63.9%)、3年後に死亡が判明した者277人(50.2%)だった。

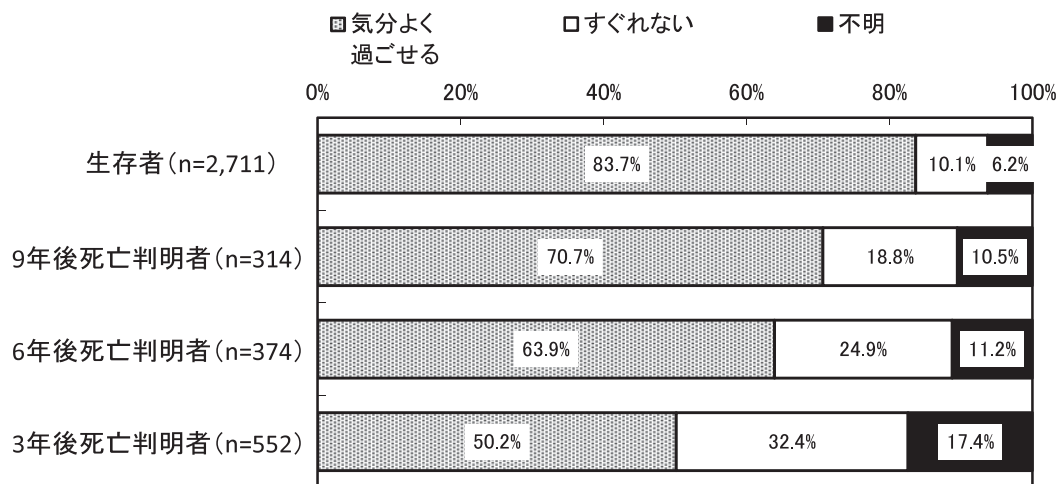


図21 気分－男性

<気分 - 女性>

「毎日気分よく過ごせるか」の問いに対して、「はい(気分よく過ごせる)」と回答した者は、生存者2,358人(78.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者113人(66.5%)、6年後に死亡が判明した者116人(62.0%)、3年後に死亡が判明した者87人(35.4%)だった。

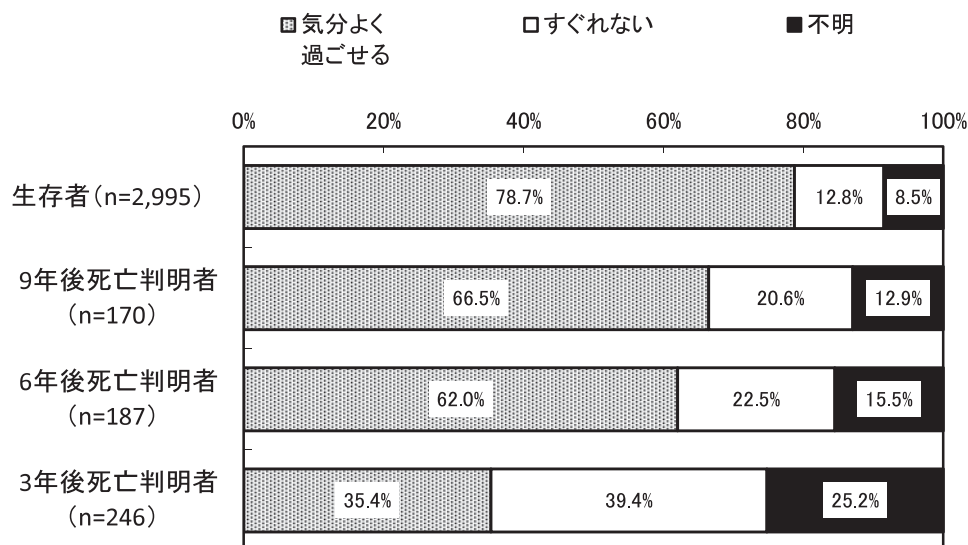


図22 気分－女性

④元気

<元気 - 男性>

「元気だと感じているか」の問いに対して、「はい(元気である)」と回答した者は、生存者2,175人(80.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者212人(67.5%)、6年後に死亡が判明した者212人(56.7%)、3年後に死亡が判明した者236人(42.8%)だった。

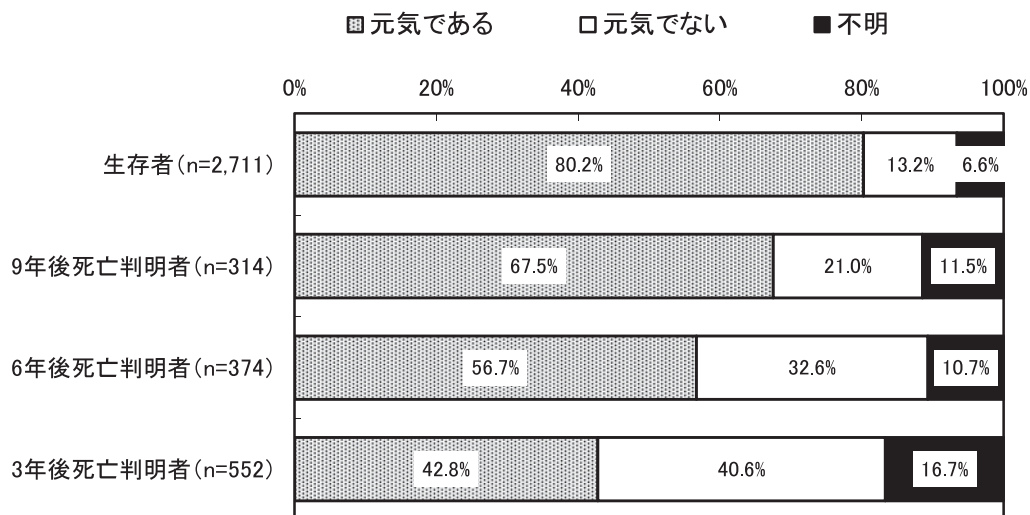


図23 元気 - 男性

<元気 - 女性>

「元気だと感じているか」の問いに対して、「はい(元気である)」と回答した者は、生存者2,255人(75.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者96人(56.5%)、6年後に死亡が判明した者99人(52.9%)、3年後に死亡が判明した者71人(28.9%)だった。

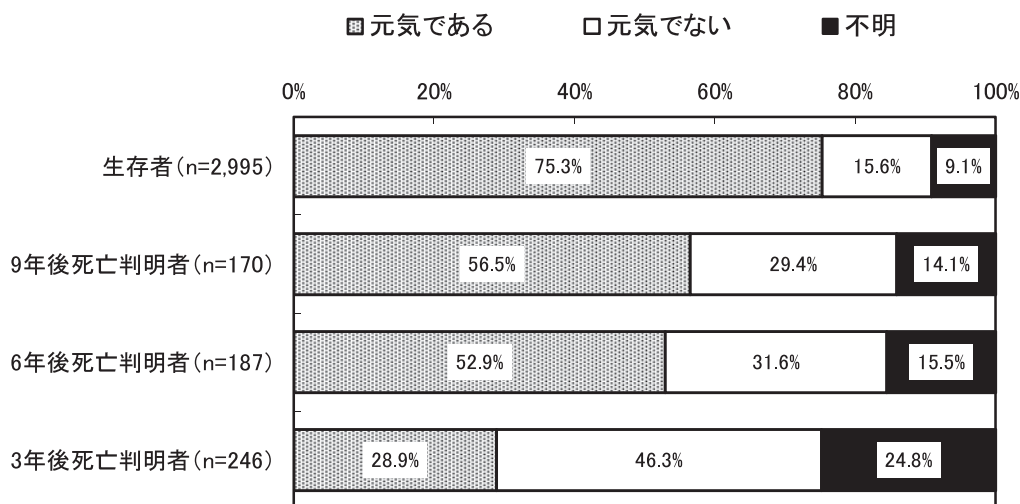


図24 元気 - 女性

(3) 精神的健康

① 将来への不安

〈将来への不安 - 男性〉

「将来に不安を感じているか」の問いに対して、「はい(不安がある)」と回答した者は、生存者916人(33.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者106人(33.8%)、6年後に死亡が判明した者157人(42.0%)、3年後に死亡が判明した者228人(41.3%)だった。

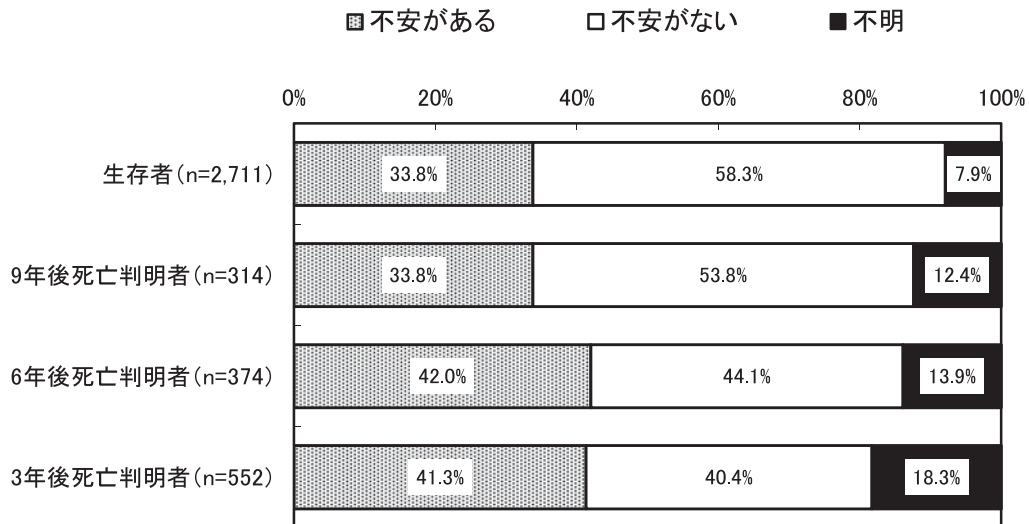


図25 将来への不安－男性

〈将来への不安 - 女性〉

「将来に不安を感じているか」の問いに対して、「はい(不安がある)」と回答した者は、生存者1,181人(39.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者76人(44.7%)、6年後に死亡が判明した者70人(37.4%)、3年後に死亡が判明した者107人(43.5%)だった。

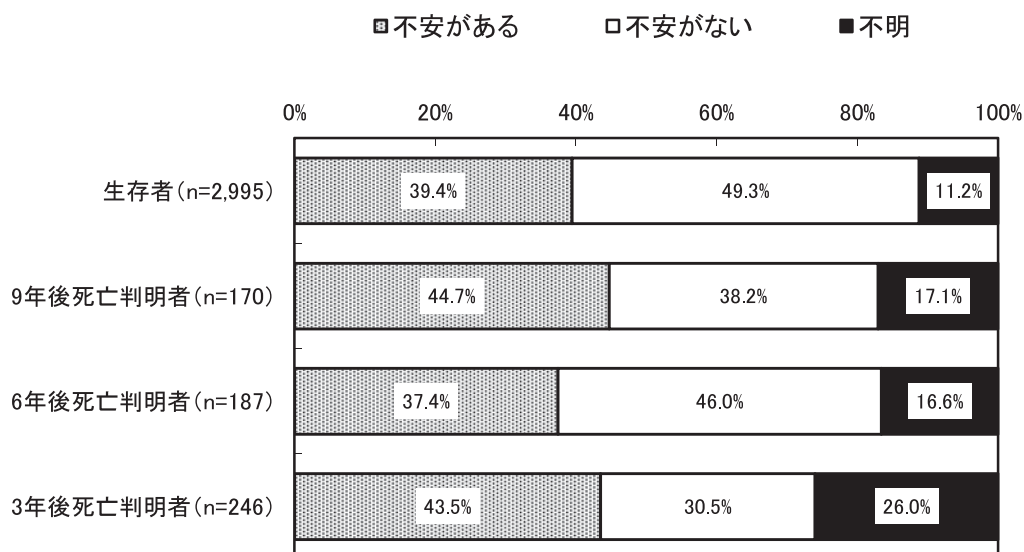


図26 将来への不安－女性

②寂しさ

<寂しさ－男性>

「寂しいと感じることがあるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者484人(17.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者73人(23.2%)、6年後に死亡が判明した者86人(23.0%)、3年後に死亡が判明した者194人(35.1%)だった。

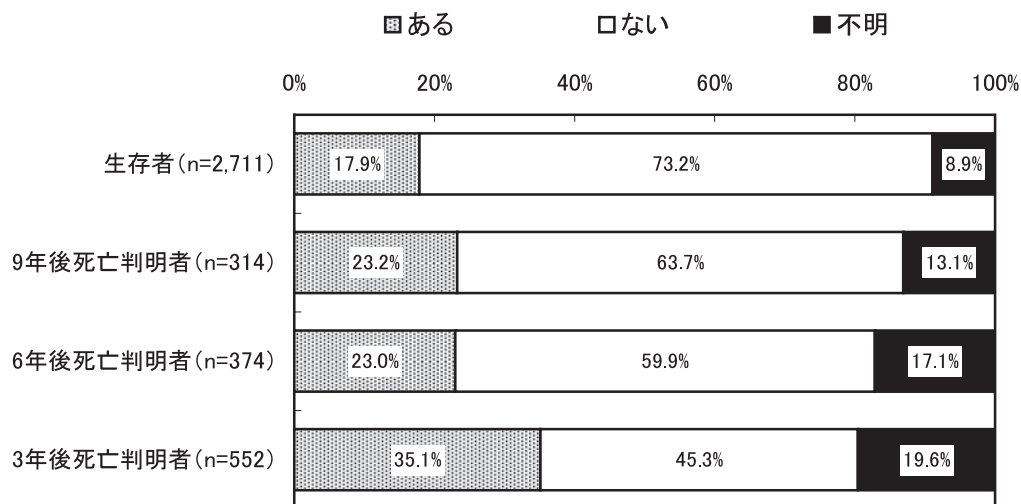


図27 寂しさ－男性

<寂しさ－女性>

「寂しいと感じることがあるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者792人(26.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者62人(36.5%)、6年後に死亡が判明した者57人(30.5%)、3年後に死亡が判明した者95人(38.6%)だった。

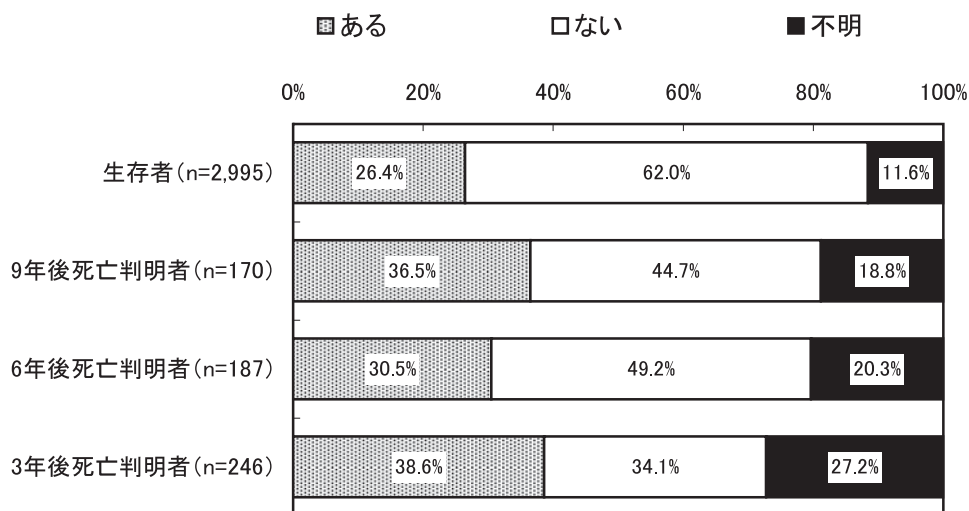


図28 寂しさ－女性

③無力感

<無力感 - 男性>

「自分が無力だと感じることがあるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者649人(23.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者98人(31.2%)、6年後に死亡が判明した者141人(37.7%)、3年後に死亡が判明した者257人(46.6%)だった。

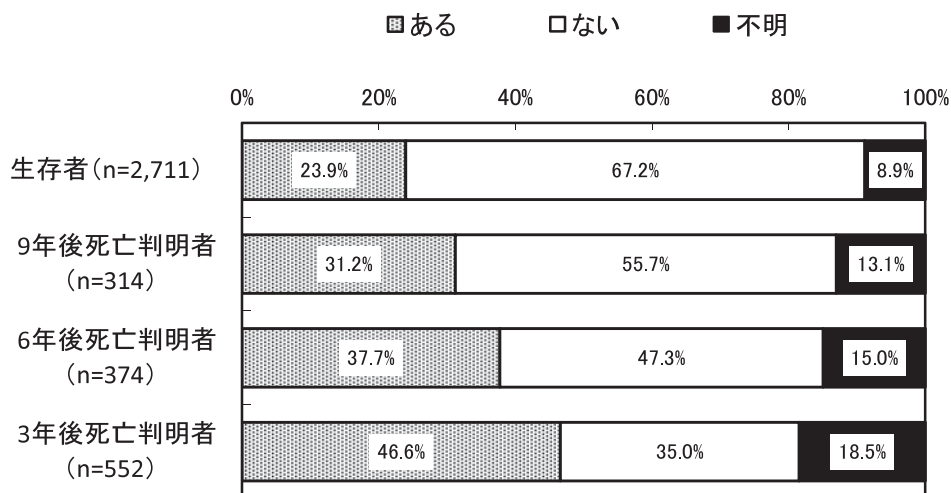


図29 無力感－男性

<無力感 - 女性>

「自分が無力だと感じることがあるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者1,124人(37.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者81人(47.6%)、6年後に死亡が判明した者85人(45.5%)、3年後に死亡が判明した者128人(52.0%)だった。

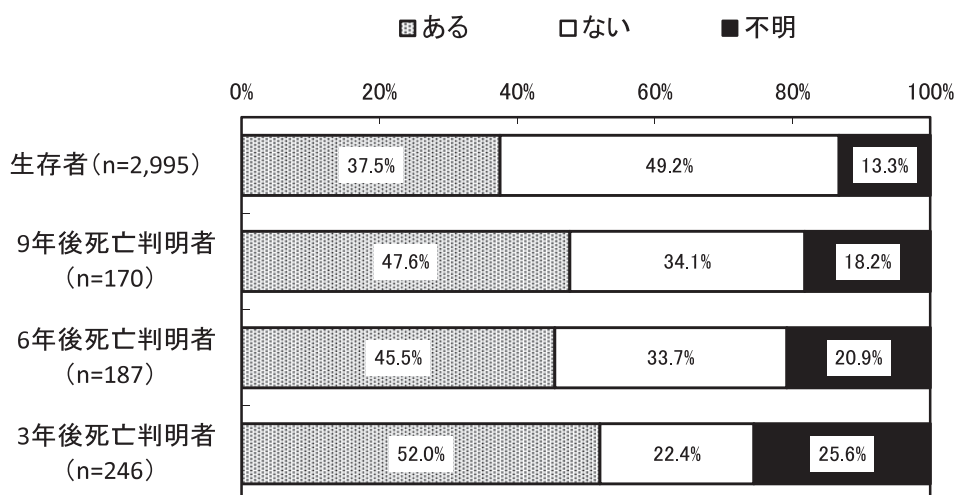


図30 無力感－女性

④気分の落ち込み

<気分の落ち込み - 男性>

「気分が落ち込むことがあるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者599人(22.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者81人(25.8%)、6年後に死亡が判明した者114人(30.5%)、3年後に死亡が判明した者215人(38.9%)だった。

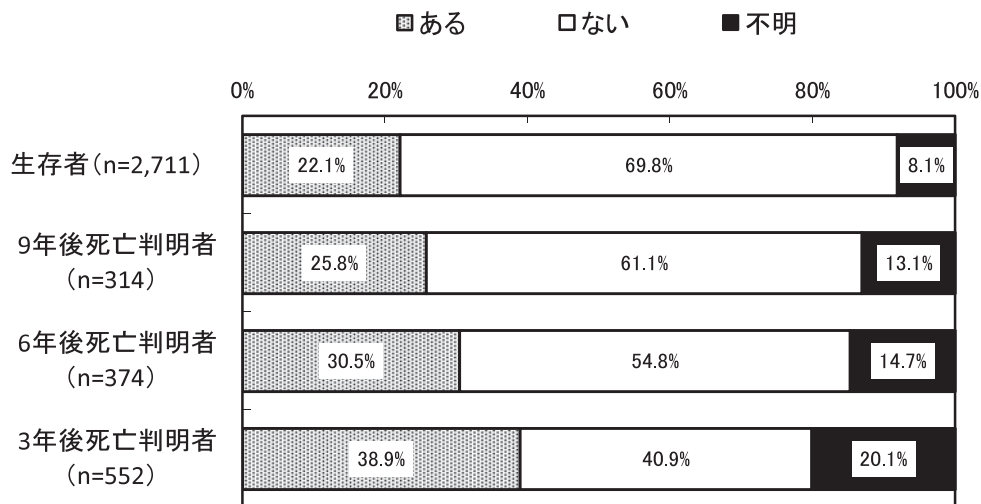


図31 気分の落ち込み－男性

<気分の落ち込み - 女性>

「気分が落ち込むことがあるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者900人(30.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者70人(41.2%)、6年後に死亡が判明した者64人(34.2%)、3年後に死亡が判明した者109人(44.3%)だった。

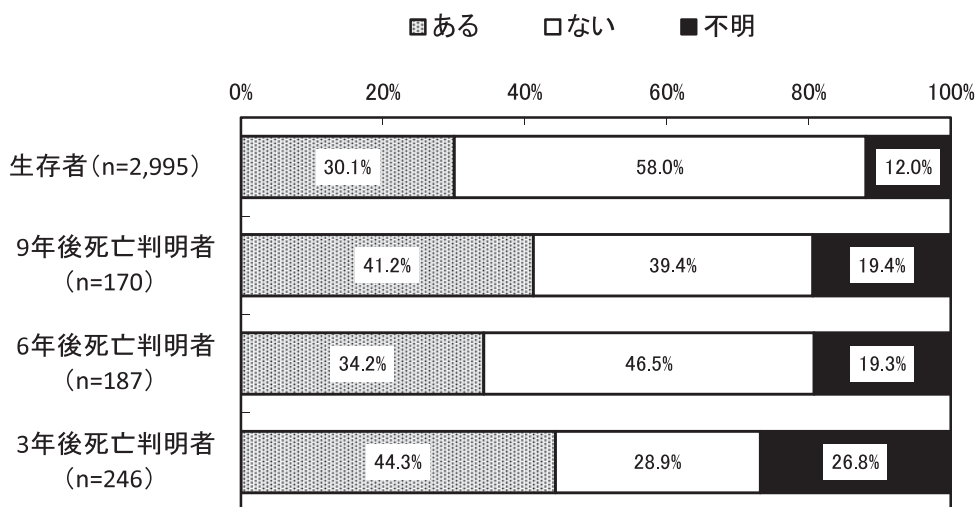


図32 気分の落ち込み－女性

(4) 精神的活力

① 将来への夢や希望

<将来への夢や希望 - 男性>

「将来に夢や希望があるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者1,469人(54.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者136人(43.3%)、6年後に死亡が判明した者132人(35.3%)、3年後に死亡が判明した者166人(30.1%)だった。

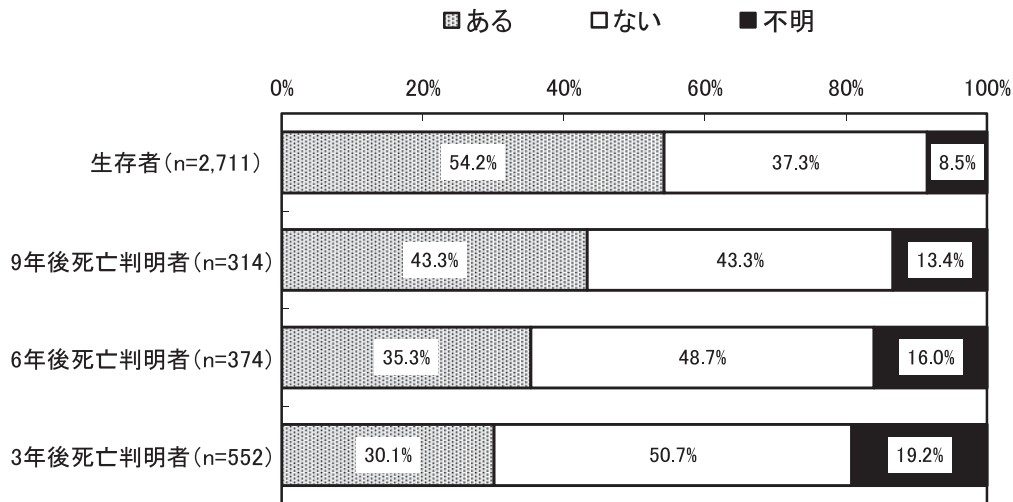


図33 将来への夢や希望 - 男性

<将来への夢や希望 - 女性>

「将来に夢や希望があるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者1,348人(45.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者46人(27.1%)、6年後に死亡が判明した者43人(23.0%)、3年後に死亡が判明した者48人(19.5%)だった。

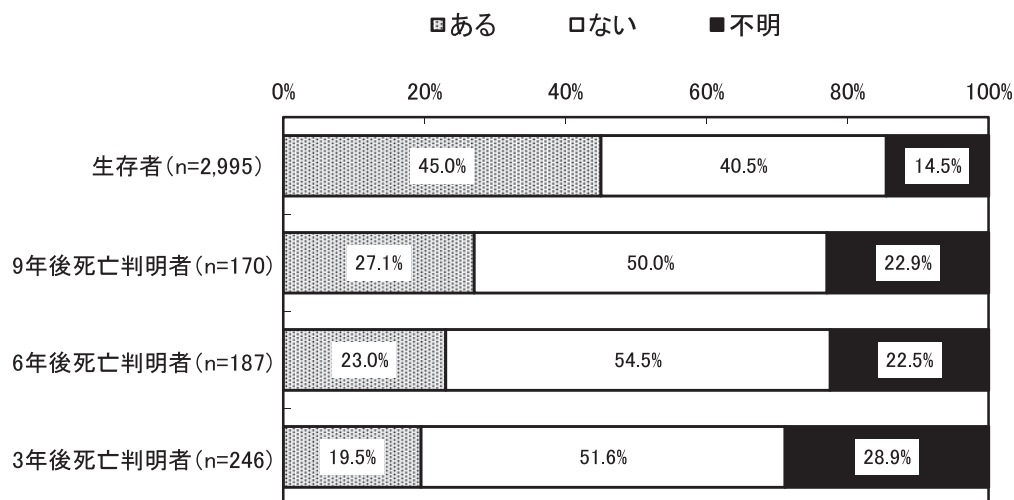


図34 将来への夢や希望 - 女性

②生きがい

<生きがい - 男性>

「生きがいを持っているか」の問いに対して、「はい(持っている)」と回答した者は、生存者2,204人(81.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者228人(72.6%)、6年後に死亡が判明した者234人(62.6%)、3年後に死亡が判明した者277人(50.2%)だった。

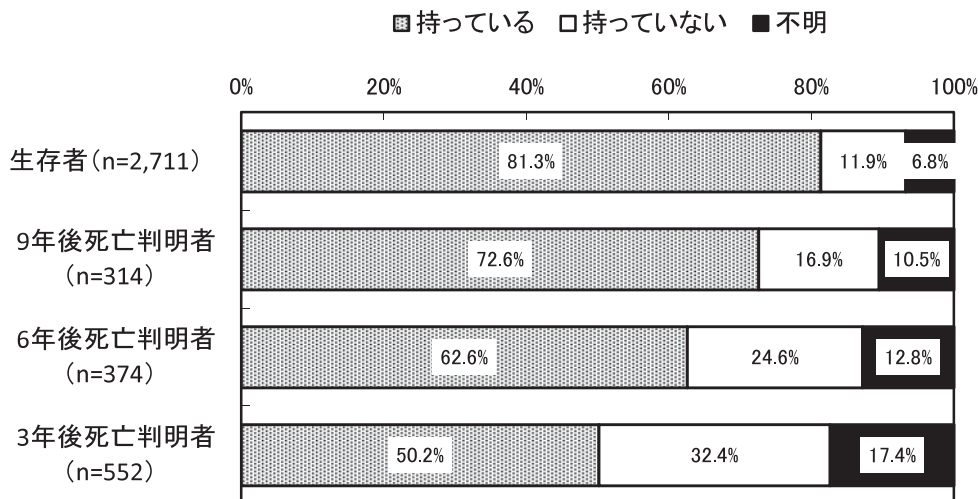


図35 生きがい—男性

<生きがい - 女性>

「生きがいを持っているか」の問いに対して、「はい(持っている)」と回答した者は、生存者2,204人(81.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者228人(72.6%)、6年後に死亡が判明した者234人(62.6%)、3年後に死亡が判明した者277人(50.2%)だった。

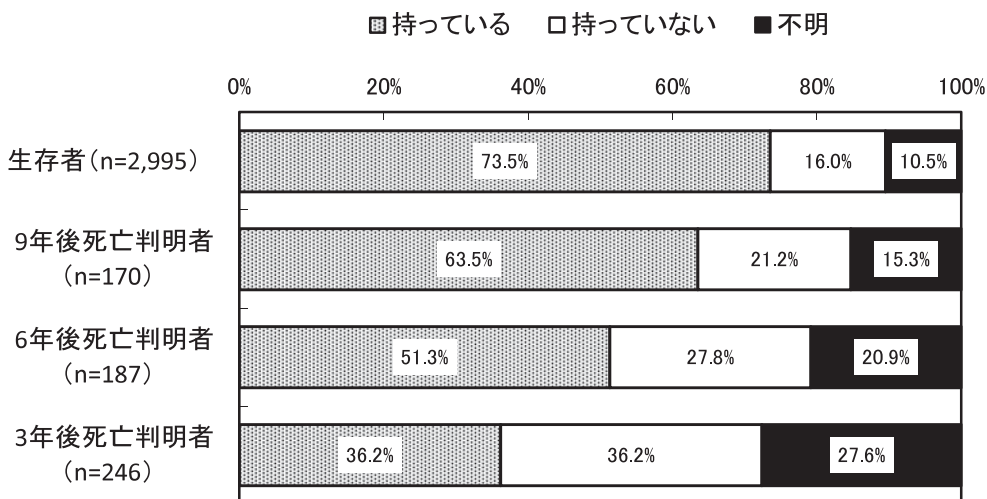


図36 生きがい—女性

③気力

<気力 - 男性>

「毎日の生活で気力を感じているか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者2,216人(81.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者228人(72.6%)、6年後に死亡が判明した者240人(64.2%)、3年後に死亡が判明した者268人(48.6%)だった。

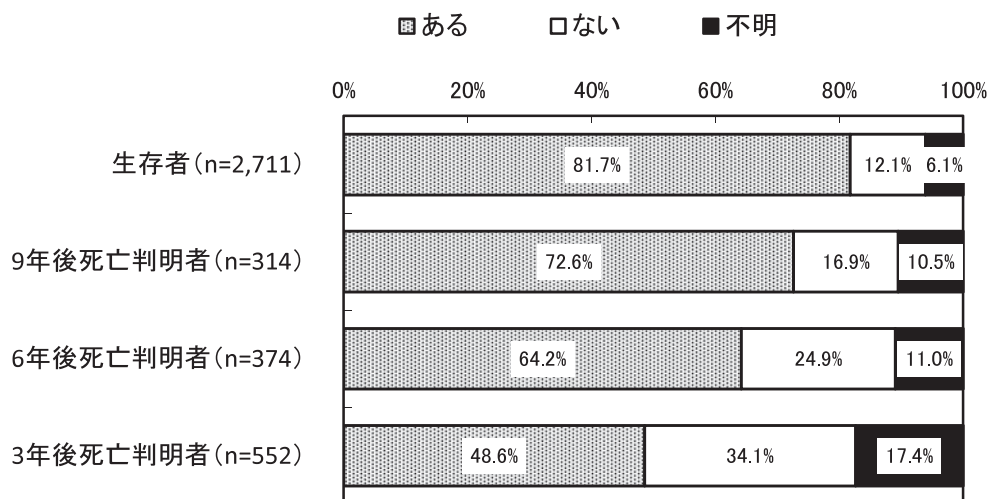


図37 気力－男性

<気力 - 女性>

「毎日の生活で気力を感じているか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者2,311人(77.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者100人(58.8%)、6年後に死亡が判明した者108人(57.8%)、3年後に死亡が判明した者111人(45.1%)だった。

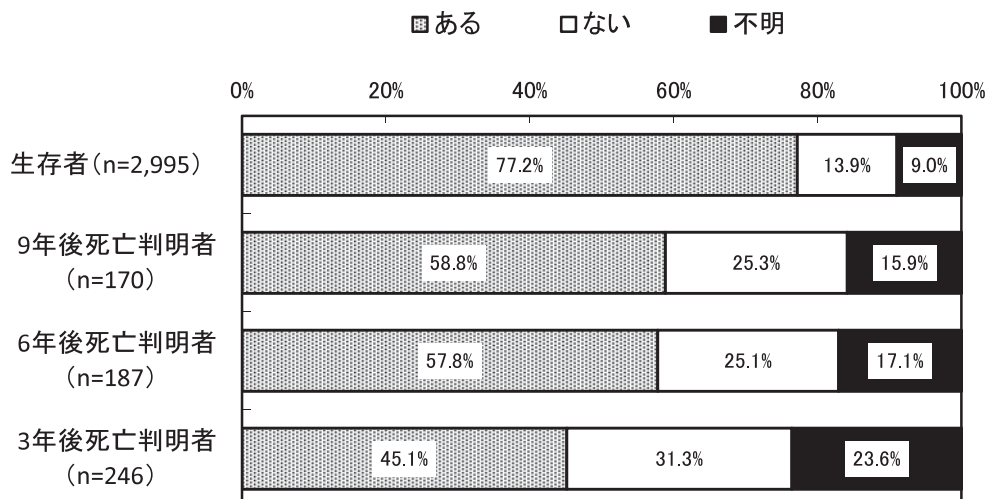


図38 気力－女性

(5) 人的サポートへの満足

① 周りとのつきあい

< 周りとのつきあい - 男性 >

「周りの人とうまくいっているか」の問いに対して、「はい(うまくいっている)」と回答した者は、生存者 2,528人(93.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者283人(90.1%)、6年後に死亡が判明した者331人(88.5%)、3年後に死亡が判明した者424人(76.8%)だった。

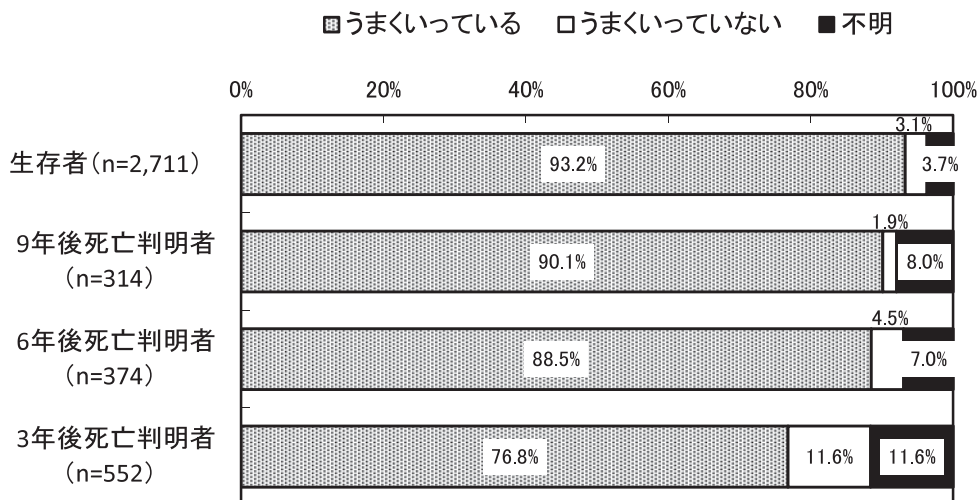


図39 周りとのつきあい—男性

< 周りとのつきあい - 女性 >

「周りの人とうまくいっているか」の問いに対して、「はい(うまくいっている)」と回答した者は、生存者 2,836人(94.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者153人(90.0%)、6年後に死亡が判明した者155人(82.9%)、3年後に死亡が判明した者184人(74.8%)だった。

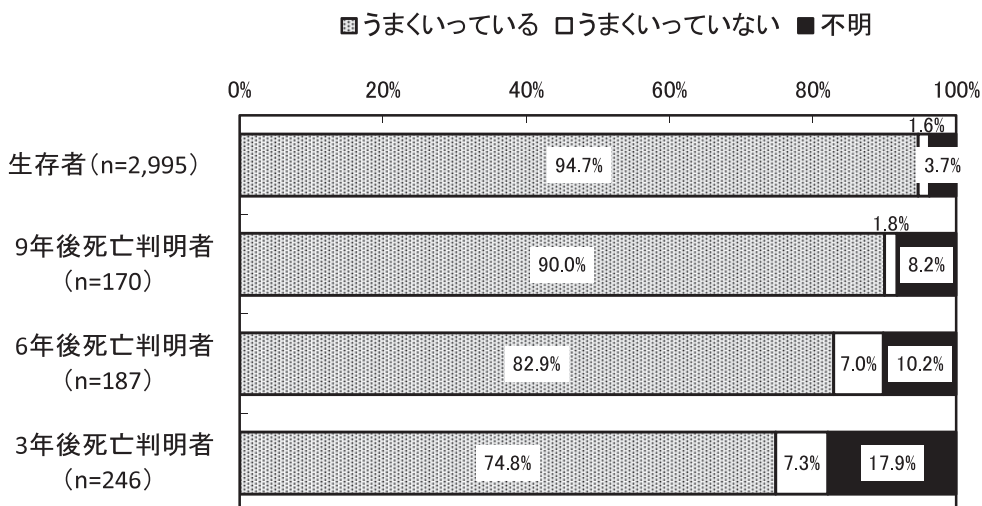


図40 周りとのつきあい—女性

②友人とのつきあい

<友人とのつきあい－男性>

「友人とのつきあいに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,440人(90.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者261人(93.1%)、6年後に死亡が判明した者292人(78.1%)、3年後に死亡が判明した者371人(67.2%)だった。

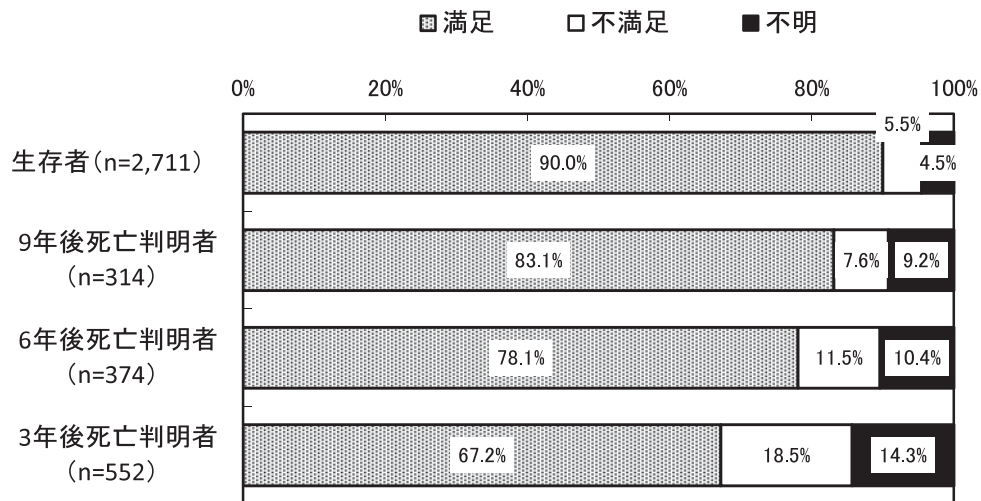


図41 友人とのつきあい－男性

<友人とのつきあい－女性>

「友人とのつきあいに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,742人(91.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者134人(78.8%)、6年後に死亡が判明した者143人(76.5%)、3年後に死亡が判明した者156人(63.4%)だった。

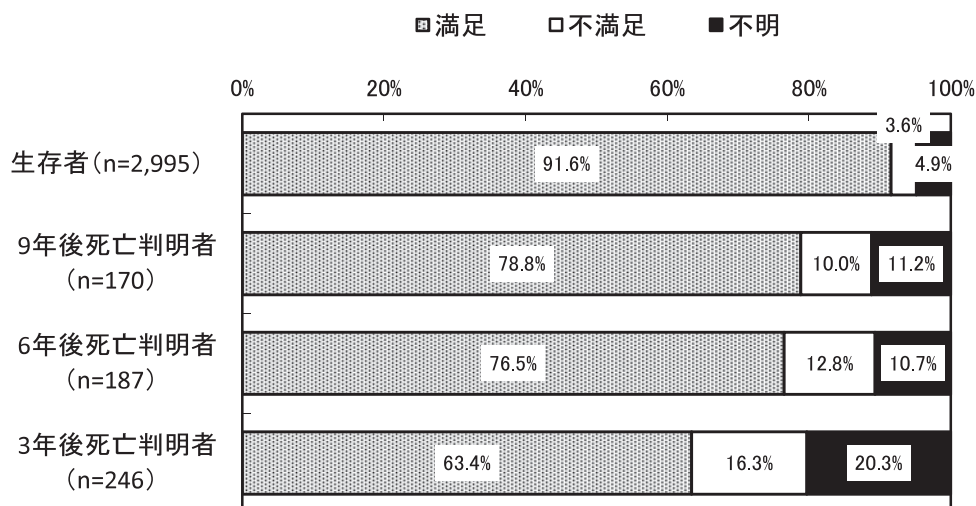


図42 友人とのつきあい－女性

③家族とのつきあい

<家族とのつきあい - 男性>

「家族とのつきあいに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,449人(90.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者265人(84.4%)、6年後に死亡が判明した者314人(84.0%)、3年後に死亡が判明した者422人(76.4%)だった。

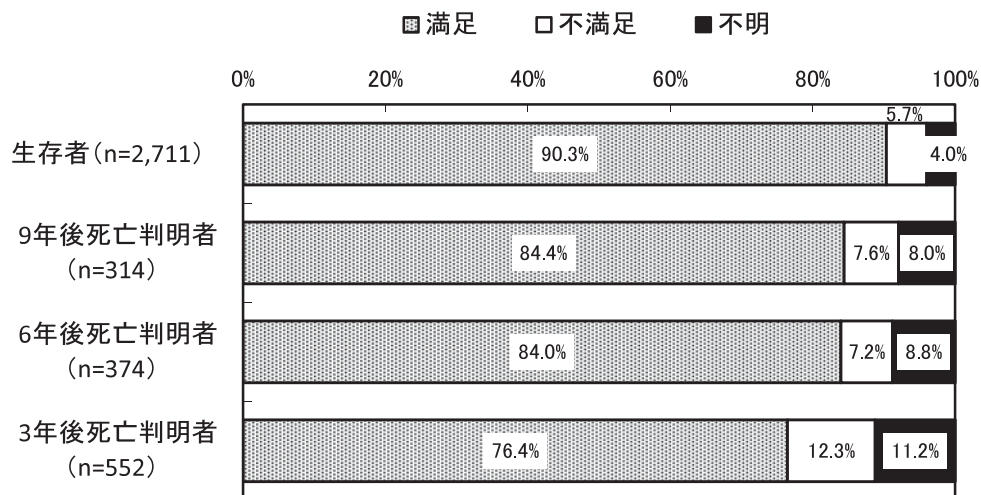


図43 家族とのつきあい—男性

<家族とのつきあい - 女性>

「家族とのつきあいに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,627人(87.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者137人(80.6%)、6年後に死亡が判明した者152人(81.3%)、3年後に死亡が判明した者172人(69.9%)だった。

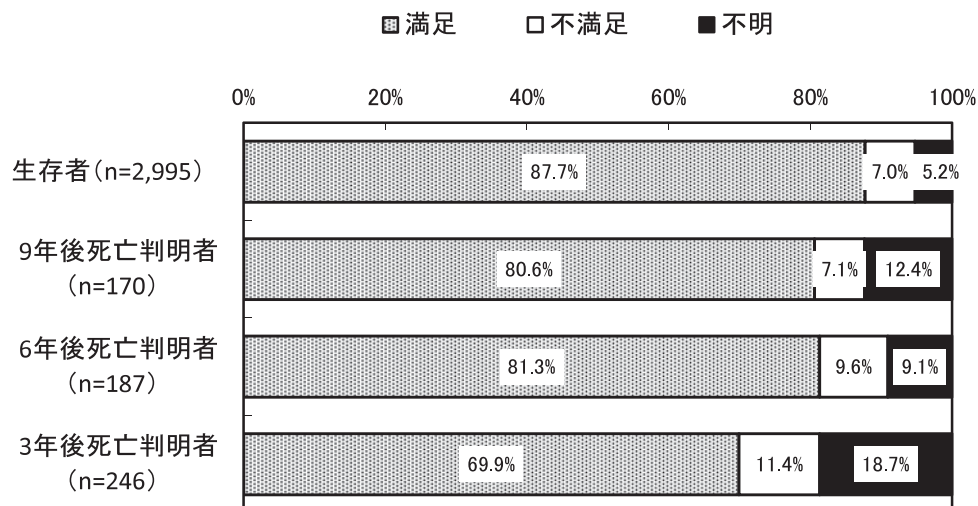


図44 家族とのつきあい—女性

④用事を頼める人

<用事を頼める人 - 男性>

「気楽に用事を頼める人がいるか」の問いに対して、「はい(いる)」と回答した者は、生存者2,379人(87.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者268人(85.4%)、6年後に死亡が判明した者318人(85.0%)、3年後に死亡が判明した者438人(79.3%)だった。

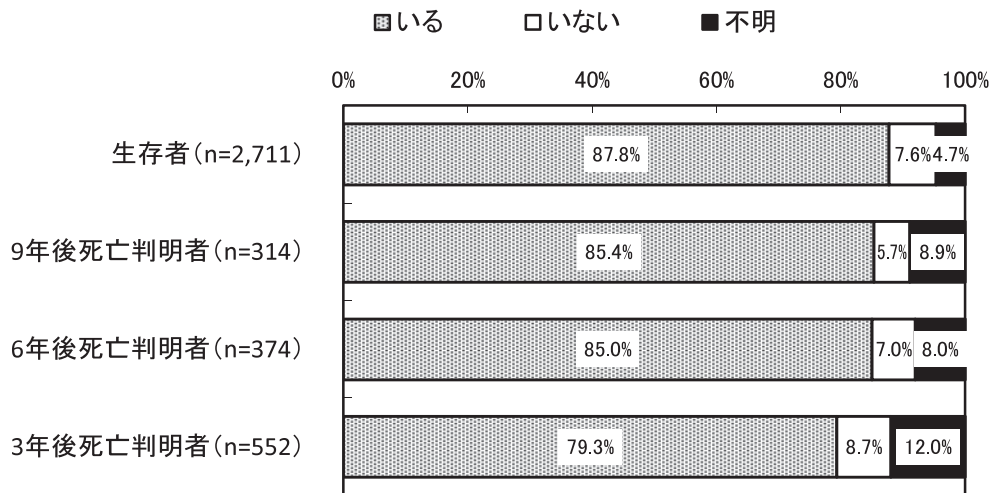


図45 用事を頼める人—男性

<用事を頼める人 - 女性>

「気楽に用事を頼める人がいるか」の問いに対して、「はい(いる)」と回答した者は、生存者2,646人(88.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者142人(83.5%)、6年後に死亡が判明した者153人(81.8%)、3年後に死亡が判明した者182人(74.0%)だった。

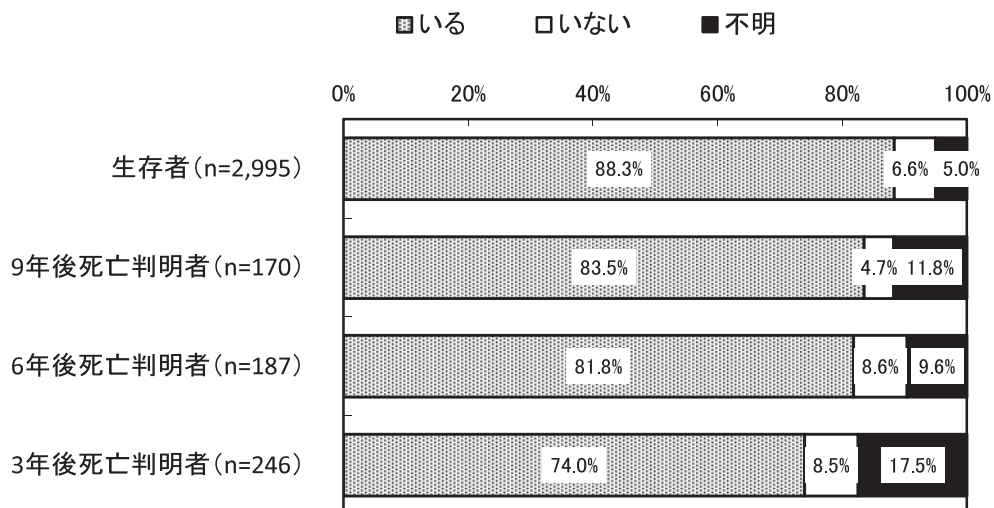


図46 用事を頼める人—女性

⑤近所とのつきあい

<近所とのつきあい - 男性>

「近所付き合いに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,368人(87.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者270人(86.0%)、6年後に死亡が判明した者309人(82.6%)、3年後に死亡が判明した者392人(71.0%)だった。

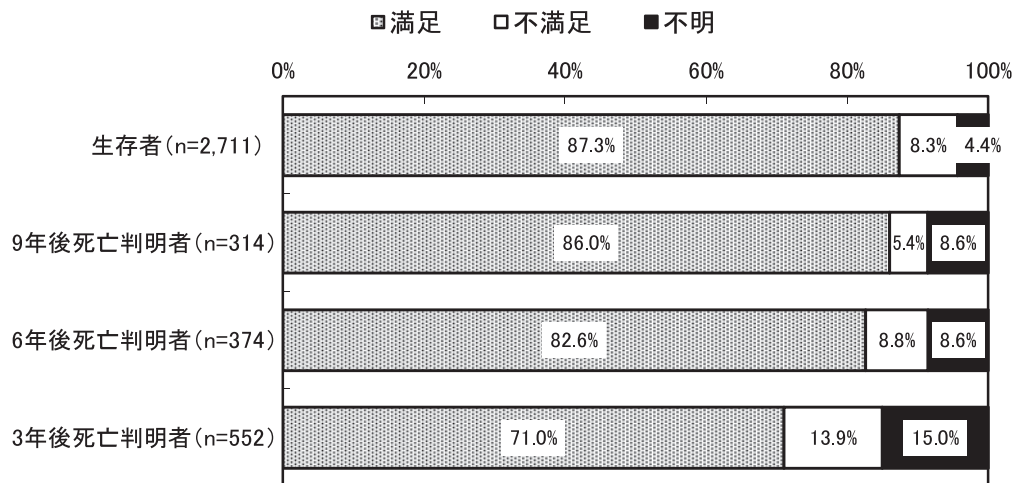


図47 近所とのつきあい—男性

<近所とのつきあい - 女性>

「近所付き合いに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,693人(89.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者137人(80.6%)、6年後に死亡が判明した者144人(77.0%)、3年後に死亡が判明した者171人(69.5%)だった。

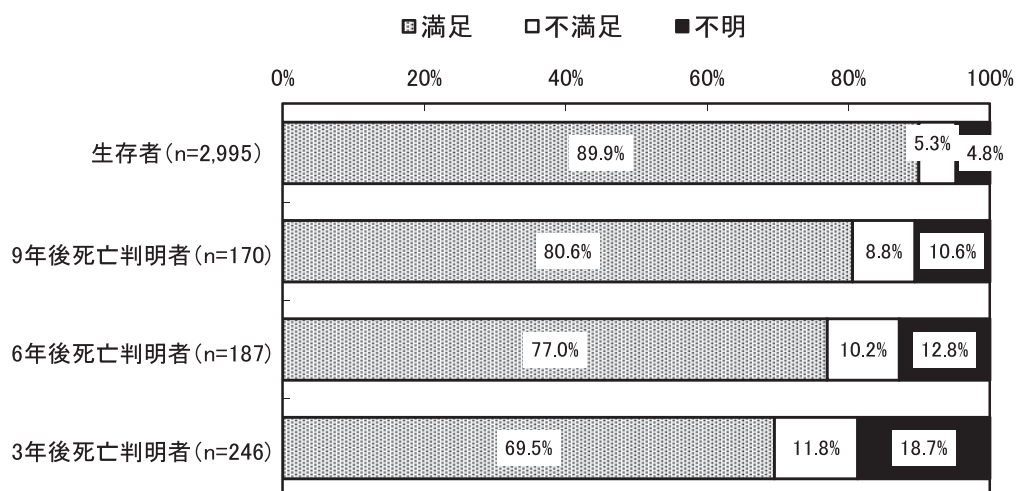


図48 近所とのつきあい—女性

(6) 経済的満足

① 経済的余裕

<経済的余裕 - 男性>

「ある程度お金に余裕があるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者1,653人(61.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者177人(56.4%)、6年後に死亡が判明した者214人(57.2%)、3年後に死亡が判明した者272人(49.3%)だった。

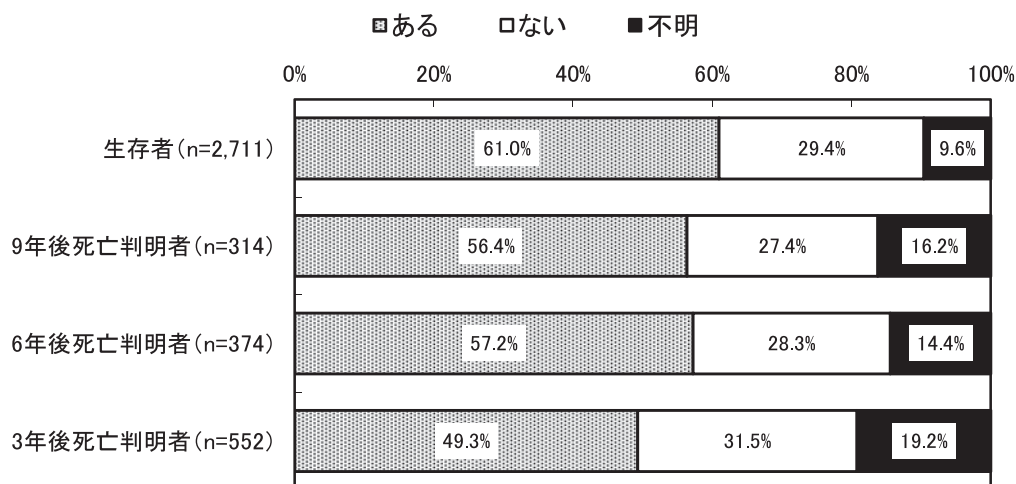


図49 経済的余裕—男性

<経済的余裕 - 女性>

「ある程度お金に余裕があるか」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者1,811人(60.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者94人(55.3%)、6年後に死亡が判明した者106人(56.7%)、3年後に死亡が判明した者119人(48.4%)だった。

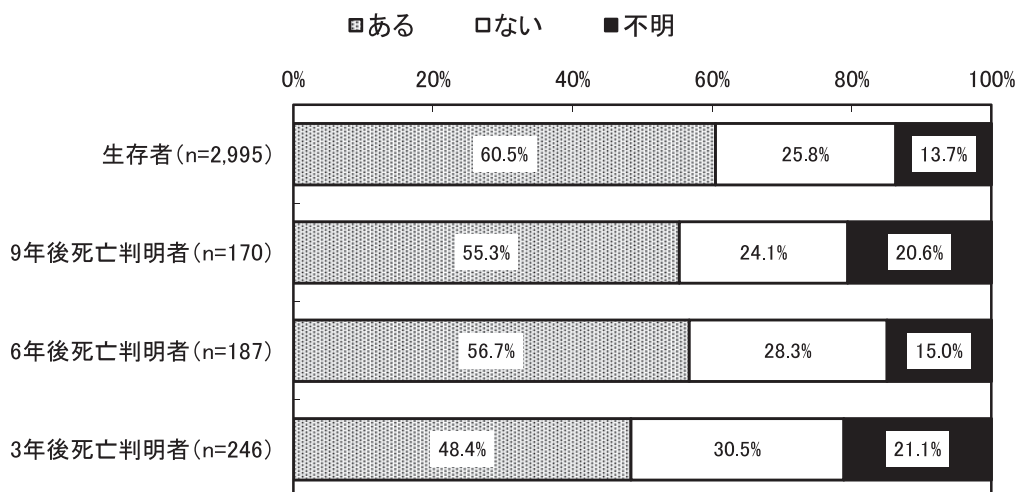


図50 経済的余裕—女性

②小遣いへの満足度

<小遣いへの満足 - 男性>

「小遣いに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者1,924人(71.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者229人(72.9%)、6年後に死亡が判明した者247人(66.0%)、3年後に死亡が判明した者340人(61.6%)だった。

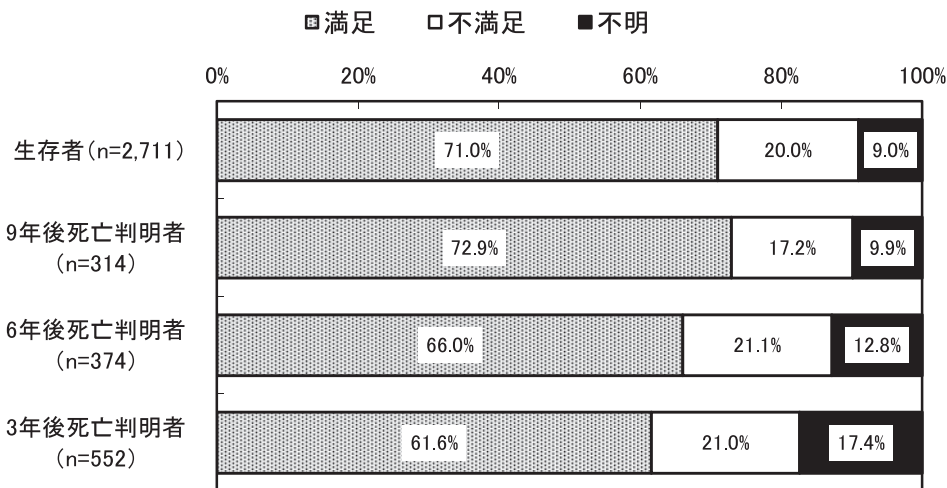


図51 小遣いへの満足—男性

<小遣いへの満足 - 女性>

「小遣いに満足しているか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,092人(69.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者115人(67.6%)、6年後に死亡が判明した者127人(67.9%)、3年後に死亡が判明した者141人(57.3%)だった。

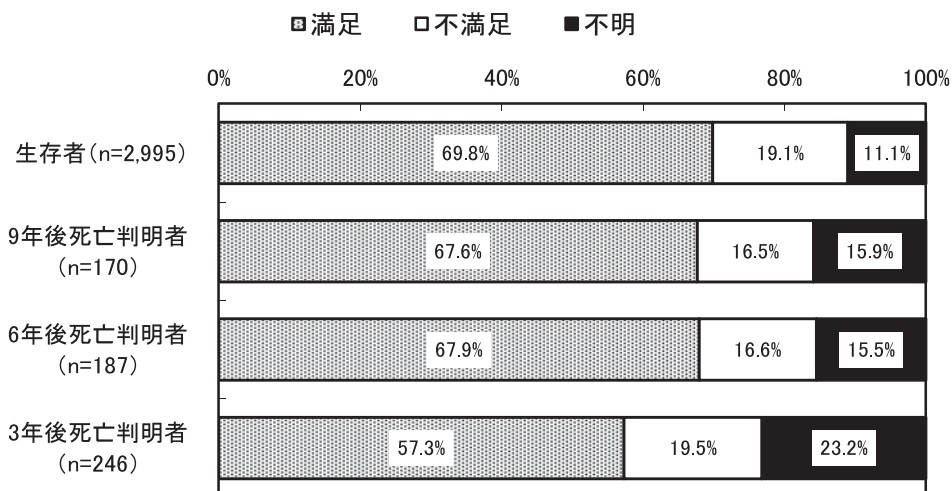


図52 小遣いへの満足—女性

③お金の蓄え

<お金の蓄え - 男性>

「何かの時のためにお金の蓄えはありますか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者1,924人(71.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者229人(72.9%)、6年後に死亡が判明した者247人(66.0%)、3年後に死亡が判明した者340人(61.6%)だった。

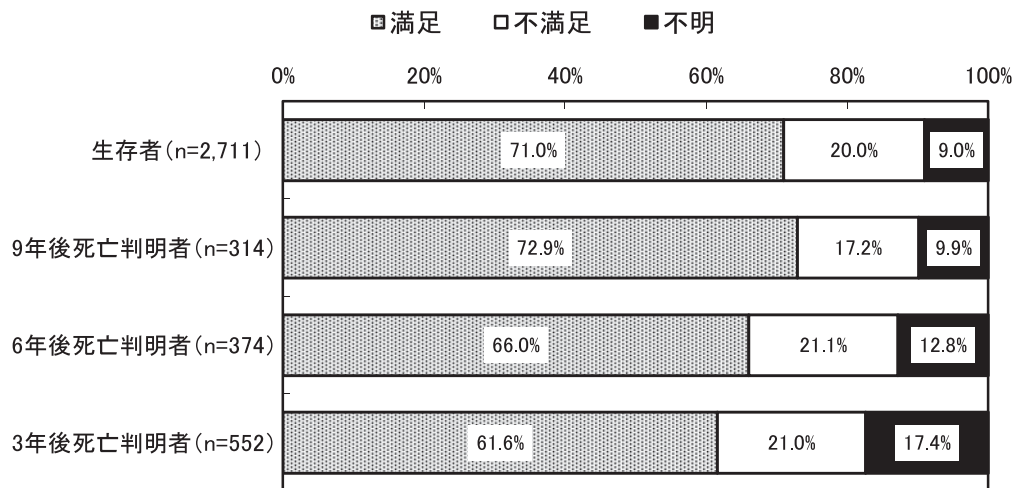


図53 お金の蓄え - 男性

<お金の蓄え - 女性>

「何かの時のためにお金の蓄えはありますか」の問いに対して、「はい(満足)」と回答した者は、生存者2,092人(69.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者115人(67.6%)、6年後に死亡が判明した者127人(67.9%)、3年後に死亡が判明した者141人(57.3%)だった。

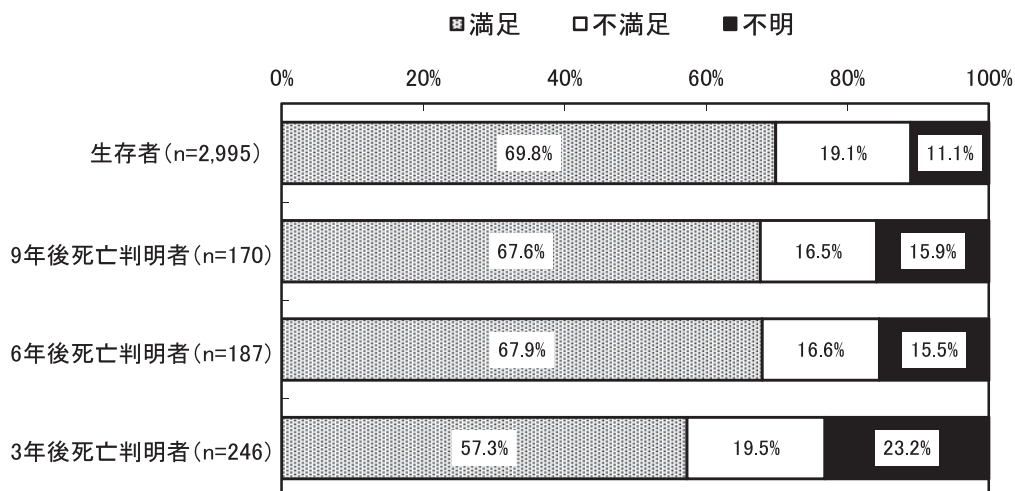


図54 お金の蓄え - 女性

9 社会活動

(1) 収入を得る仕事

<収入を得る仕事 - 男性>

「現在、給料や謝礼を得るような仕事をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者1,593人(58.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者217人(69.1%)、6年後に死亡が判明した者275人(73.5%)、3年後に死亡が判明した者451人(81.7%)だった。

一方、「週5回以上」と回答した者は、生存者473人(17.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者31人(9.9%)、6年後に死亡が判明した者28人(7.5%)、3年後に死亡が判明した者27人(4.9%)だった。

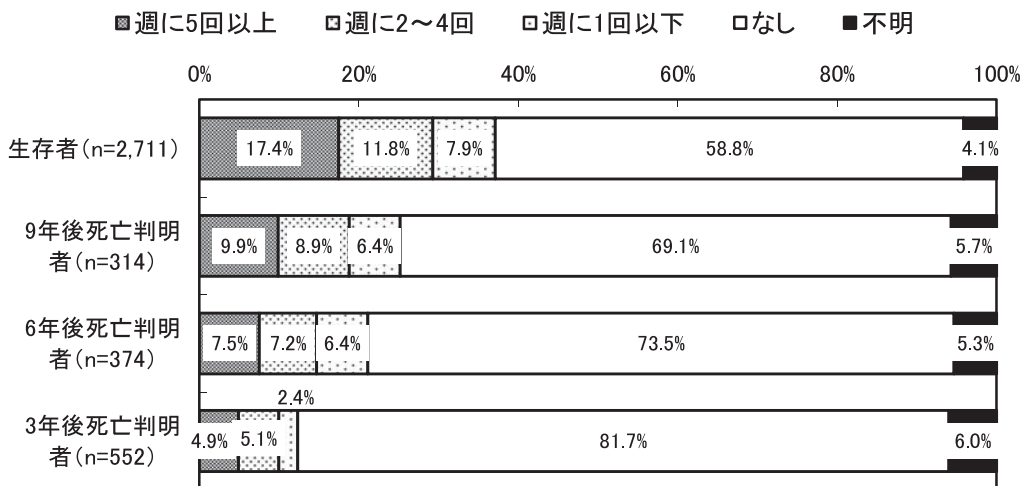


図55 収入を得る仕事－男性

<収入を得る仕事 - 女性>

「現在、給料や謝礼を得るような仕事をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者2,196人(73.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者134人(78.8%)、6年後に死亡が判明した者153人(81.8%)、3年後に死亡が判明した者205人(83.3%)だった。

一方、「週5回以上」と回答した者は、生存者276人(9.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者10人(5.9%)、6年後に死亡が判明した者10人(5.3%)、3年後に死亡が判明した者7人(2.8%)だった。

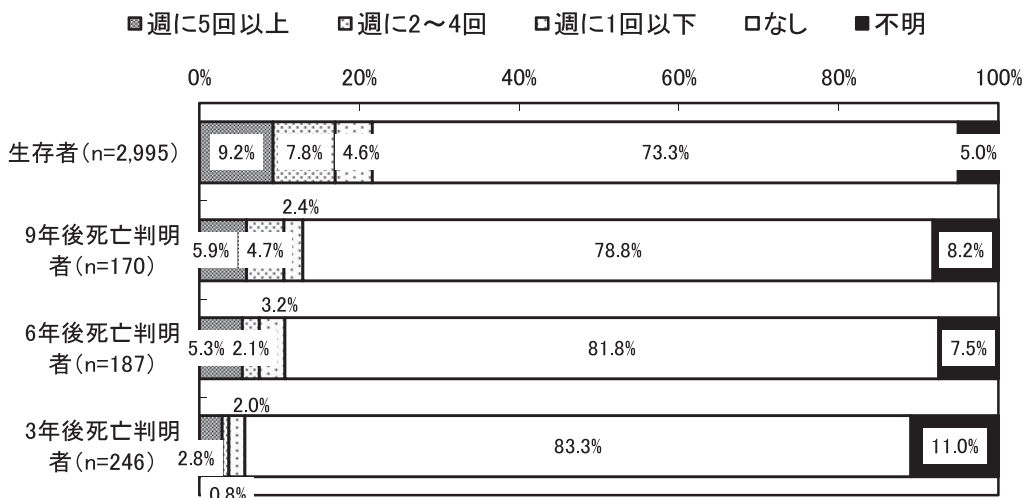


図56 収入を得る仕事－女性

(2) 家事や家の作業など

<家事や家の作業など - 男性>

「家事や家の中の作業、家庭菜園等、収入を得ない仕事・作業をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者610人(22.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者80人(25.5%)、6年後に死亡が判明した者119人(31.8%)、3年後に死亡が判明した者267人(48.4%)だった。

一方、「週5回以上」と回答した者は、生存者749人(27.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者70人(22.3%)、6年後に死亡が判明した者93人(24.9%)、3年後に死亡が判明した者87人

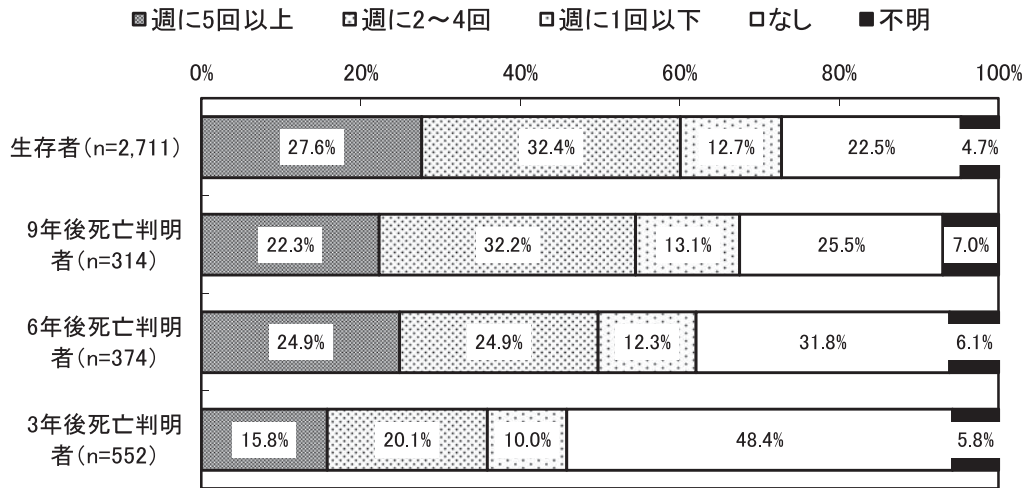


図57 家事や家の作業など - 男性

<家事や家の作業など - 女性>

「家事や家の中の作業、家庭菜園等、収入を得ない仕事・作業をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者529人(17.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者50人(29.4%)、6年後に死亡が判明した者70人(37.4%)、3年後に死亡が判明した者125人(50.8%)だった。

一方、「週5回以上」と回答した者は、生存者1,484人(49.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者59人(34.7%)、6年後に死亡が判明した者57人(30.5%)、3年後に死亡が判明した者47人

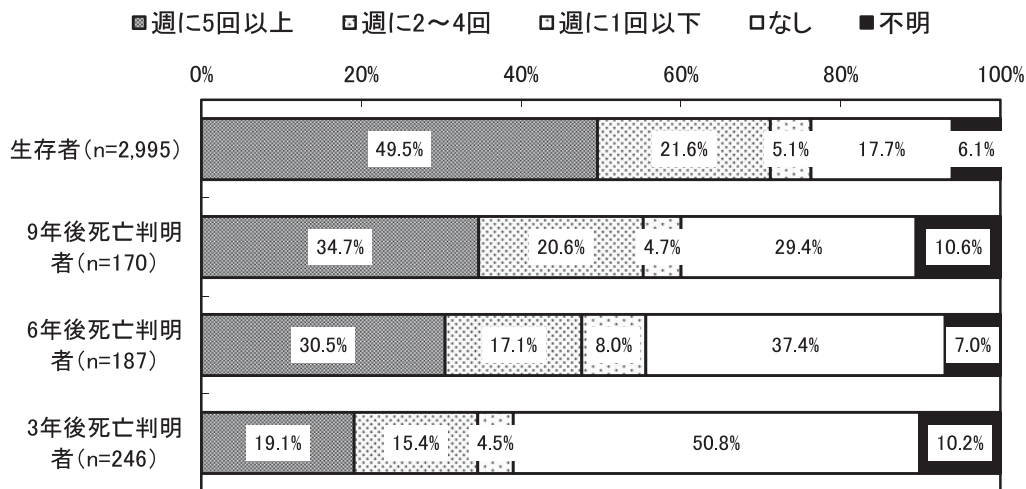


図58 家事や家の作業など - 女性

(3) 地域での活動

<地域での活動 - 男性>

「町内の作業、ボランティア活動などの地域活動をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者529人(17.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者50人(29.4%)、6年後に死亡が判明した者70人(37.4%)、3年後に死亡が判明した者125人(50.8%)だった。

一方、「週1回以下」と回答した者は、生存者714人(26.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者67人(21.3%)、6年後に死亡が判明した者57人(15.2%)、3年後に死亡が判明した者63人(11.4%)だった。

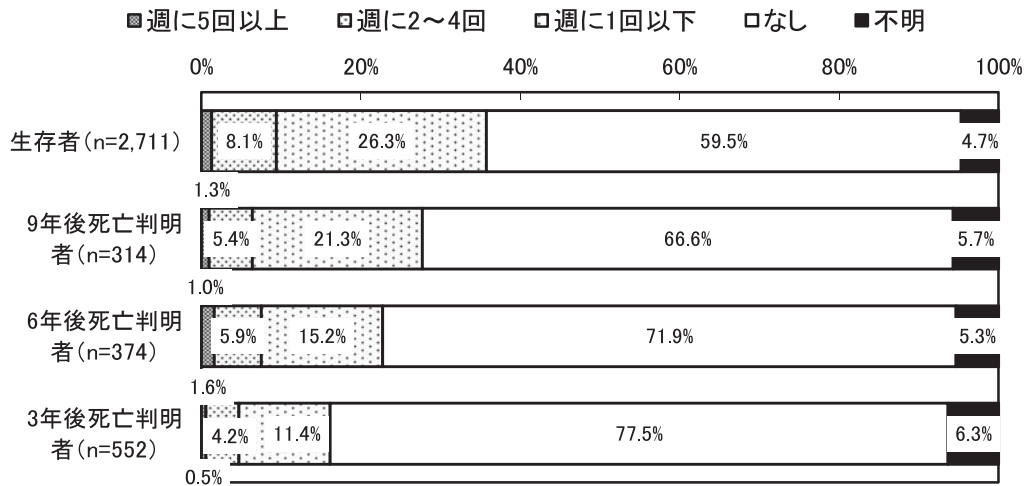


図59 地域での活動－男性

<地域での活動 - 女性>

「町内の作業、ボランティア活動などの地域活動をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者2,107人(70.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者135人(79.4%)、6年後に死亡が判明した者152人(81.3%)、3年後に死亡が判明した者194人(78.9%)だった。

一方、「週1回以下」と回答した者は、生存者550人(18.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者21人(12.4%)、6年後に死亡が判明した者18人(9.6%)、3年後に死亡が判明した者21人(8.5%)だった。

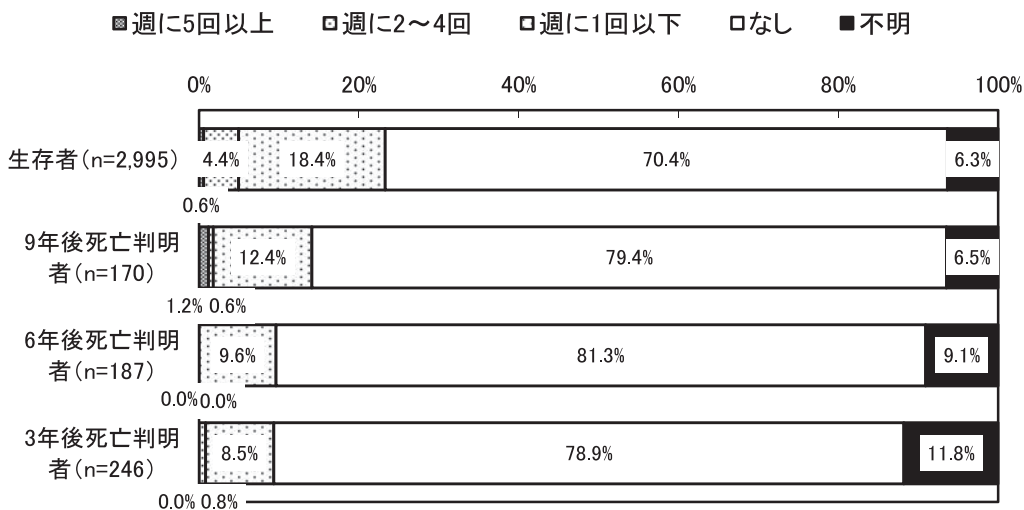


図60 地域での活動－女性

(4) 自分以外の人への用事や世話

<自分以外の人への用事や世話 - 男性>

「自分以外の人への用事や世話をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者1,428人(52.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者194人(61.8%)、6年後に死亡が判明した者251人(67.1%)、3年後に死亡が判明した者386人(69.9%)だった。

一方、「週5回以上」と回答した者は、生存者146人(5.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者17人(5.4%)、6年後に死亡が判明した者17人(4.5%)、3年後に死亡が判明した者27人(4.9%)だった。

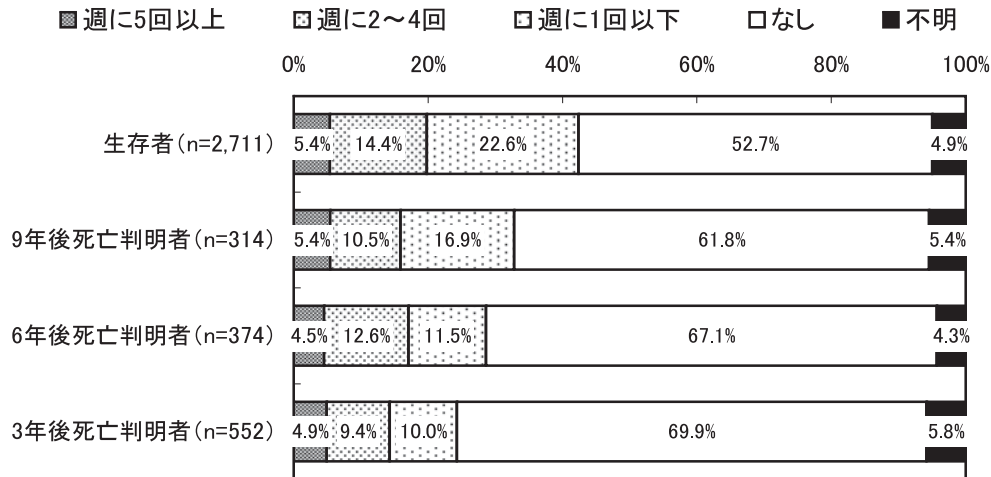


図61 自分以外の人への用事や世話 - 男性

<自分以外の人への用事や世話 - 女性>

「自分以外の人への用事や世話をしているか」の問いに対して、「なし」と回答した者は、生存者1,569人(52.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者109人(64.1%)、6年後に死亡が判明した者130人(69.5%)、3年後に死亡が判明した者180人(73.2%)だった。

一方、「週5回以上」と回答した者は、生存者666人(22.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者24人(14.1%)、6年後に死亡が判明した者23人(12.3%)、3年後に死亡が判明した者16人(6.5%)だった。

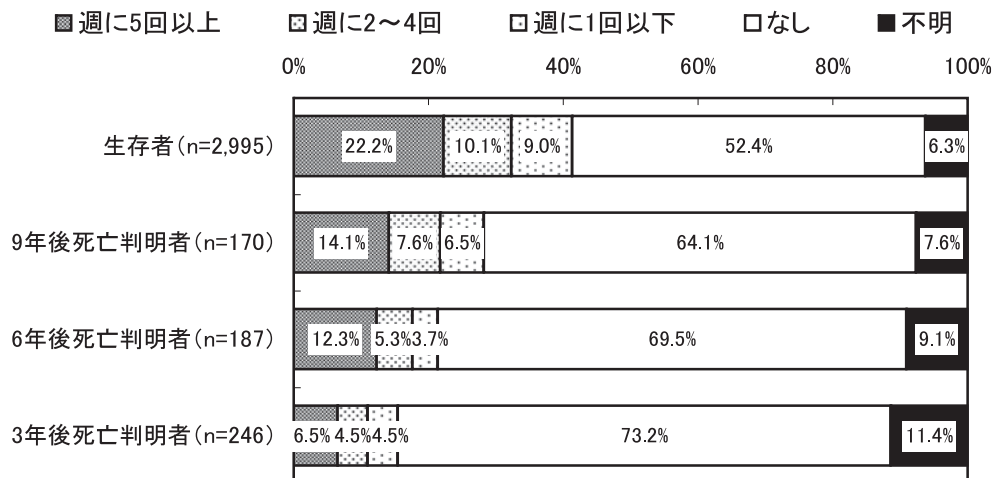


図62 自分以外の人への用事や世話 - 女性

(5) 市民講座等の参加

<市民講座等、学習的活動の参加 - 男性>

「市民講座、老人学級や趣味の教室など学習的活動に参加しているか」の問いに対して、「現在参加している」と回答した者は、生存者654人(24.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者75人(23.9%)、6年後に死亡が判明した者66人(17.6%)、3年後に死亡が判明した者72人(13.0%)だった。

一方、「参加していない(参加したことがないを含む)」と回答した者は、生存者1,495人(55.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者179人(57.0%)、6年後に死亡が判明した者237人(63.5%)、3年後に死亡が判明した者374人(67.8%)だった。

1年以内に参加:「現在は参加していないが、ここ1年のうちに参加したことがある」

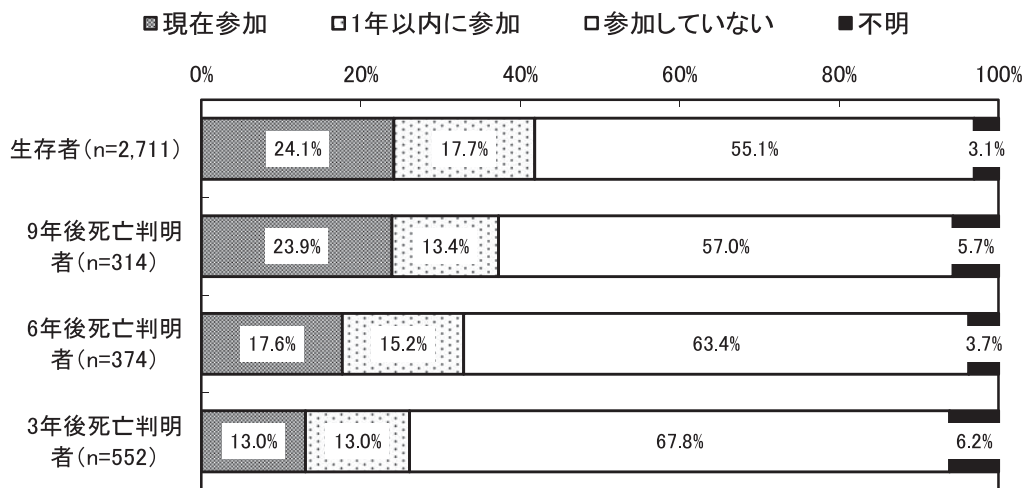


図63 市民講座等、学習的活動の参加 - 男性

<市民講座等、学習的活動の参加 - 女性>

「市民講座、老人学級や趣味の教室など学習的活動に参加しているか」の問いに対して、「現在参加している」と回答した者は、生存者1,250人(41.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者69人(40.6%)、6年後に死亡が判明した者39人(20.9%)、3年後に死亡が判明した者47人(19.1%)だった。

一方、「参加していない(参加したことがないを含む)」と回答した者は、生存者1,208人(40.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者77人(45.3%)、6年後に死亡が判明した者100人(53.5%)、3年後に死亡が判明した者153人(62.2%)だった。

1年以内に参加:「現在は参加していないが、ここ1年のうちに参加したことがある」

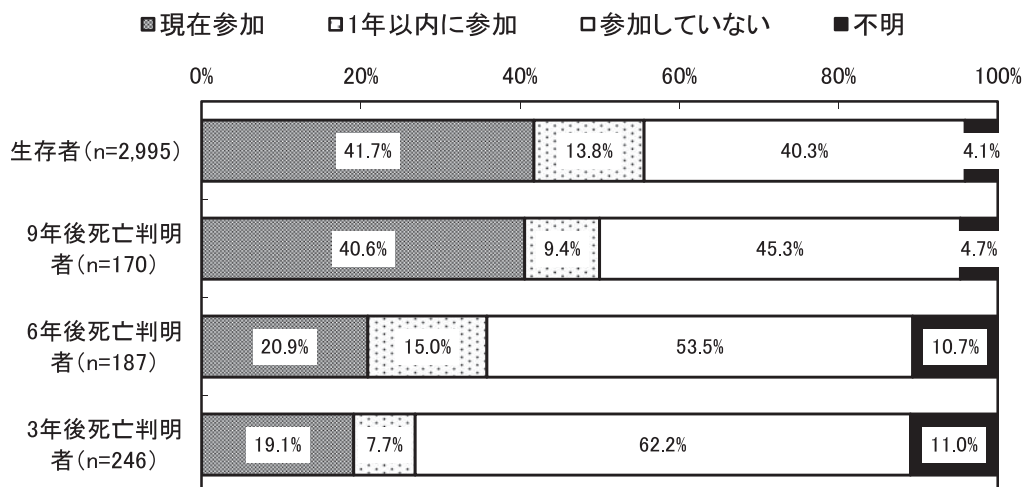


図64 市民講座等、学習的活動の参加 - 女性

10 生活活動力

(1) 一人で外出

<一人で外出 - 男性>

「バスや電車を使って一人で外出できるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,503人(92.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者264人(84.1%)、6年後に死亡が判明した者269人(71.9%)、3年後に死亡が判明した者301人(54.5%)だった。

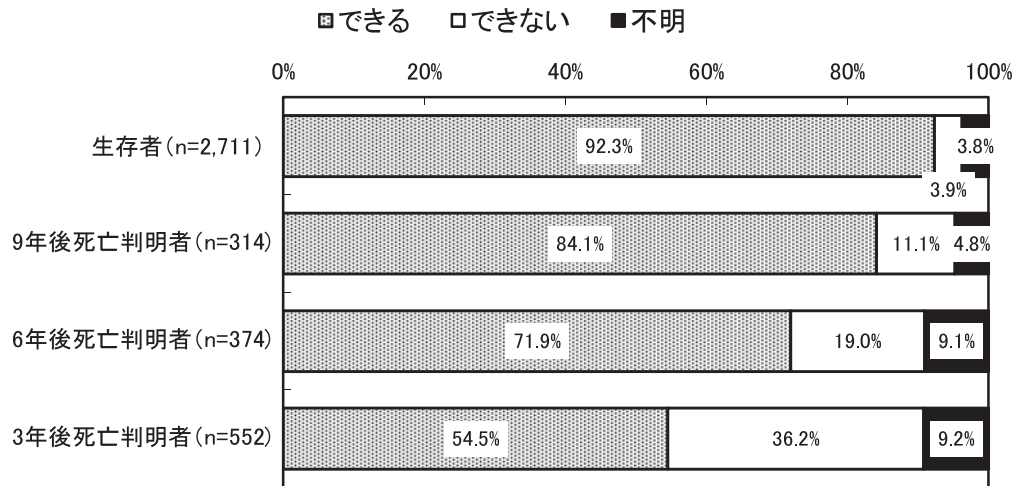


図65 一人で外出 - 男性

<一人で外出 - 女性>

「バスや電車を使って一人で外出できるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,626人(87.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者115人(67.6%)、6年後に死亡が判明した者95人(50.8%)、3年後に死亡が判明した者104人(42.3%)だった。

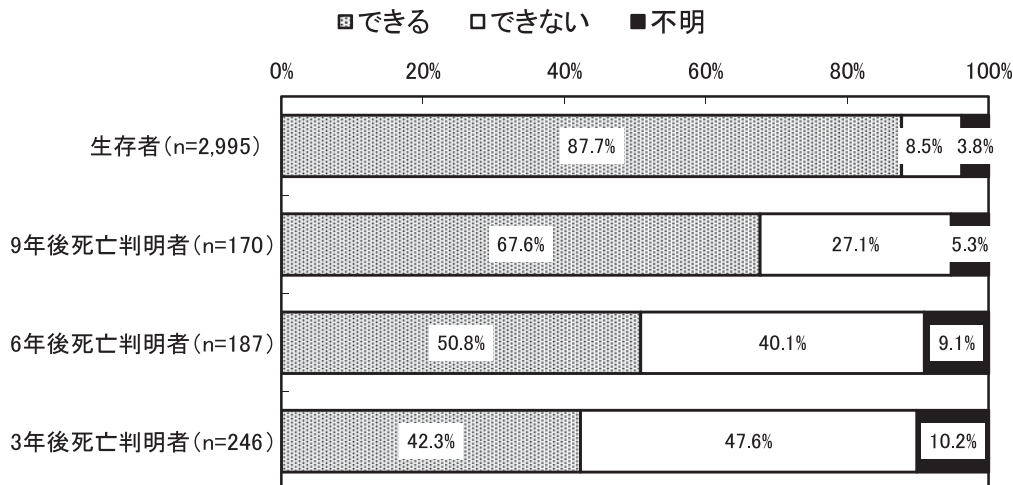


図66 一人で外出 - 女性

(2) 買い物

<買い物 - 男性>

「日用品の買い物が自分でできるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,539人(93.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者269人(85.7%)、6年後に死亡が判明した者289人(77.3%)、3年後に死亡が判明した者320人(58.0%)だった。

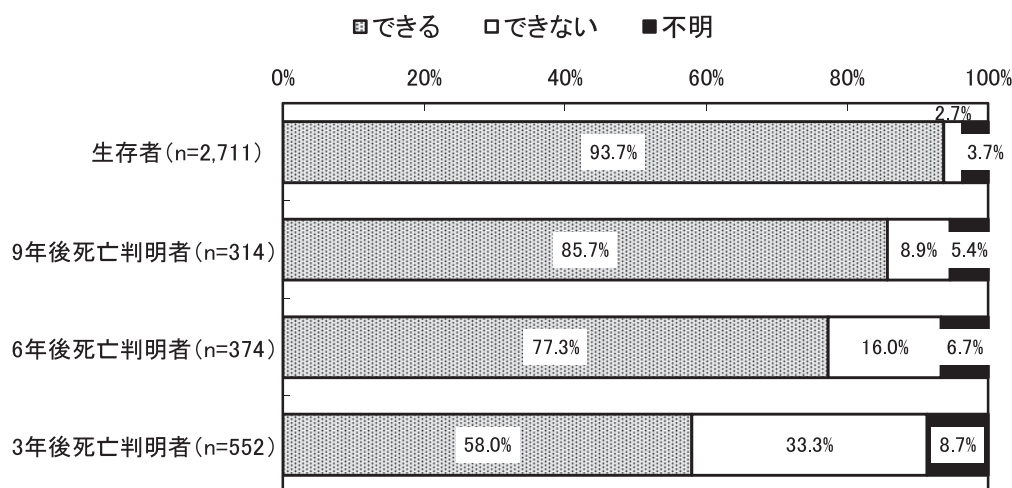


図67 買い物—男性

<買い物 - 女性>

「日用品の買い物が自分でできるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,776人(92.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者124人(72.9%)、6年後に死亡が判明した者118人(63.1%)、3年後に死亡が判明した者125人(50.8%)だった。

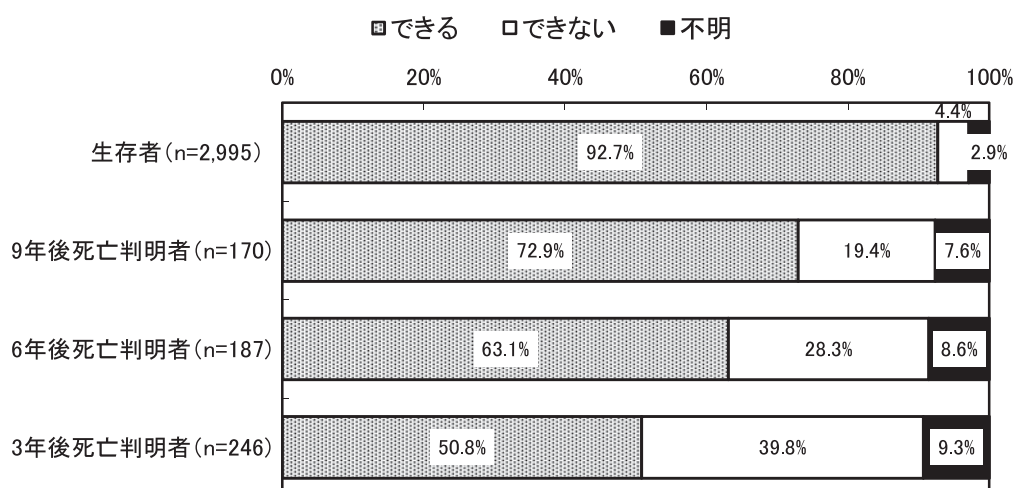


図68 買い物—女性

(3) 食事の支度

<食事の支度 - 男性>

「食事の支度が自分でできるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,049人(75.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者192人(61.1%)、6年後に死亡が判明した者205人(54.8%)、3年後に死亡が判明した者220人(39.9%)だった。

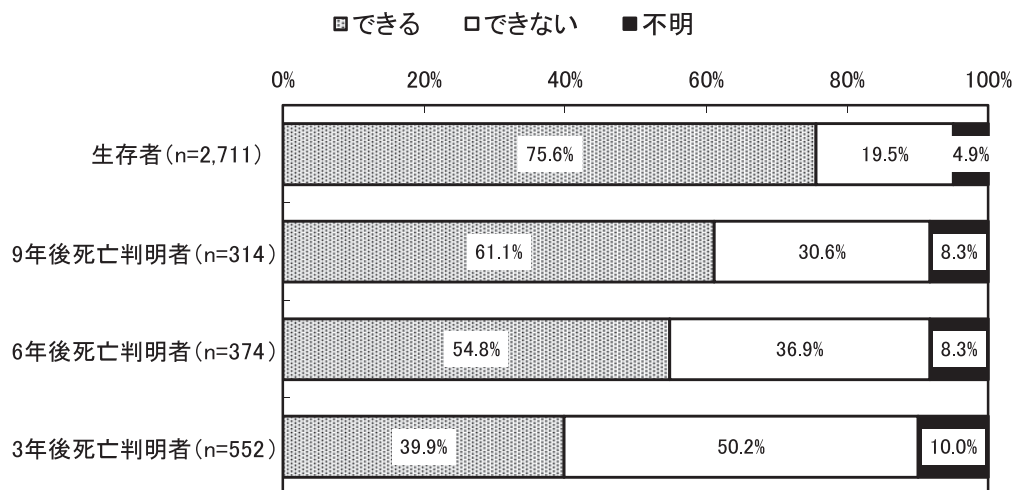


図69 食事の支度—男性

<食事の支度 - 女性>

「食事の支度が自分でできるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,774人(92.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者127人(74.7%)、6年後に死亡が判明した者117人(62.6%)、3年後に死亡が判明した者119人(48.4%)だった。

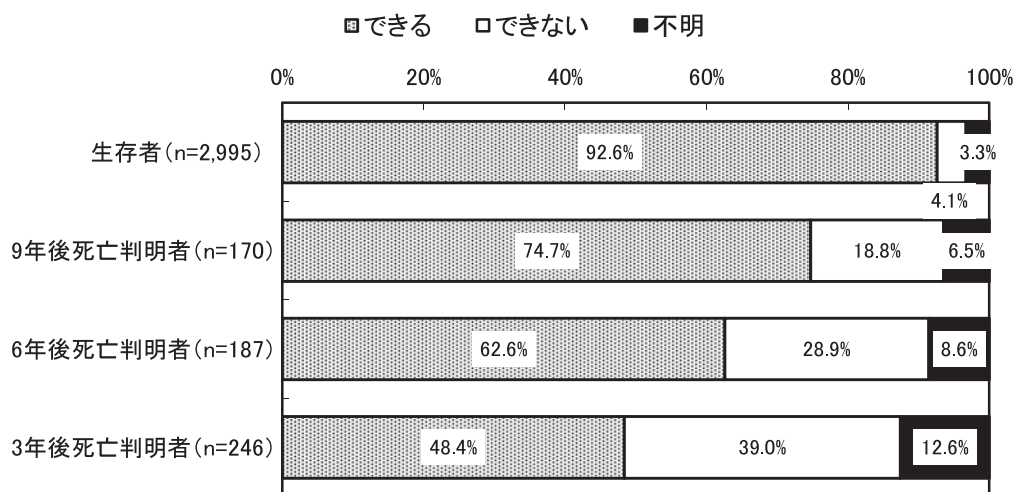


図70 食事の支度—女性

(4) 身の回りのこと

<身の回りのこと - 男性>

「自分の身の回りのことができるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,584人(95.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者282人(89.8%)、6年後に死亡が判明した者316人(84.5%)、3年後に死亡が判明した者388人(70.3%)だった。

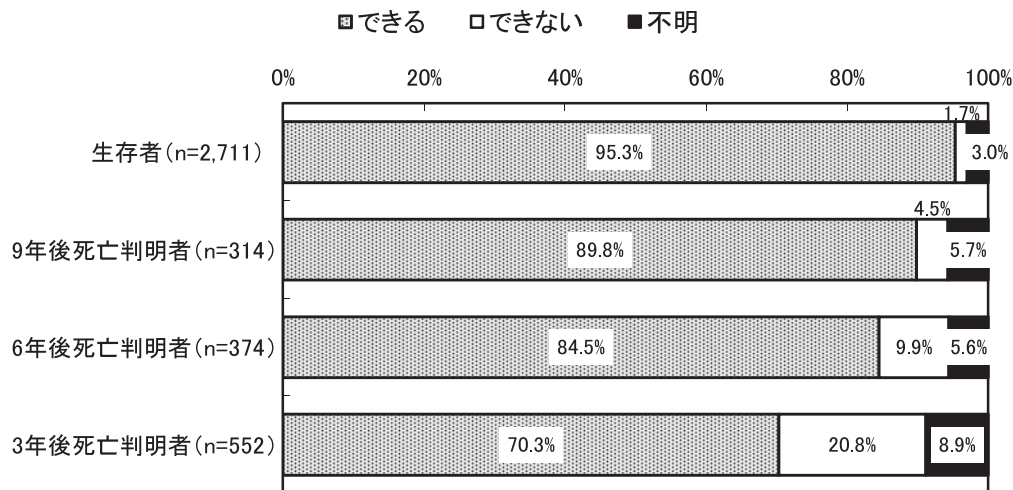


図71 身の回りのこと—男性

<身の回りのこと - 女性>

「自分の身の回りのことができるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,913人(97.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者161人(94.7%)、6年後に死亡が判明した者156人(83.4%)、3年後に死亡が判明した者177人(72.0%)だった。

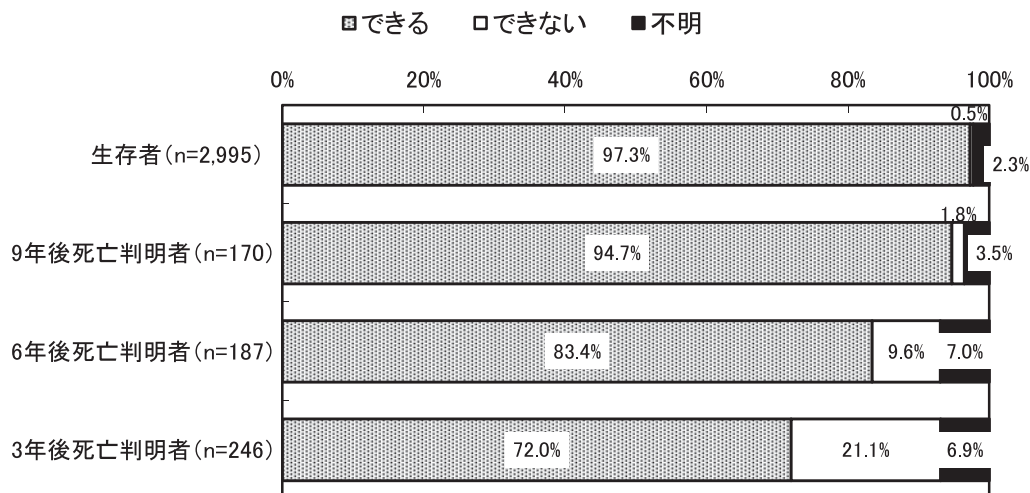


図72 身の回りのこと—女性

(5) 金銭の管理

<金銭の管理 - 男性>

「金銭の管理や計算は自分でできるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,535人(93.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者280人(89.2%)、6年後に死亡が判明した者307人(82.1%)、3年後に死亡が判明した者369人(66.8%)だった。

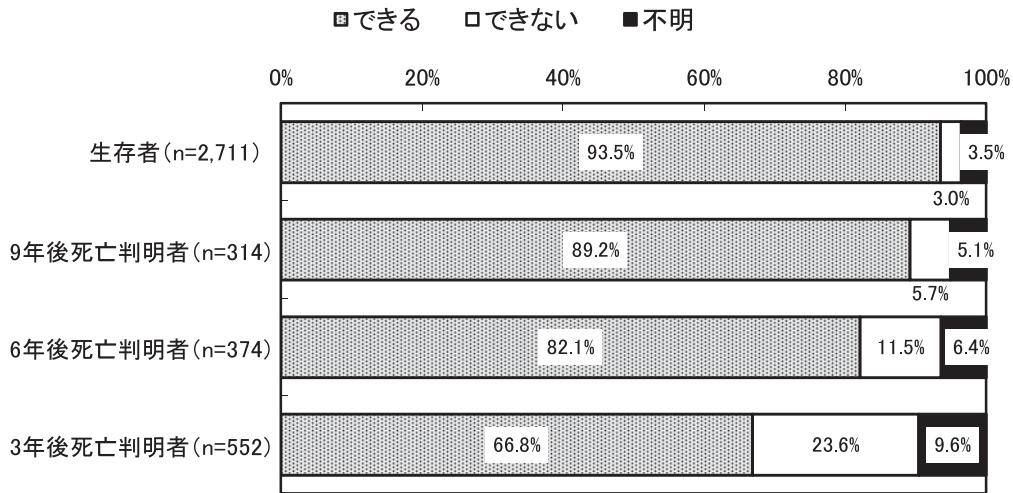


図73 金銭の管理—男性

<金銭の管理 - 女性>

「金銭の管理や計算は自分でできるか」の問いに対して、「はい(できる)」と回答した者は、生存者2,850人(95.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者147人(86.5%)、6年後に死亡が判明した者141人(75.4%)、3年後に死亡が判明した者166人(67.5%)だった。

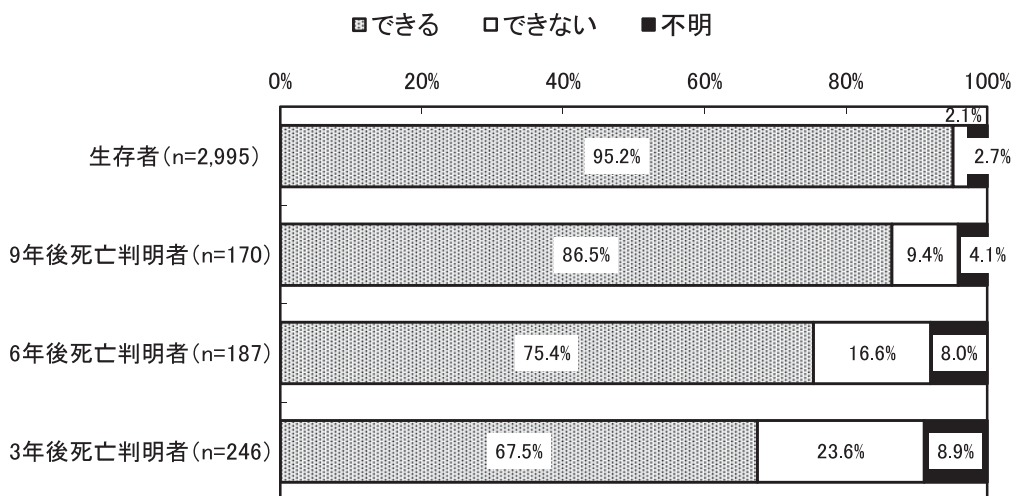


図74 金銭の管理—女性

(6) 宗教的な心

<宗教的な心 - 男性>

「宗教的な心を大切にしているか」の問いに対して、「はい(大切にしている)」と回答した者は、生存者1,901人(70.1%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者219人(69.7%)、6年後に死亡が判明した者229人(61.2%)、3年後に死亡が判明した者298人(54.0%)だった。

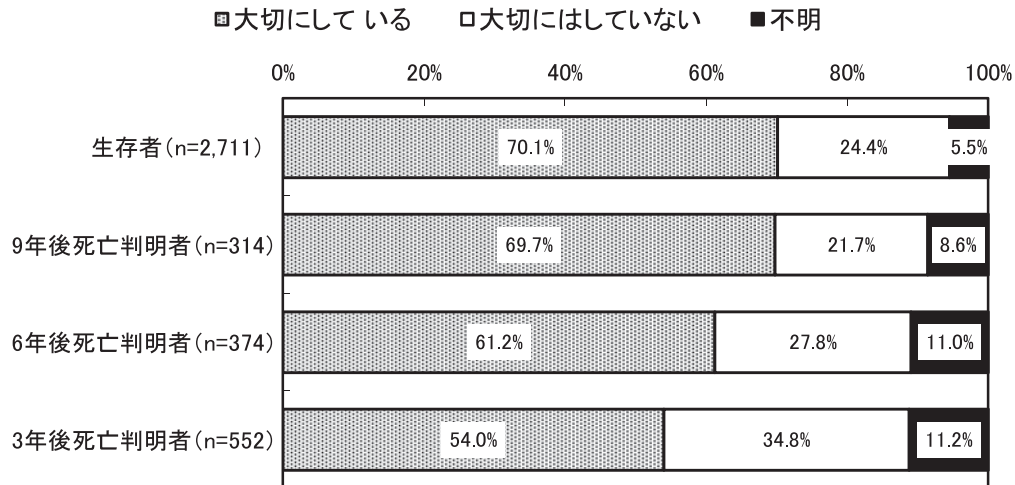


図75 宗教的な心—男性

<宗教的な心 - 女性>

「宗教的な心を大切にしているか」の問いに対して、「はい(大切にしている)」と回答した者は、生存者2,390人(79.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者130人(76.5%)、6年後に死亡が判明した者135人(72.2%)、3年後に死亡が判明した者146人(59.3%)だった。

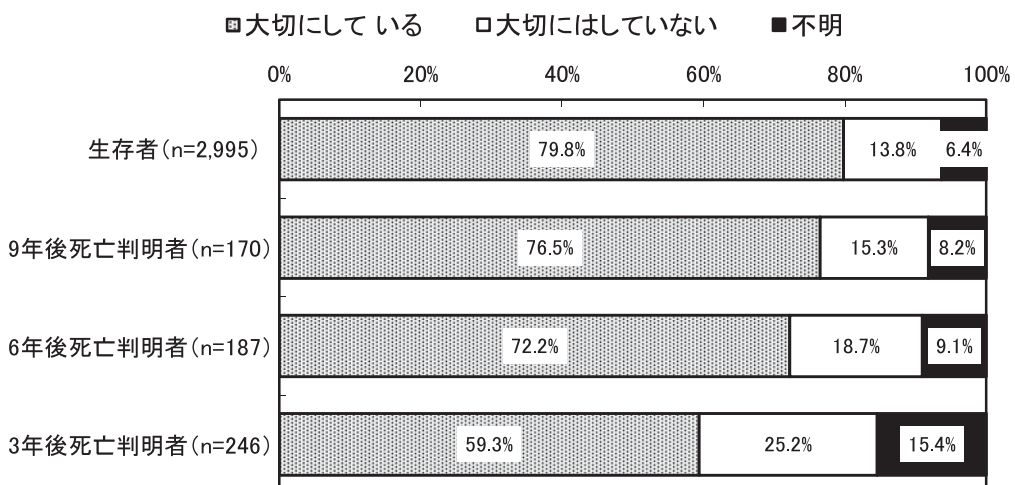


図76 宗教的な心—女性

(7) 生活リズム

<生活リズム - 男性>

「生活時間は規則的か」の問いに対して、「はい(規則的)」と回答した者は、生存者2,288人(84.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者249人(79.3%)、6年後に死亡が判明した者282人(75.4%)、3年後に死亡が判明した者380人(68.8%)だった。

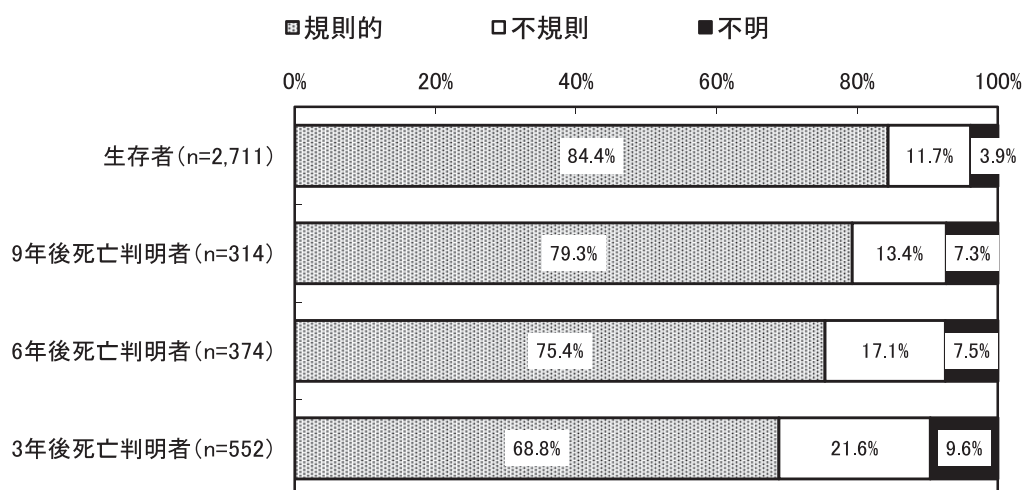


図77 生活リズム-男性

<生活リズム - 女性>

「生活時間は規則的か」の問いに対して、「はい(規則的)」と回答した者は、生存者2,551人(85.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者134人(78.8%)、6年後に死亡が判明した者141人(75.4%)、3年後に死亡が判明した者172人(69.9%)だった。

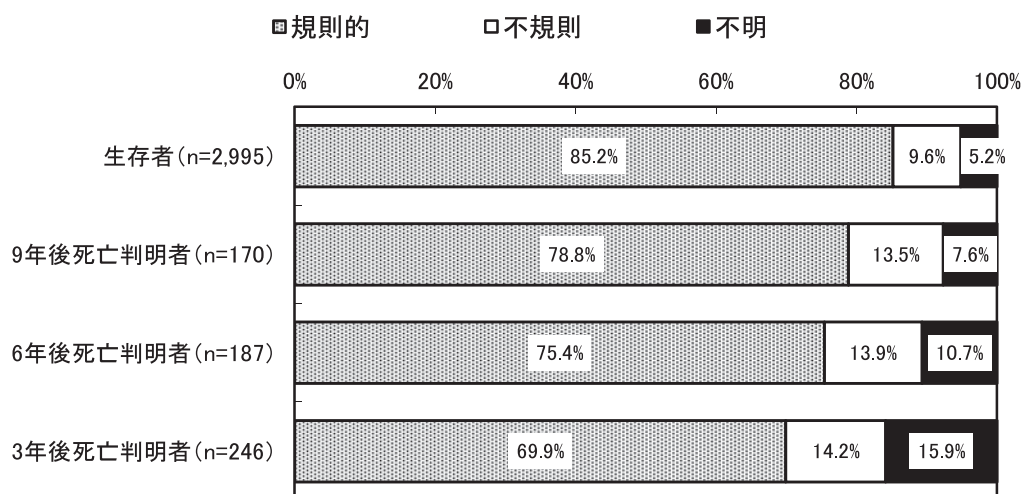


図78 生活リズム-女性

(8) 趣味

<趣味 - 男性>

「趣味をもっているか」の問いに対して、「はい(もっている)」と回答した者は、生存者2,097人(77.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者215人(68.5%)、6年後に死亡が判明した者226人(60.4%)、3年後に死亡が判明した者269人(48.7%)だった。

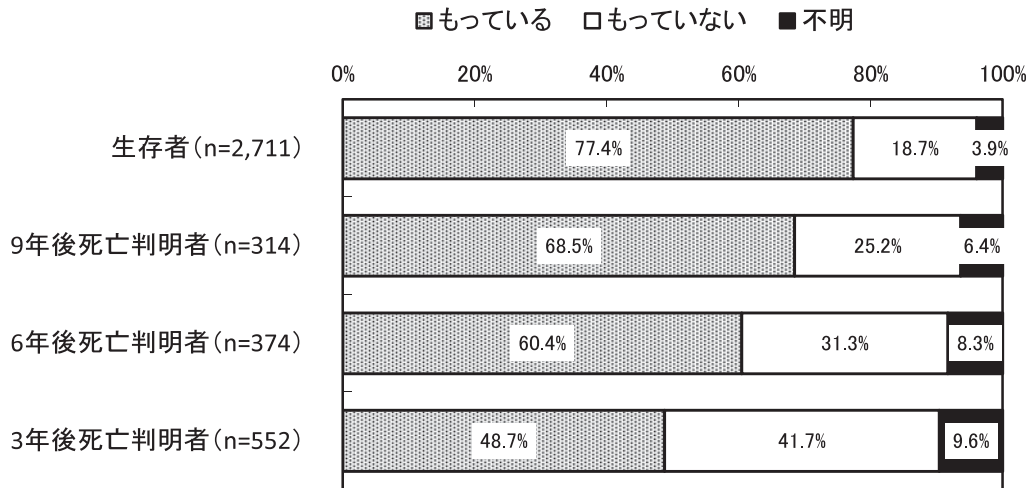


図79 趣味－男性

<趣味 - 女性>

「趣味をもっているか」の問いに対して、「はい(もっている)」と回答した者は、生存者2,146人(71.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者90人(52.9%)、6年後に死亡が判明した者80人(42.8%)、3年後に死亡が判明した者92人(37.4%)だった。

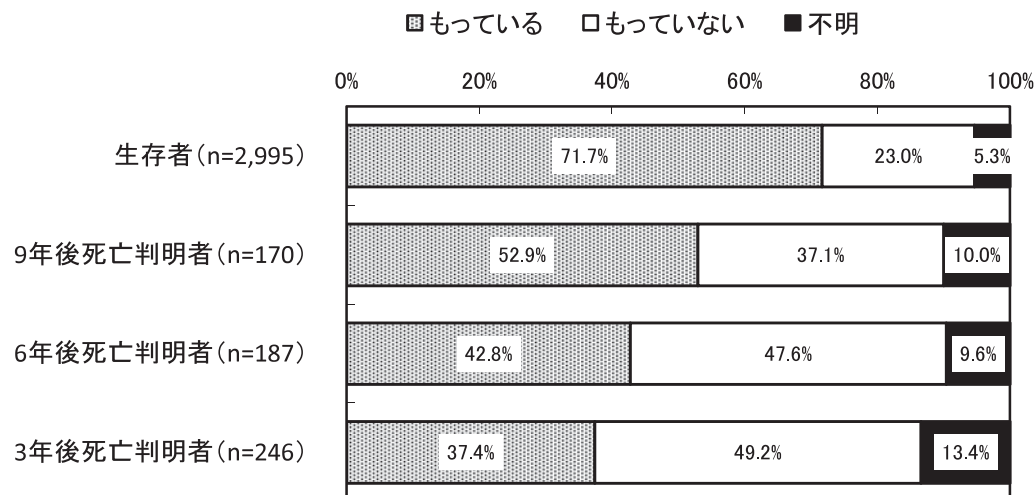


図80 趣味－女性

11 睡眠状況

(1) 睡眠時間

<睡眠時間 - 男性>

「1日に睡眠は何時間くらいとったか」の問いに対し、回答結果を「～4時間」、「5～6時間」、「7～8時間」、「9～10時間」、「11時間～」に区分したところ、4つの群すべてにおいて「7～8時間」が最も高い割合を示していた。内訳は、生存者1,559人(57.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者160人(51.0%)、6年後に死亡が判明した者181人(48.4%)、3年後に死亡が判明した者231人(41.8%)だった。

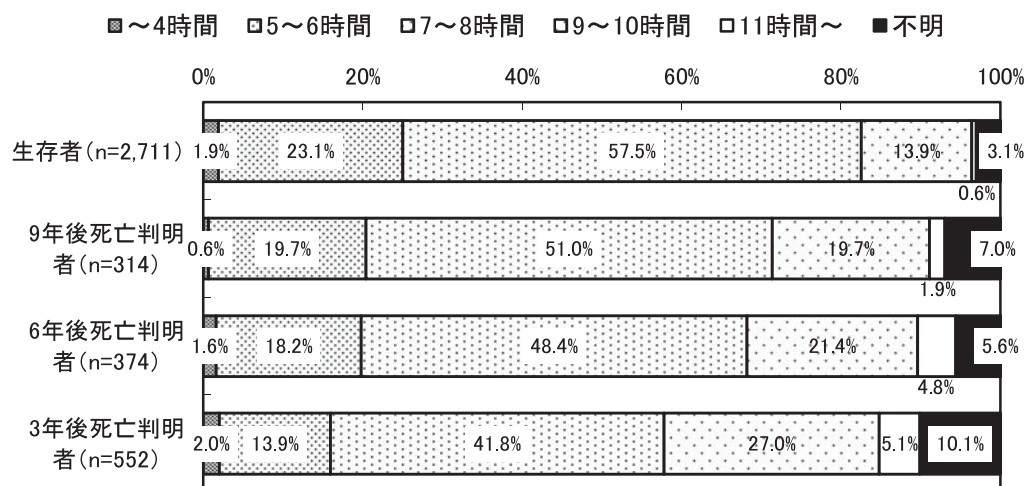


図81 睡眠時間－男性

<睡眠時間 - 女性>

「1日に睡眠は何時間くらいとったか」の問いに対し、回答結果を「～4時間」、「5～6時間」、「7～8時間」、「9～10時間」、「11時間～」に区分したところ、男性と同様4つの群すべてにおいて「7～8時間」が最も高い割合を示していた。内訳は、生存者1,669人(55.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者86人(50.6%)、6年後に死亡が判明した者87人(46.5%)、3年後に死亡が判明した者106人(43.1%)だった。

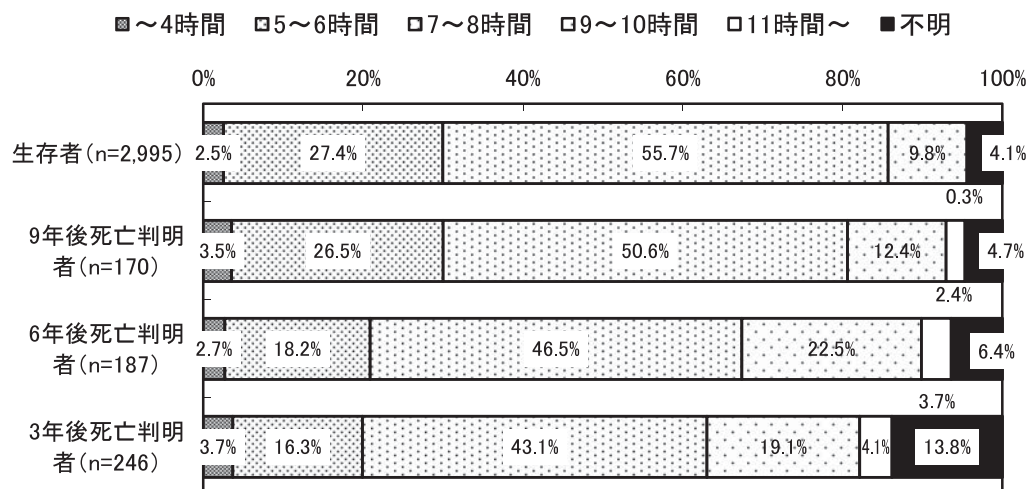


図82 睡眠時間－女性

(2) 睡眠に関する問題(複数回答)

<睡眠に関して困っていることの内訳 - 男性>

「睡眠に関して週に3～4回以上困ることがあったか」の問いに対し、男性は「なかった」と回答した者が最も多く、生存者1,338人(49.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者134人(42.7%)、6年後に死亡が判明した者163人(43.6%)、3年後に死亡が判明した者263人(47.6%)だった。

次に多かった「夜間に目が覚めた(夜間覚醒)」と回答した者は、生存者1,679人(25.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者84人(26.8%)、6年後に死亡が判明した者118人(31.6%)、3年後に死亡が判明した者183人(33.2%)だった。

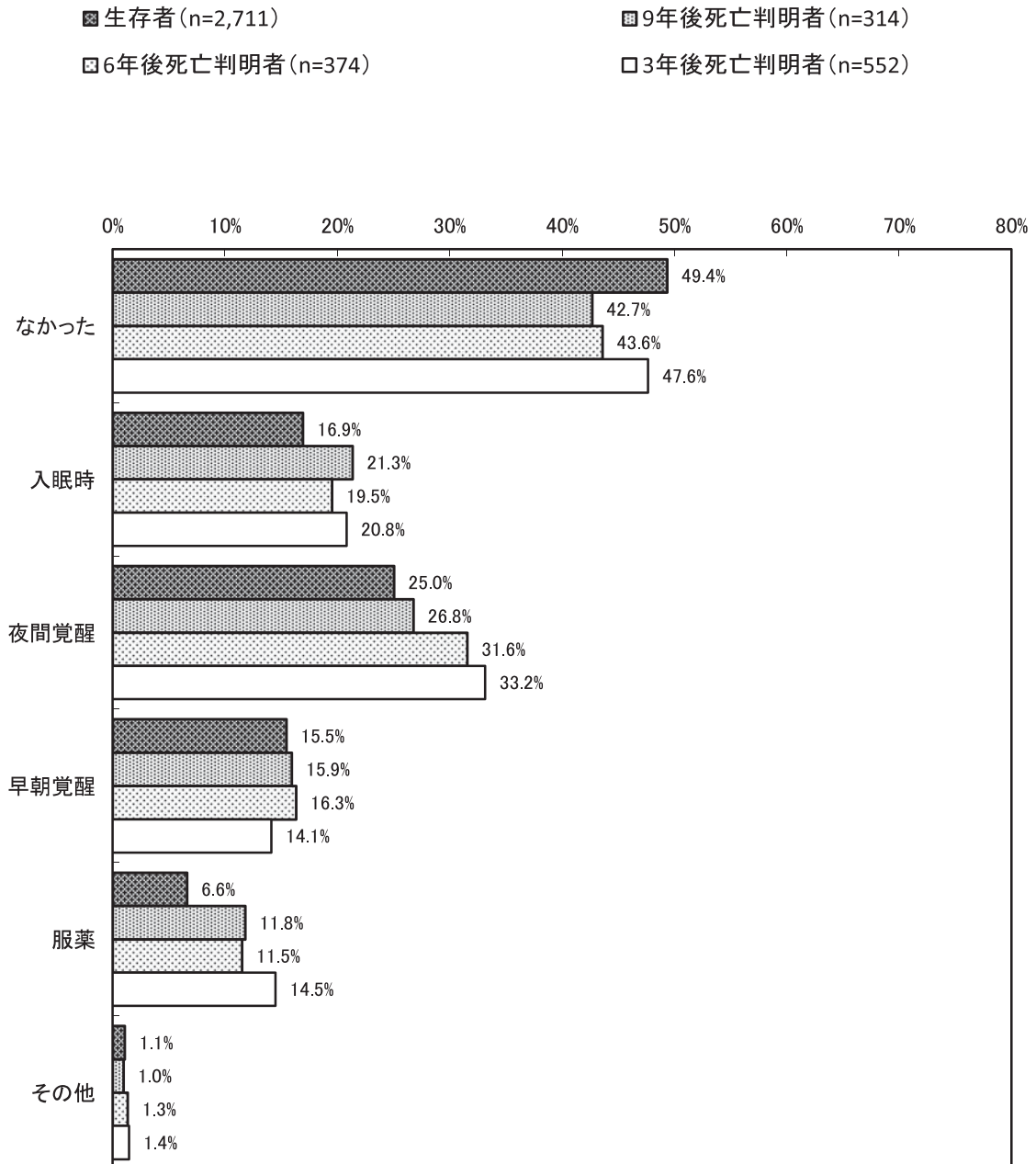


図83 睡眠に関して困っていることの内訳 - 男性

<睡眠に関して困っていることの内訳 - 女性>

「睡眠に関して週に3～4回以上困ることがあったか」の問いに対し、女性についても「なかった」と回答した者が最も多く、生存者1,438人(48.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者88人(51.8%)、6年後に死亡が判明した者99人(52.9%)、3年後に死亡が判明した者138人(56.1%)だった。

次に多かった「夜間に目が覚めた(夜間覚醒)」と回答した者は、生存者988人(33.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者70人(41.2%)、6年後に死亡が判明した者68人(36.4%)、3年後に死亡が判明した者101人(41.1%)だった。

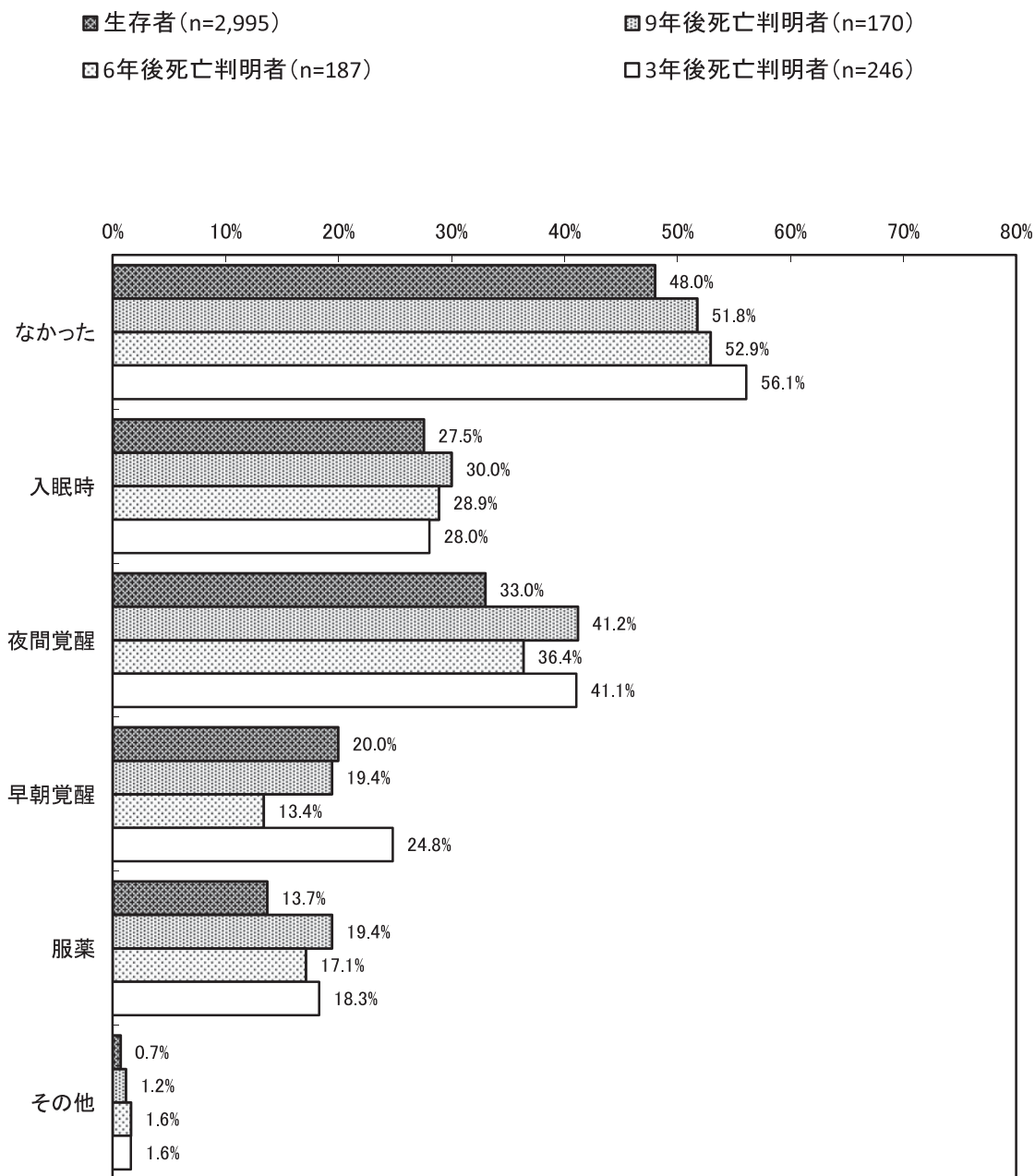


図84 睡眠に関して困っていることの内訳 - 女性

12 身体活動

(1) 歩行

<歩行 - 男性>

「外出などで、1日合計30分以上歩くか」の問いに対して、「週5回以上」と回答した者は、生存者956人(35.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者101人(32.2%)、6年後に死亡が判明した者108人(28.9%)、3年後に死亡が判明した者97人(17.6%)だった。

一方、「しない」と回答した者は、生存者550人(20.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者87人(27.7%)、6年後に死亡が判明した者122人(32.6%)、3年後に死亡が判明した者242人(43.8%)だった。

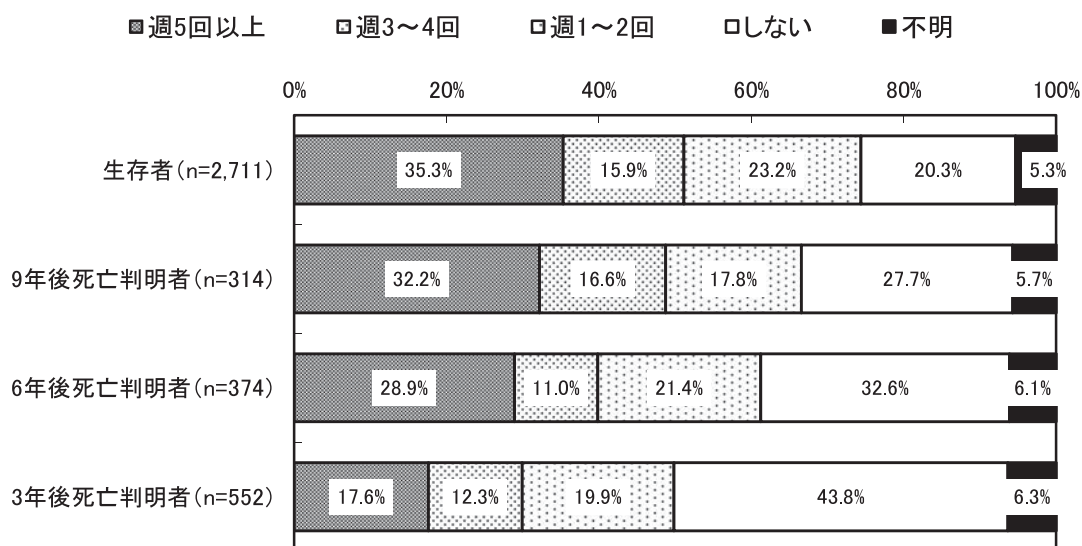


図85 歩行 - 男性

<歩行 - 女性>

「外出などで、1日合計30分以上歩くか」の問いに対して、「週5回以上」と回答した者は、生存者1,019人(34.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者46人(27.1%)、6年後に死亡が判明した者43人(23.0%)、3年後に死亡が判明した者45人(18.3%)だった。

一方、「しない」と回答した者は、生存者568人(19.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者56人(32.9%)、6年後に死亡が判明した者73人(39.0%)、3年後に死亡が判明した者99人(40.2%)だった。

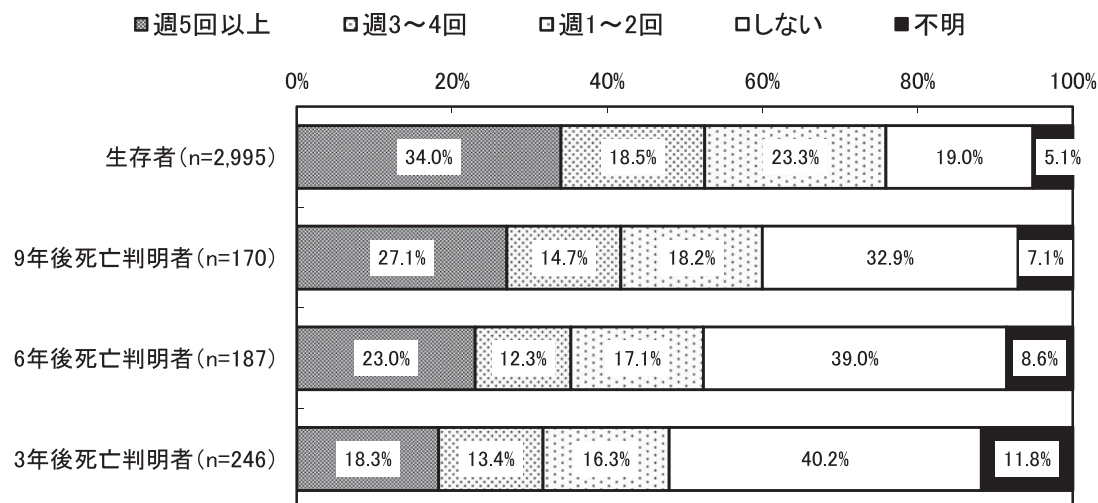


図86 歩行 - 女性

(2) 歩く速さ

<歩く速さ - 男性>

「歩く速さは同じ年齢の人に比べて速い方だと思うか」の問いに対して、「他人より速い」と回答した者は、生存者875人(32.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者10人(3.2%)、6年後に死亡が判明した者19人(5.1%)、3年後に死亡が判明した者45人(8.2%)だった。

一方、「他人より遅い」と回答した者は、生存者405人(14.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者126人(40.1%)、6年後に死亡が判明した者158人(42.2%)、3年後に死亡が判明した者137人(24.8%)だった。

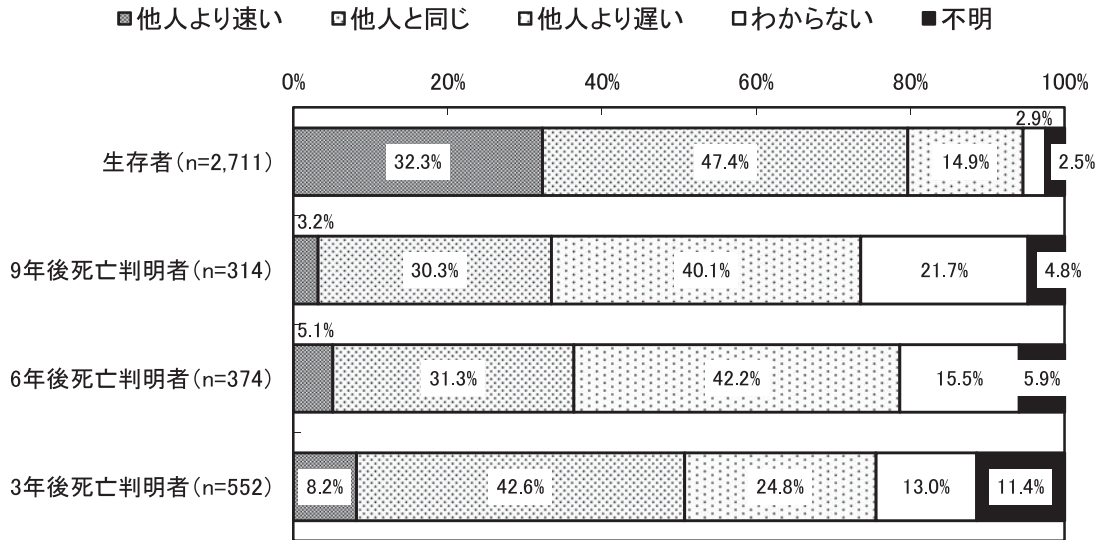


図87 歩く速さ－男性

<歩く速さ - 女性>

「歩く速さは同じ年齢の人に比べて速い方だと思うか」の問いに対して、「他人より速い」と回答した者は、生存者777人(25.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者10人(5.9%)、6年後に死亡が判明した者12人(6.4%)、3年後に死亡が判明した者27人(11.0%)だった。

一方、「他人より遅い」と回答した者は、生存者652人(21.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者59人(34.7%)、6年後に死亡が判明した者53人(28.3%)、3年後に死亡が判明した者65人(26.4%)だった。

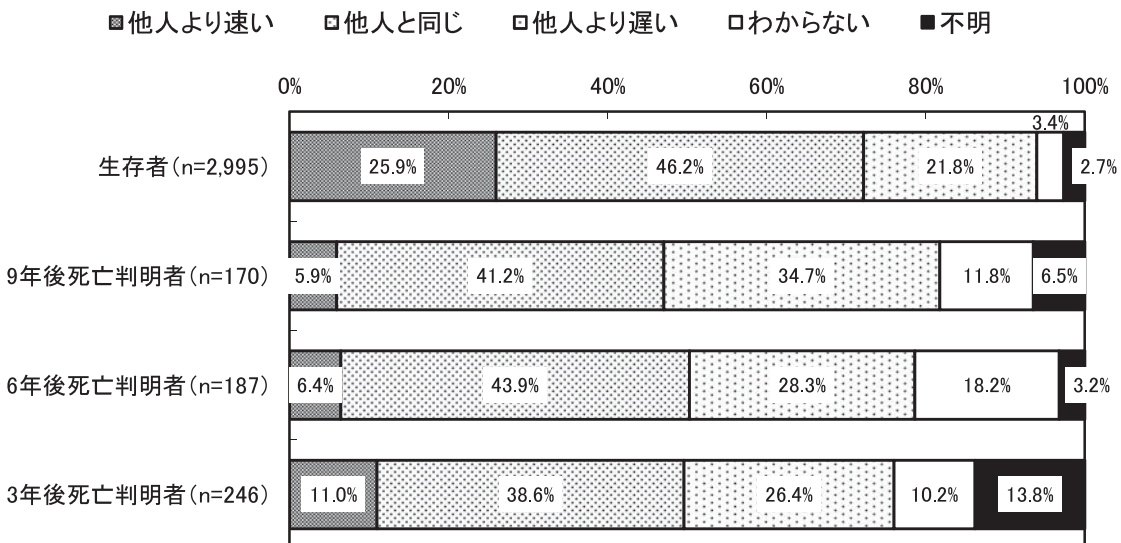


図88 歩く速さ－女性

(3) 運動習慣

<運動習慣 - 男性>

「1日に30分以上の運動をしているか」の問いに対して、「週5回以上」と回答した者は、生存者956人(35.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者101人(32.2%)、6年後に死亡が判明した者46人(27.1%)、3年後に死亡が判明した者45人(18.3%)だった。

一方、「しない」と回答した者は、生存者550人(20.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者87人(27.7%)、6年後に死亡が判明した者56人(32.9%)、3年後に死亡が判明した者99人(40.2%)だった。

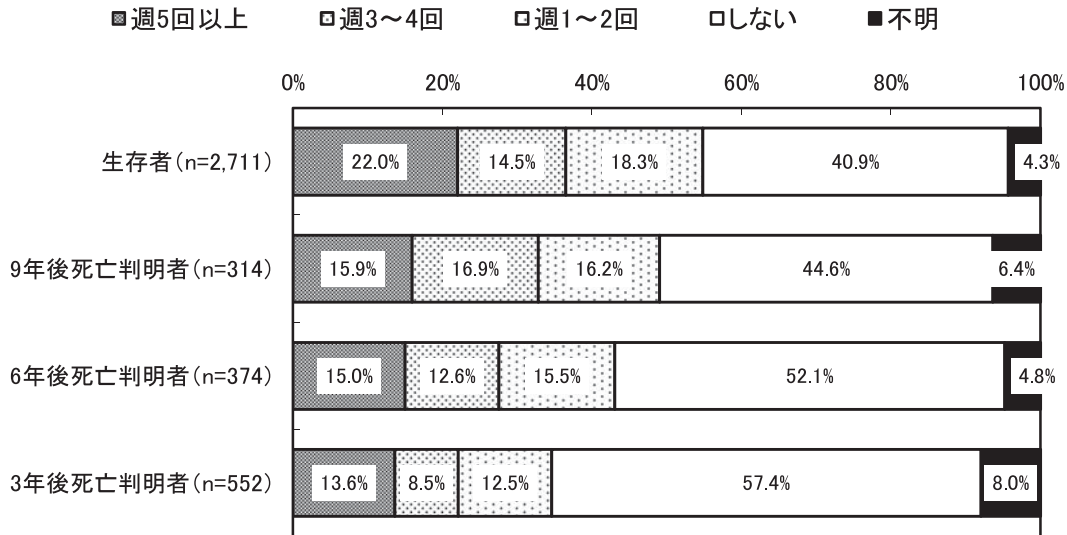


図89 運動習慣—男性

<運動習慣 - 女性>

「1日に30分以上の運動をしているか」の問いに対して、「週5回以上」と回答した者は、生存者497人(16.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者20人(11.8%)、6年後に死亡が判明した者21人(11.2%)、3年後に死亡が判明した者30人(12.2%)だった。

一方、「しない」と回答した者は、生存者1,346人(44.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者98人(57.6%)、6年後に死亡が判明した者101人(54.0%)、3年後に死亡が判明した者148人(60.2%)だった。

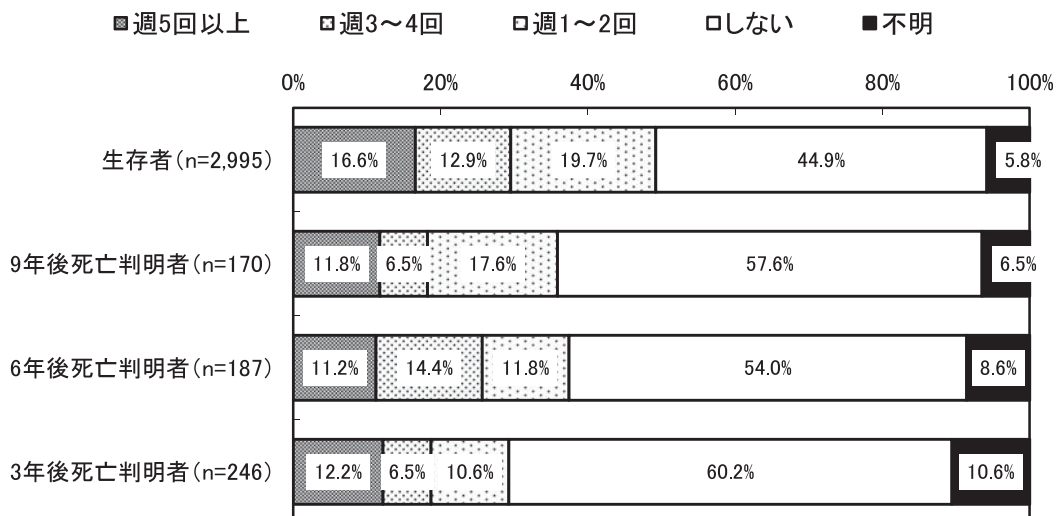


図90 運動習慣—女性

(4) 作業

<体を動かす作業 - 男性>

「1日に合計30分以上の体を動かす作業をしているか」の問いに対して、「週5回以上」と回答した者は、生存者1,343人(49.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者136人(43.3%)、6年後に死亡が判明した者138人(36.9%)、3年後に死亡が判明した者119人(21.6%)だった。

一方、「しない」と回答した者は、生存者303人(11.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者46人(14.6%)、6年後に死亡が判明した者87人(23.3%)、3年後に死亡が判明した者229人(41.5%)だった。

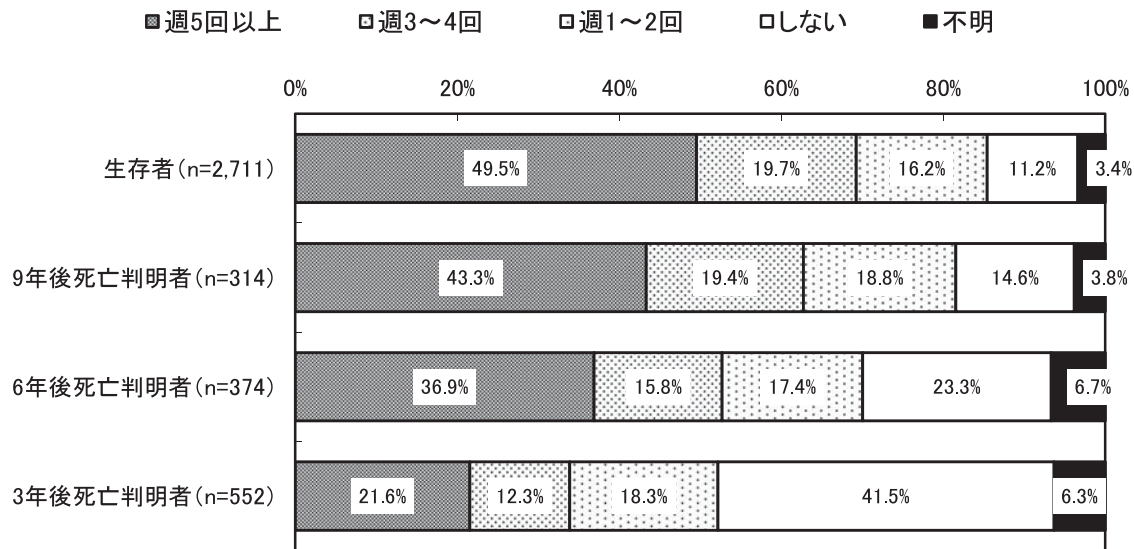


図91 体を動かす作業 - 男性

<体を動かす作業 - 女性>

「1日に合計30分以上の体を動かす作業をしているか」の問いに対して、「週5回以上」と回答した者は、生存者2,000人(66.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者80人(47.1%)、6年後に死亡が判明した者77人(41.2%)、3年後に死亡が判明した者67人(27.2%)だった。

一方、「しない」と回答した者は、生存者174人(5.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者35人(20.6%)、6年後に死亡が判明した者62人(33.2%)、3年後に死亡が判明した者91人(37.0%)だった。

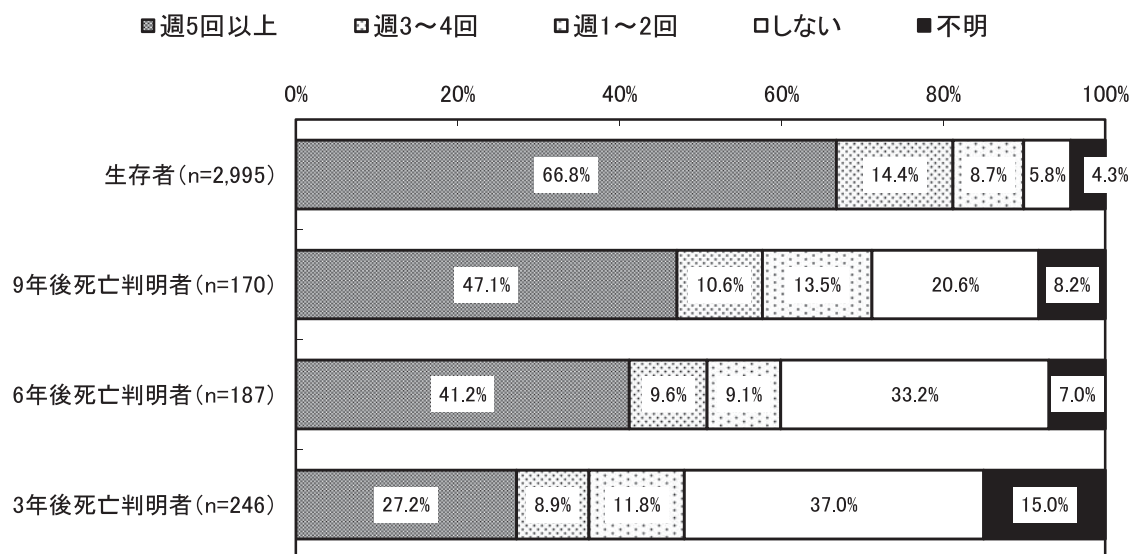


図92 体を動かす作業 - 女性

13 食事摂取状況

(1) 食事の回数

<食事の回数 - 男性>

「1日の食事の回数は何回だったか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「1日3回」と回答した者は、生存者2,589人(95.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者287人(91.4%)、6年後に死亡が判明した者345人(92.2%)、3年後に死亡が判明した者491人(88.9%)だった。

一方、「1日2回」と回答した者は、生存者48人(1.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者9人(2.9%)、6年後に死亡が判明した者15人(4.0%)、3年後に死亡が判明した者31人(5.6%)だった。

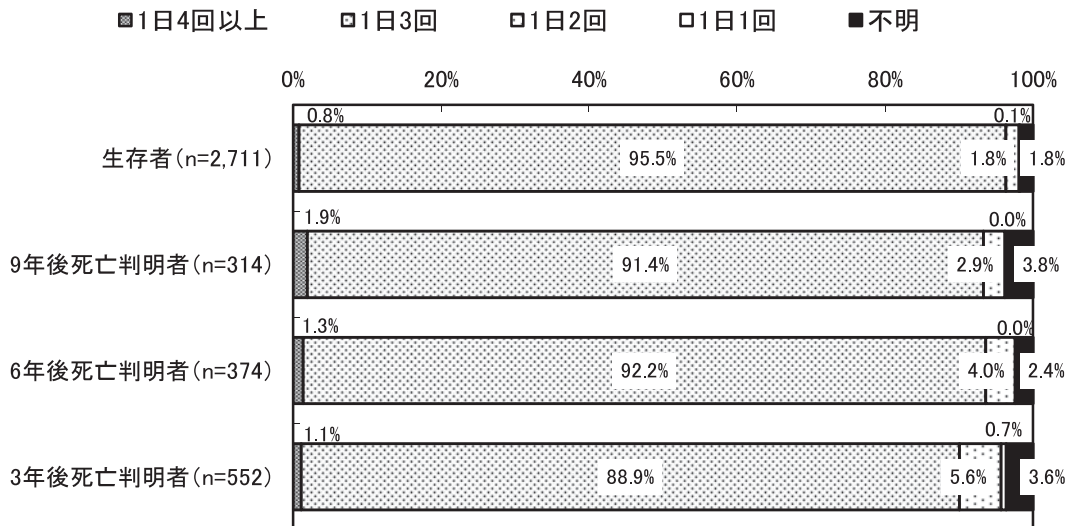


図93 食事の回数－男性

<食事の回数 - 女性>

「1日の食事の回数は何回だったか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「1日3回」と回答した者は、生存者2,895人(96.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者160人(94.1%)、6年後に死亡が判明した者184人(98.4%)、3年後に死亡が判明した者221人(89.8%)だった。

一方、「1日2回」と回答した者は、生存者42人(1.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者4人(2.4%)、6年後に死亡が判明した者3人(1.6%)、3年後に死亡が判明した者8人(3.3%)だった。

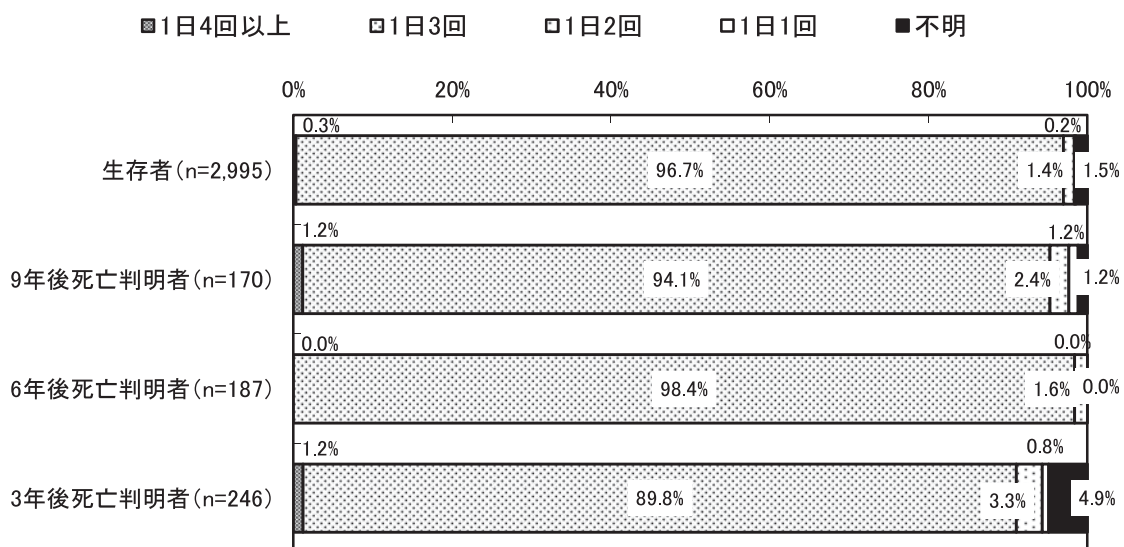


図94 食事の回数－女性

(2) 肉・魚・大豆製品・卵の摂取

<肉・魚・大豆製品・卵の摂取 - 男性>

「肉・魚・大豆食品・卵などを含むおかずを食べたか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「1日3回以上」と回答した者は、生存者1,134人(41.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者113人(36.0%)、6年後に死亡が判明した者152人(40.6%)、3年後に死亡が判明した者213人(38.6%)だった。

一方、「1日2回」と回答した者は、生存者758人(28.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者99人(31.5%)、6年後に死亡が判明した者120人(32.1%)、3年後に死亡が判明した者151人

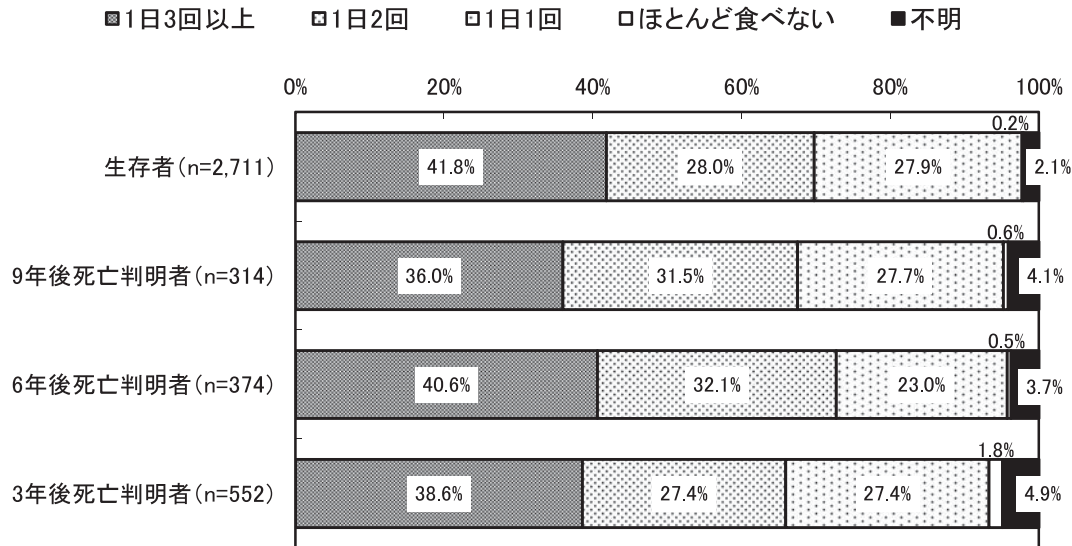


図95 肉・魚・大豆製品・卵の摂取 - 男性

<肉・魚・大豆製品・卵の摂取 - 女性>

「肉・魚・大豆食品・卵などを含むおかずを食べたか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「1日3回以上」と回答した者は、生存者1,204人(40.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者55人(32.4%)、6年後に死亡が判明した者78人(41.7%)、3年後に死亡が判明した者97人(39.4%)だった。

一方、「1日2回」と回答した者は、生存者966人(32.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者47人(27.6%)、6年後に死亡が判明した者43人(23.0%)、3年後に死亡が判明した者59人(24.0%)

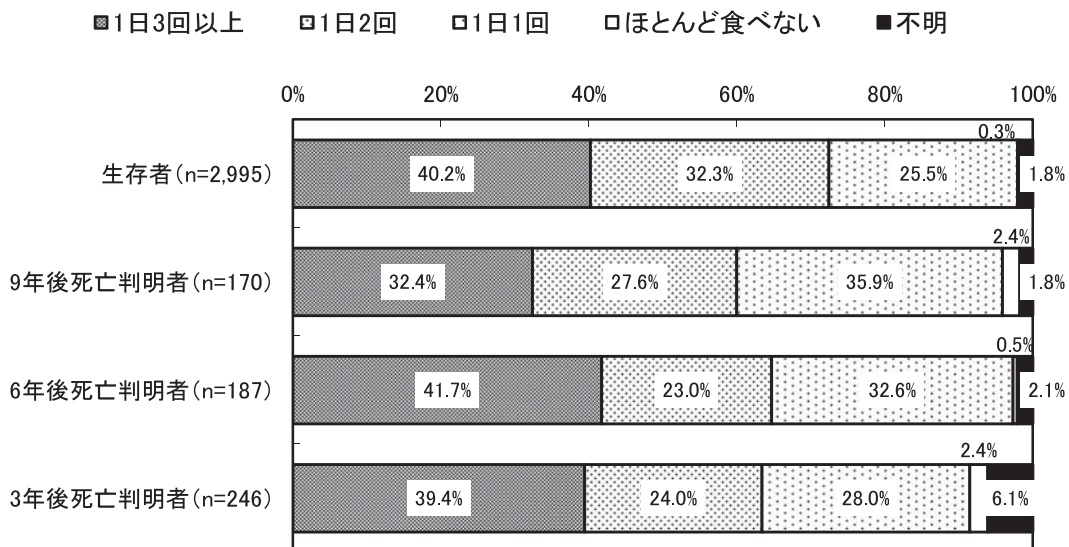


図96 肉・魚・大豆製品・卵の摂取 - 女性

(3) 野菜の摂取

<野菜の摂取 - 男性>

「毎日野菜を食べたか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「1日3回以上」と回答した者は、生存者1,512人(55.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者159人(50.6%)、6年後に死亡が判明した者187人(50.0%)、3年後に死亡が判明した者266人(48.2%)だった。

一方、「1日2回」と回答した者は、生存者647人(23.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者87人(27.7%)、6年後に死亡が判明した者104人(27.8%)、3年後に死亡が判明した者141人(25.5%)だった。

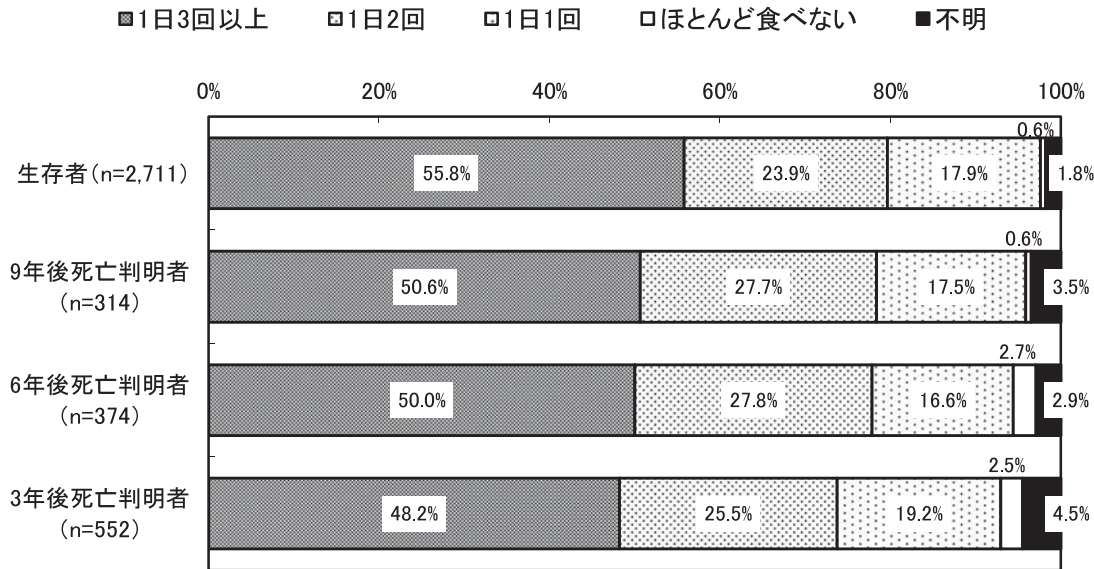


図97 野菜の摂取－男性

<野菜の摂取 - 女性>

「毎日野菜を食べたか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「1日3回以上」と回答した者は、生存者1,952人(65.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者95人(55.9%)、6年後に死亡が判明した者115人(61.5%)、3年後に死亡が判明した者131人(53.3%)だった。

一方、「1日2回」と回答した者は、生存者678人(22.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者42人(24.7%)、6年後に死亡が判明した者49人(26.2%)、3年後に死亡が判明した者56人(22.8%)だった。

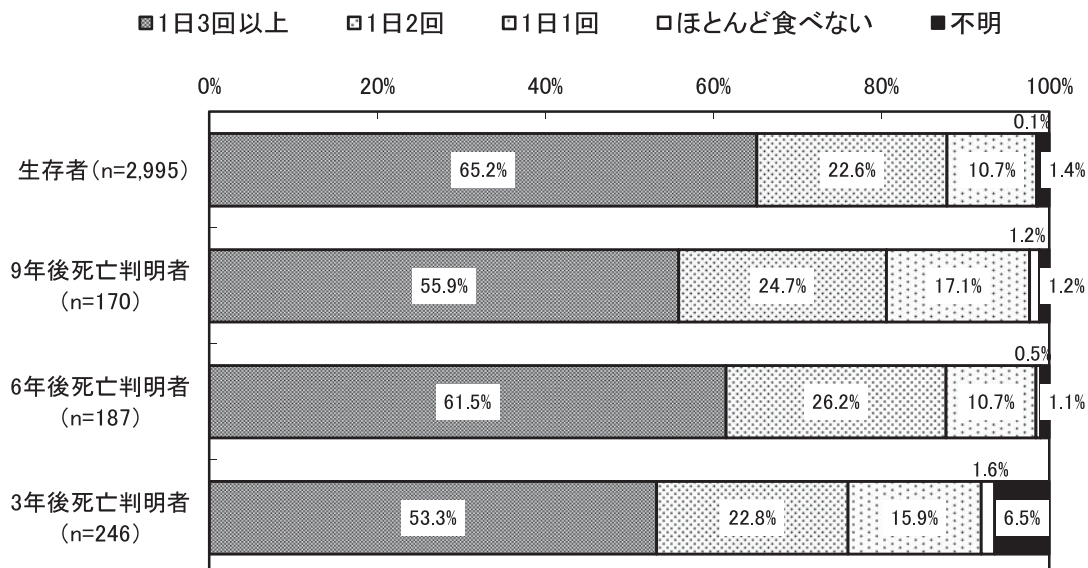


図98 野菜の摂取－女性

(4) 緑茶の飲用

<緑茶の飲用 - 男性>

「緑茶は1日何杯くらい飲んだか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「7杯以上」と回答した者は、生存者733人(27.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者76人(24.2%)、6年後に死亡が判明した者89人(23.8%)、3年後に死亡が判明した者99人(17.9%)だった。

一方、「1日4~6杯」と回答した者は、生存者1,226人(45.2%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者138人(43.9%)、6年後に死亡が判明した者172人(46.0%)、3年後に死亡が判明した者215人(38.9%)だった。

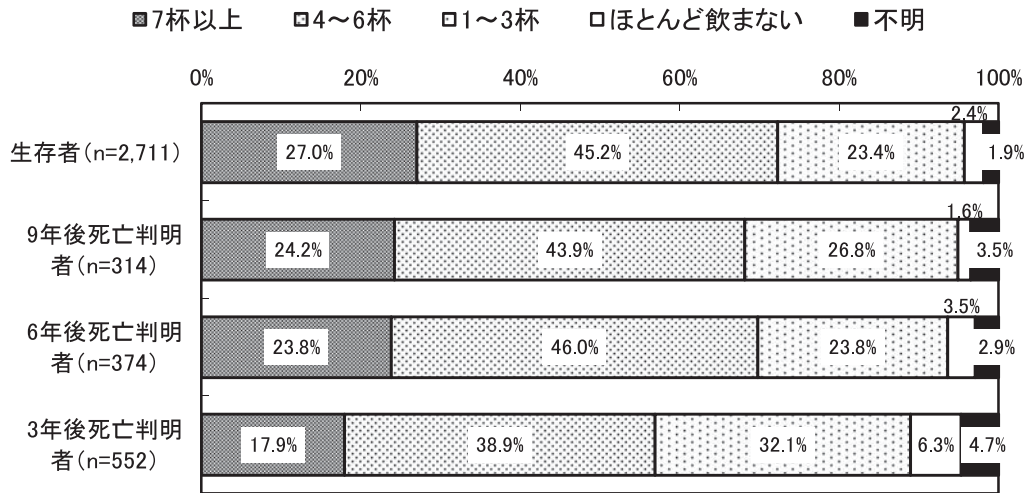


図99 緑茶の飲用 - 男性

<緑茶の飲用 - 女性>

「緑茶は1日何杯くらい飲んだか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「7杯以上」と回答した者は、生存者771人(25.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者30人(17.6%)、6年後に死亡が判明した者26人(13.9%)、3年後に死亡が判明した者34人(13.8%)だった。

一方、「1日4~6杯」と回答した者は、生存者1,588人(53.0%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者86人(50.6%)、6年後に死亡が判明した者106人(56.7%)、3年後に死亡が判明した者95人(38.6%)だった。

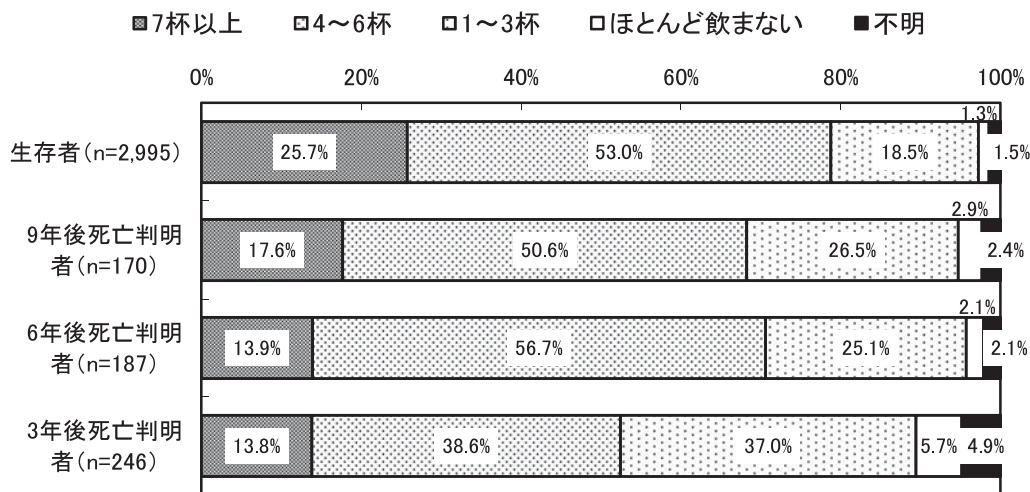


図100 緑茶の飲用 - 女性

(5) 食欲

<食欲 - 男性>

「食欲はありますか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者2,508人(92.5%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者278人(88.5%)、6年後に死亡が判明した者317人(84.8%)、3年後に死亡が判明した者419人(75.9%)だった。

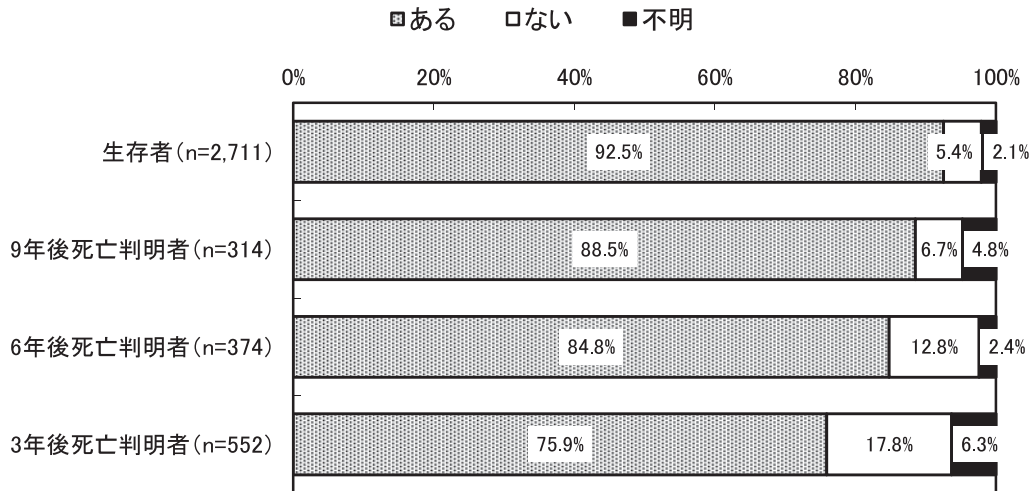


図101 食欲－男性

<食欲 - 女性>

「食欲はありますか(ここ1ヶ月の間)」の問いに対して、「はい(ある)」と回答した者は、生存者2,773人(92.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者147人(86.5%)、6年後に死亡が判明した者162人(86.6%)、3年後に死亡が判明した者190人(77.2%)だった。

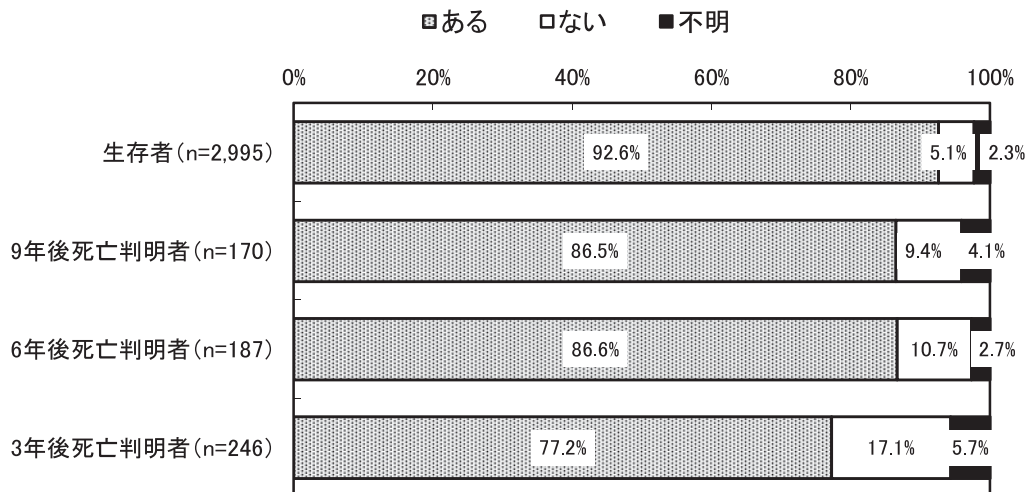


図102 食欲－女性

14 飲酒状況

<飲酒状況 - 男性>

「お酒は飲むか」の問いに対して、「飲まない(またはほとんど飲まない)」と回答した者は、生存者1,110人(40.9%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者139人(44.3%)、6年後に死亡が判明した者207人(55.3%)、3年後に死亡が判明した者324人(58.7%)だった。

一方、「毎日」と回答した者は、生存者967人(35.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者92人(29.3%)、6年後に死亡が判明した者107人(28.6%)、3年後に死亡が判明した者128人(23.2%)だった。

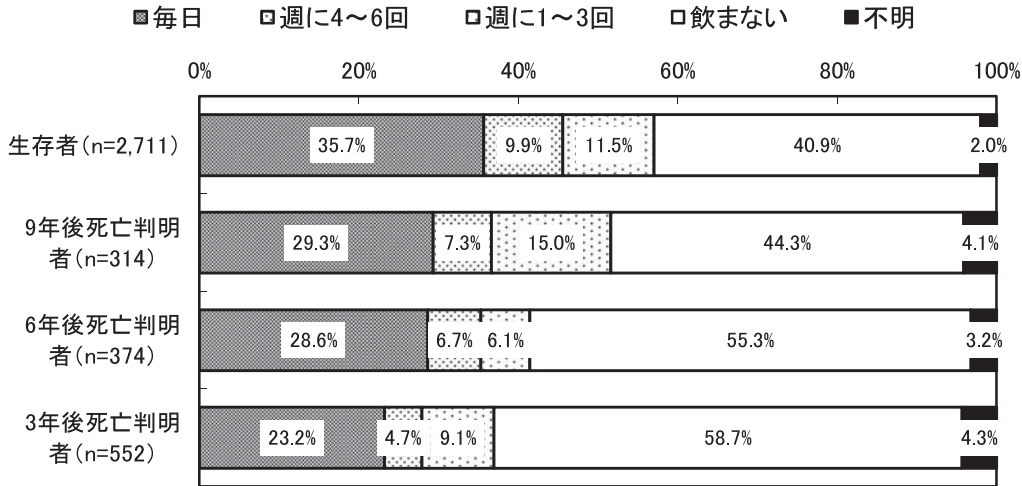


図103 飲酒状況－男性

<飲酒状況 - 女性>

「お酒は飲むか」の問いに対して、「飲まない(またはほとんど飲まない)」と回答した者は、生存者2,537人(84.7%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者142人(83.5%)、6年後に死亡が判明した者164人(87.7%)、3年後に死亡が判明した者216人(87.8%)だった。

一方、「毎日」と回答した者は、生存者73人(2.4%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者6人(3.5%)、6年後に死亡が判明した者11人(5.9%)、3年後に死亡が判明した者4人(1.6%)だった。

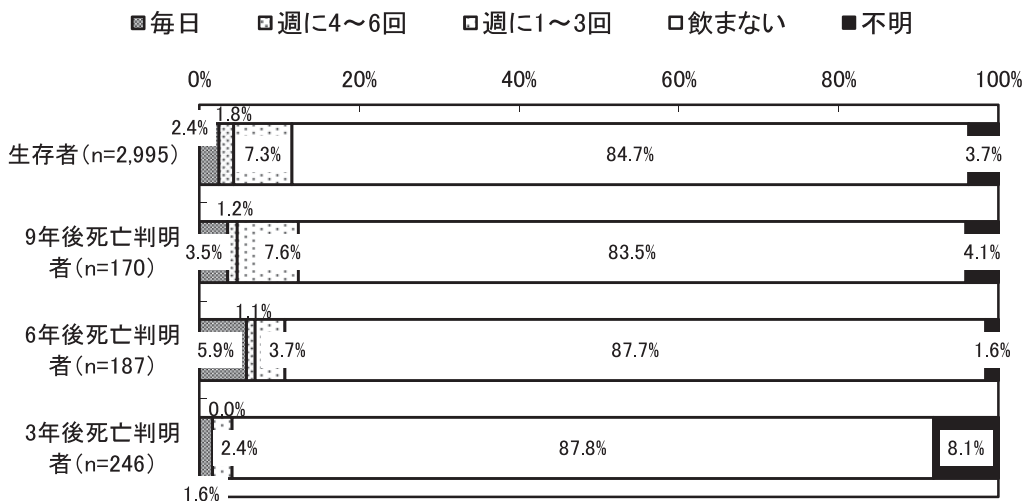


図104 飲酒状況－女性

15 喫煙状況

<喫煙状況 - 男性>

「たばこは吸うか」の問いに対して、「吸わない」と回答した者は、生存者1,281人(47.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者132人(42.2%)、6年後に死亡が判明した者176人(47.1%)、3年後に死亡が判明した者249人(45.1%)だった。

一方、「吸っている」と回答した者は、生存者727人(26.8%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者93人(29.6%)、6年後に死亡が判明した者102人(27.3%)、3年後に死亡が判明した者150人(27.2%)だった。

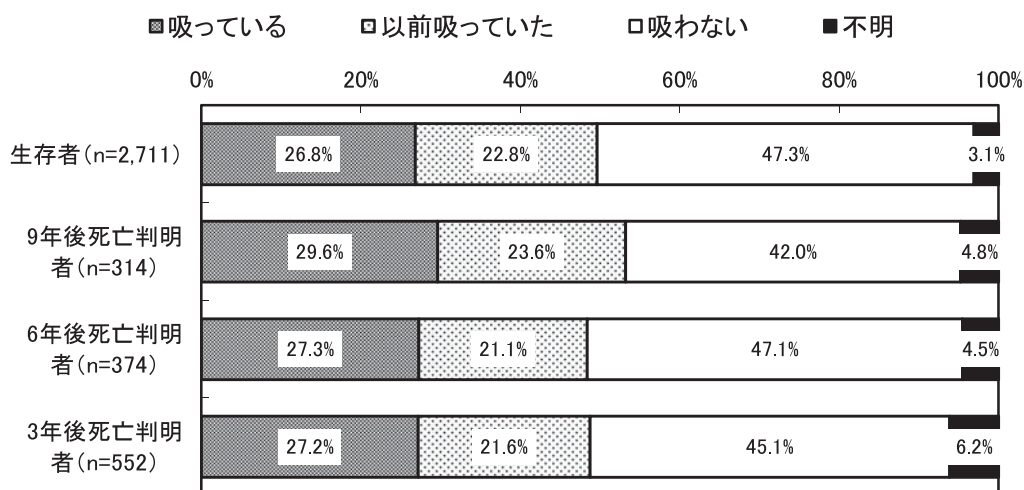


図105 喫煙状況—男性

<喫煙状況 - 女性>

「たばこは吸うか」の問いに対して、「吸わない」と回答した者は、生存者2,802人(93.6%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者154人(90.6%)、6年後に死亡が判明した者174人(93.0%)、3年後に死亡が判明した者201人(81.7%)だった。

一方、「吸っている」と回答した者は、生存者70人(2.3%)、第1回調査から9年後に死亡が判明した者6人(3.5%)、6年後に死亡が判明した者8人(4.3%)、3年後に死亡が判明した者8人(3.3%)だった。

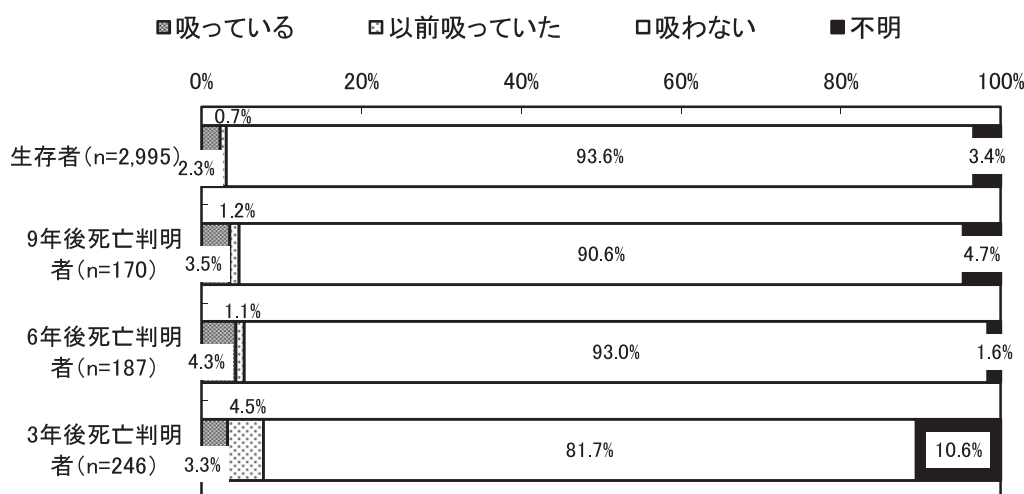


図106 喫煙状況—女性

16 分析結果一覧(1)

分類	図番号	調査項目または質問内容	調査項目*生死状況		
			χ^2 値	有意差	
1	対象者の概要	1	年齢区分と生死状況のクロス集計(男性)	358.01	**
		2	年齢区分と生死状況のクロス集計(女性)	296.59	**
3	移動状況	5	移動状況と生死状況のクロス集計(男性)	813.98	**
		6	移動状況と生死状況のクロス集計(女性)	865.39	**
5	健康診断の受診状況	9	「定期的に健康診断を受けているか」(男性)	92.25	**
		10	「定期的に健康診断を受けているか」(女性)	130.42	**
8	生活満足度	15	「現在の生活に満足しているか」(男性)	186.53	**
		16	「現在の生活に満足しているか」(女性)	119.80	**
		17	「健康だと感じているか」(男性)	351.78	**
		18	「健康だと感じているか」(女性)	244.60	**
		19	「体調がすぐれないことが多いか」(男性)	275.87	**
		20	「体調がすぐれないことが多いか」(女性)	178.16	**
		21	「毎日気分よく過ごせるか」(男性)	327.51	**
		22	「毎日気分よく過ごせるか」(女性)	246.62	**
		23	「元気だと感じているか」(男性)	377.37	**
		24	「元気だと感じているか」(女性)	280.95	**
		25	「将来に不安を感じているか」(男性)	102.06	**
		26	「将来に不安を感じているか」(女性)	66.55	**
		27	「寂しいと感じることがあるか」(男性)	181.36	**
		28	「寂しいと感じることがあるか」(女性)	109.81	**
		29	「自分が無力だと感じることもあるか」(男性)	230.00	**
		30	「自分が無力だと感じることもあるか」(女性)	95.42	**
		31	「気分が落ち込むことがあるか」(男性)	189.82	**
		32	「気分が落ち込むことがあるか」(女性)	111.57	**
		33	「将来に夢や希望があるか」(男性)	158.56	**
		34	「将来に夢や希望があるか」(女性)	116.73	**
		35	「生きがいを持っているか」(男性)	267.03	**
		36	「生きがいを持っているか」(女性)	184.80	**
		37	「毎日の生活で気力を感じているか」(男性)	295.34	**
		38	「毎日の生活で気力を感じているか」(女性)	164.32	**
		39	「周りの人とうまくいっているか」(男性)	154.95	**
		40	「周りの人とうまくいっているか」(女性)	163.89	**
		41	「友人との付き合いに満足しているか」(男性)	209.63	**
		42	「友人との付き合いに満足しているか」(女性)	221.50	**
		43	「家族との付き合いに満足しているか」(男性)	92.87	**
		44	「家族との付き合いに満足しているか」(女性)	88.54	**
		45	「気楽に用事を頼める人がいるか」(男性)	50.42	**
		46	「気楽に用事を頼める人がいるか」(女性)	76.10	**
47	「近所付き合いに満足しているか」(男性)	119.69	**		
48	「近所付き合いに満足しているか」(女性)	123.83	**		
49	「ある程度お金に余裕があるか」(男性)	56.41	**		
50	「ある程度お金に余裕があるか」(女性)	21.91	**		
51	「小遣い満足しているか」(男性)	40.82	**		
52	「小遣い満足しているか」(女性)	37.09	**		
53	「何かの時のためにお金の蓄えがあるか」(男性)	57.67	**		
54	「何かの時のためにお金の蓄えがあるか」(女性)	45.73	**		

有意差 **:P<0.01

※ この表は、各図(4~61ページ)における検定統計量及び有意確率を一覧で示している。分析方法は、3ページを参照。

※ 複数回答による質問項目については、検定を行っていない。

分析結果一覧(2)

分類	図番号	調査項目または質問内容	調査項目*生死状況	
			χ^2 値	有意差
9	社会活動	55 収入を得る仕事の頻度(男性)	165.41	**
		56 収入を得る仕事の頻度(女性)	66.57	**
		57 家事等収入を得ない仕事・作業の頻度(男性)	177.22	**
		58 家事等収入を得ない仕事・作業の頻度(女性)	226.36	**
		59 ボランティア活動など地域活動の頻度(男性)	102.40	**
		60 ボランティア活動など地域活動の頻度(女性)	63.55	**
		61 自分以外の人の用事や世話の頻度(男性)	98.29	**
		62 自分以外の人の用事や世話の頻度(女性)	99.45	**
		63 市民講座等、学習的活動の参加状況(男性)	67.93	**
		64 市民講座等、学習的活動の参加状況(女性)	121.26	**
10	生活活動力	65 「バスや電車を使ってひとりで外出できるか」(男性)	616.14	**
		66 「バスや電車を使ってひとりで外出できるか」(女性)	497.93	**
		67 「日用品の買い物が自分でできるか」(男性)	618.45	**
		68 「日用品の買い物が自分でできるか」(女性)	545.97	**
		69 「食事の支度が自分でできるか」(男性)	309.67	**
		70 「食事の支度が自分でできるか」(女性)	577.96	**
		71 「自分の身の回りのことができるか」(男性)	405.37	**
		72 「自分の身の回りのことができるか」(女性)	490.82	**
		73 「金銭の管理や計算が自分でできるか」(男性)	373.32	**
		74 「金銭の管理や計算が自分でできるか」(女性)	355.87	**
		75 「宗教的な心を大切にしているか」(男性)	74.12	**
		76 「宗教的な心を大切にしているか」(女性)	61.89	**
		77 「生活時間は規則的であるか」(男性)	86.70	**
		78 「生活時間は規則的であるか」(女性)	65.09	**
		79 「趣味を持っているか」(男性)	208.94	**
		80 「趣味を持っているか」(女性)	193.39	**
11	睡眠状況	81 1日あたりの睡眠時間(男性)	236.20	**
		82 1日あたりの睡眠時間(女性)	171.79	**
12	身体活動	85 1日あたり30分以上の歩行の頻度(男性)	171.61	**
		86 1日あたり30分以上の歩行の頻度(女性)	144.24	**
		87 歩く速さの程度(男性)	462.96	**
		88 歩く速さの程度(女性)	264.60	**
		89 1日あたり30分以上の運動の頻度(男性)	95.94	**
		90 1日あたり30分以上の運動の頻度(女性)	63.49	**
		91 1日あたり30分以上の作業の頻度(男性)	380.81	**
		92 1日あたり30分以上の作業の頻度(女性)	495.26	**
13	食事摂取状況	93 1日あたりの食事回数(男性)	56.03	**
		94 1日あたりの食事回数(女性)	45.37	**
		95 1日あたりの肉・魚・大豆摂取頻度(男性)	49.49	**
		96 1日あたりの肉・魚・大豆摂取頻度(女性)	71.87	**
		97 1日あたりの野菜摂取頻度(男性)	52.59	**
		98 1日あたりの野菜摂取頻度(女性)	76.36	**
		99 1日あたりの緑茶摂取頻度(男性)	76.36	**
		100 1日あたりの緑茶摂取頻度(女性)	121.43	**
		101 食欲の有無(男性)	148.68	**
		102 食欲の有無(女性)	77.29	**
14	飲酒状況	103 飲酒頻度(男性)	112.49	**
		104 飲酒頻度(女性)	39.77	**
15	喫煙状況	105 喫煙状況(男性)	16.51	ns
		106 喫煙状況(女性)	71.79	**

有意差 **:P<0.01, ns:有意差なし

※ この表は、各図(4~61ページ)における検定統計量及び有意確率を一覧で示している。分析方法は、3ページを参照。

※ 複数回答による質問項目については、検定を行っていない。